
令和6年度

県政世論調査

香川県

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 回収状況	1
5. サンプル設計	1
6. 集計・分析方法	3
7. 報告書の見方	3
第2章 調査回答者の属性	5
1. 性別	5
2. 年齢	6
3. 職業	7
4. 圏域	8
5. 居住年数	9
第3章 調査の集計結果	11
1. 防災・減災対策について	11
2. 環境施策について	26
3. 食習慣・生活習慣について	45
4. 人権問題について	55
5. 県政の重要度と満足度について	73

<第1章 調査の概要>

第1章 調査の概要

1. 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 防災・減災対策について
- (2) 環境施策について
- (3) 食習慣・生活習慣について
- (4) 人権問題について
- (5) 県政の重要度と満足度について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送配布（回収は郵送とWeb回答の併用）
- (6) 調査時期 令和6年5月28日～6月19日

4. 回収状況

- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 1,369（45.6%）

5. サンプル設計

- (1) 母集団 香川県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150地点（市部：127地点、町部：23地点）
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

【 層 化 】

県内の市町（8市9町）を次のように5圏域に分類した。

圏域名	構成市町
1 高松圏域	高松市・三木町・直島町・綾川町
2 東讃圏域	さぬき市・東かがわ市
3 小豆圏域	土庄町・小豆島町
4 中讃圏域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5 西讃圏域	観音寺市・三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって、

①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

【 標本数の配分 】

各層における母集団数（令和6年3月1日現在の選挙人名簿登録者数）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

【 抽 出 】

- ①第1次抽出単位となる調査地点として、令和6年3月1日現在の投票区を使用した。
- ②調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。
- ③調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

- ④抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。
- ⑤調査地点における対象者の抽出は、調査地点（投票区）内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。
- ⑥以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は、次のとおりである。

【 圏域別・市町規模別 標本数および調査地点数 】 上段:母集団数 下段:標本数、()内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1 高松圏域	350,364 1,319 (66)		44,918 169 (9)	395,282 1,488 (75)
2 東讃圏域		64,166 242 (12)		64,166 242 (12)
3 小豆圏域			22,969 86 (4)	22,969 86 (4)
4 中讃圏域		159,514 601 (30)	54,680 206 (10)	214,194 807 (40)
5 西讃圏域		100,009 377 (19)		100,009 377 (19)

6. 集計・分析方法

集計・分析にあたり、回答者の年齢階層の偏りを補正し、年齢別の集計ウェイトを乗じて標本数を規正（ウェイトバック集計）した。ウェイトバック集計した値は、この規正した標本数を基に回答者の割合（百分比%）等を算出している。なお、規正した標本数は、乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

年齢区分	推定母集団		有効回答数		年齢ウェイト (A/B)
	実数(人)	構成比(%) A	実数(人)	構成比(%) B	
18～19 歳	17,386	2.3	9	0.7	3.34281
20～29 歳	73,497	9.5	79	5.9	1.60989
30～39 歳	88,167	11.4	103	7.7	1.48123
40～49 歳	120,725	15.6	172	12.9	1.21457
50～59 歳	122,779	15.9	239	17.9	0.88896
60～69 歳	112,211	14.5	309	23.1	0.62839
70 歳以上	237,296	30.7	425	31.8	0.96618
合計	772,061	100.0	1,336	100.0	-

※1) 推定母集団は、令和5年10月時点

※2) 構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

※3) 年齢ウェイトは、小数点以下を含んだ各構成比から算出しており、小数点以下第2位を四捨五入した各構成比から算出したカッコ内の数値とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第2位を四捨五入した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対し、それぞれの割合を示している。このために、その比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。また、設問で回答がなかった選択肢について、図中の比率表記(0.0%)を省略している。
- (4) 本文、図表、集計表に用いた符号等の意味は次のとおりである。

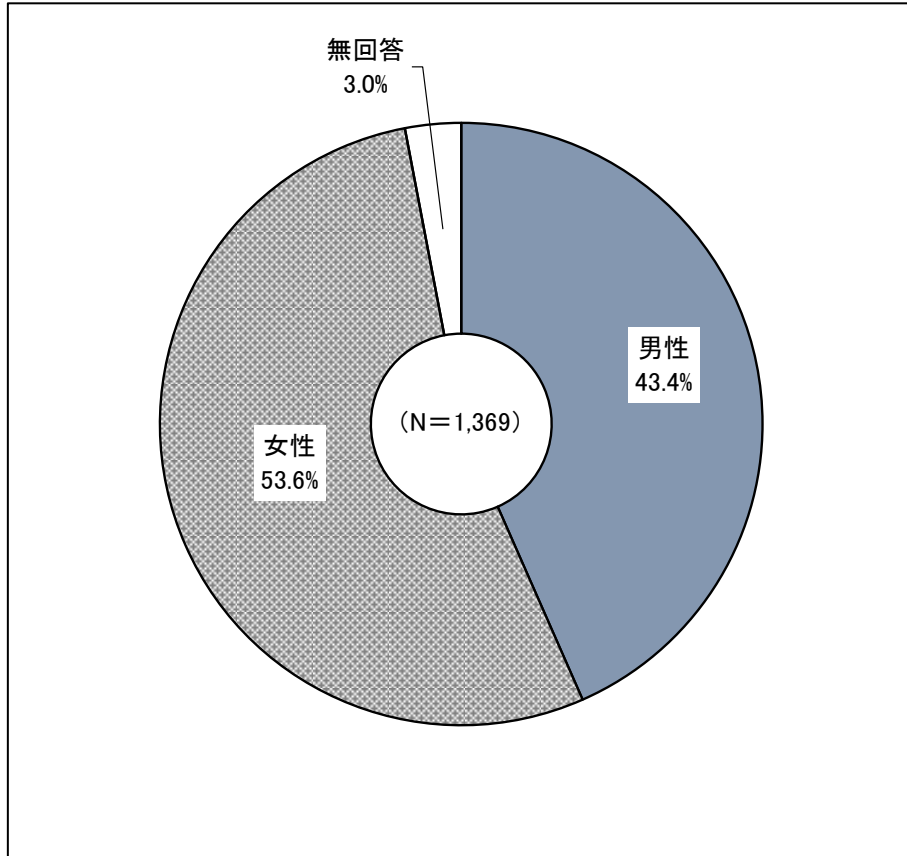
N：質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数

<第2章 調査回答者の属性>

第2章 調査回答者の属性

1. 性別

性別について、「男性」43.4%、「女性」53.6%となっている。

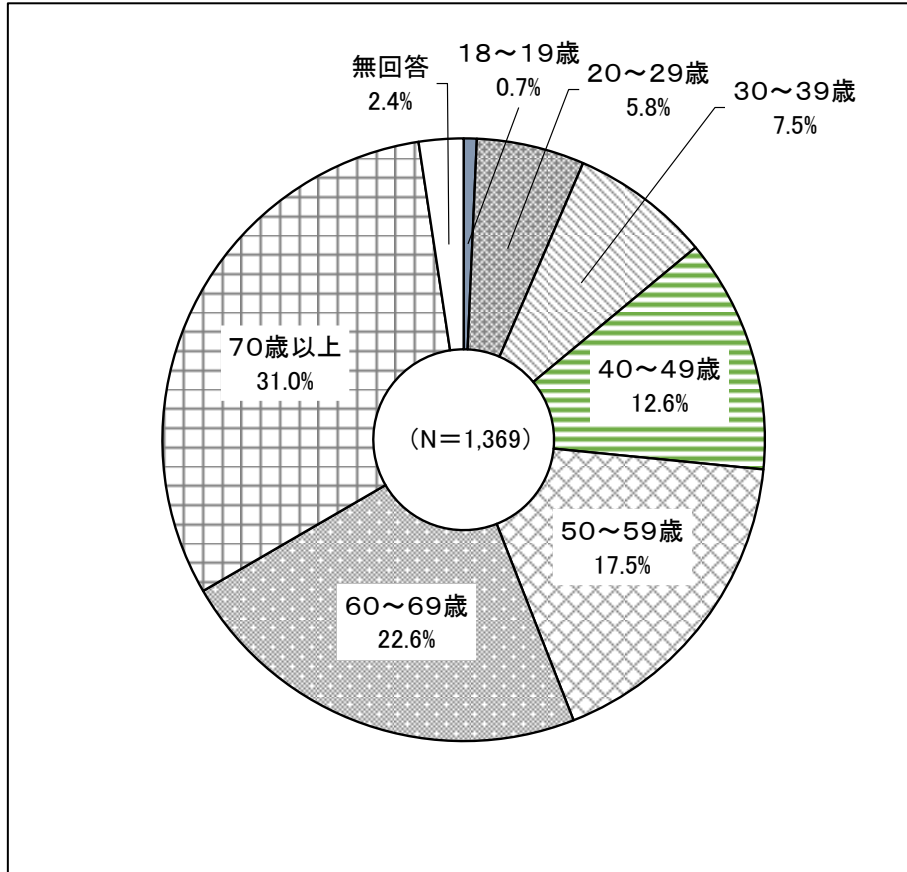


項目	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	594 (586)	43.4 (42.8)
女性	734 (741)	53.6 (54.1)
(無回答)	41 (42)	3.0 (3.1)
計	1,369 (1,369)	100.0 (100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

2. 年齢

年齢について、「70歳以上」31.0%が最も高く、次いで「60～69歳」22.6%、「50～59歳」17.5%、「40～49歳」12.6%などとなっている。

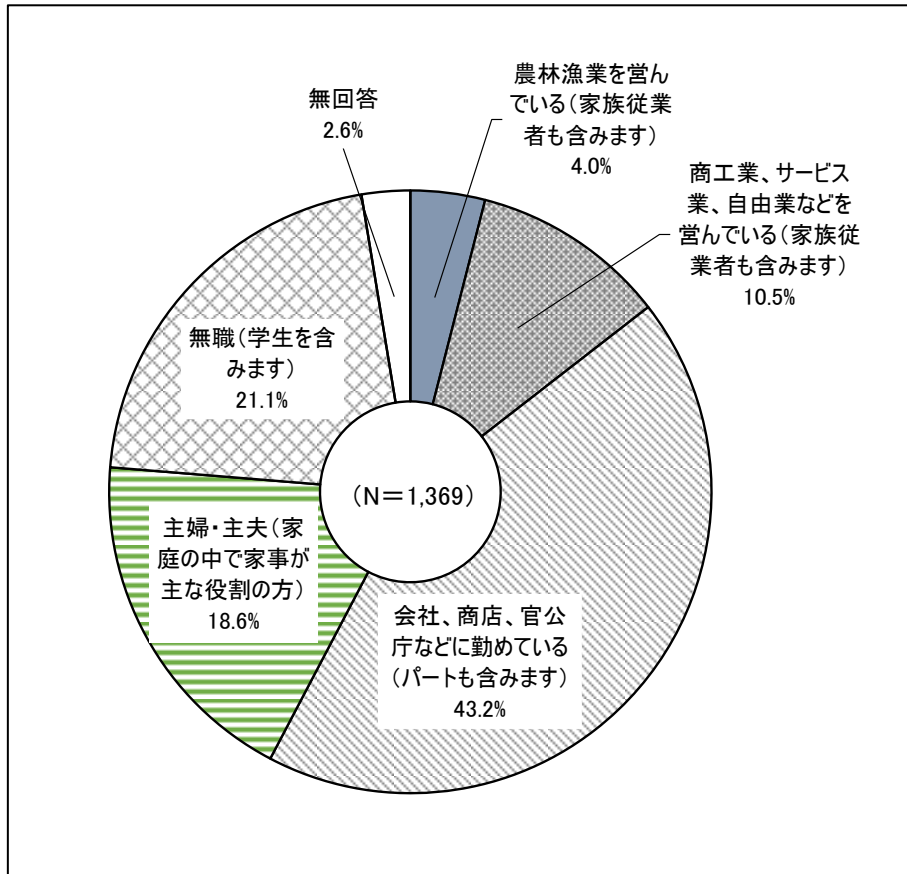


項目	回答数 (人)	構成比 (%)
18～19歳	9 (30)	0.7 (2.2)
20～29歳	79 (127)	5.8 (9.3)
30～39歳	103 (153)	7.5 (11.1)
40～49歳	172 (209)	12.6 (15.3)
50～59歳	239 (212)	17.5 (15.5)
60～69歳	309 (194)	22.6 (14.2)
70歳以上	425 (411)	31.0 (30.0)
(無回答)	33 (33)	2.4 (2.4)
計	1,369 (1,369)	100.0 (100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

3. 職業

職業について、「会社、商店、官公庁などに勤務」43.2%が最も高く、次いで「無職」21.1%、「主婦・主夫」18.6%、「商工業、サービス業、自由業など」10.5%、「農林漁業」4.0%となっている。

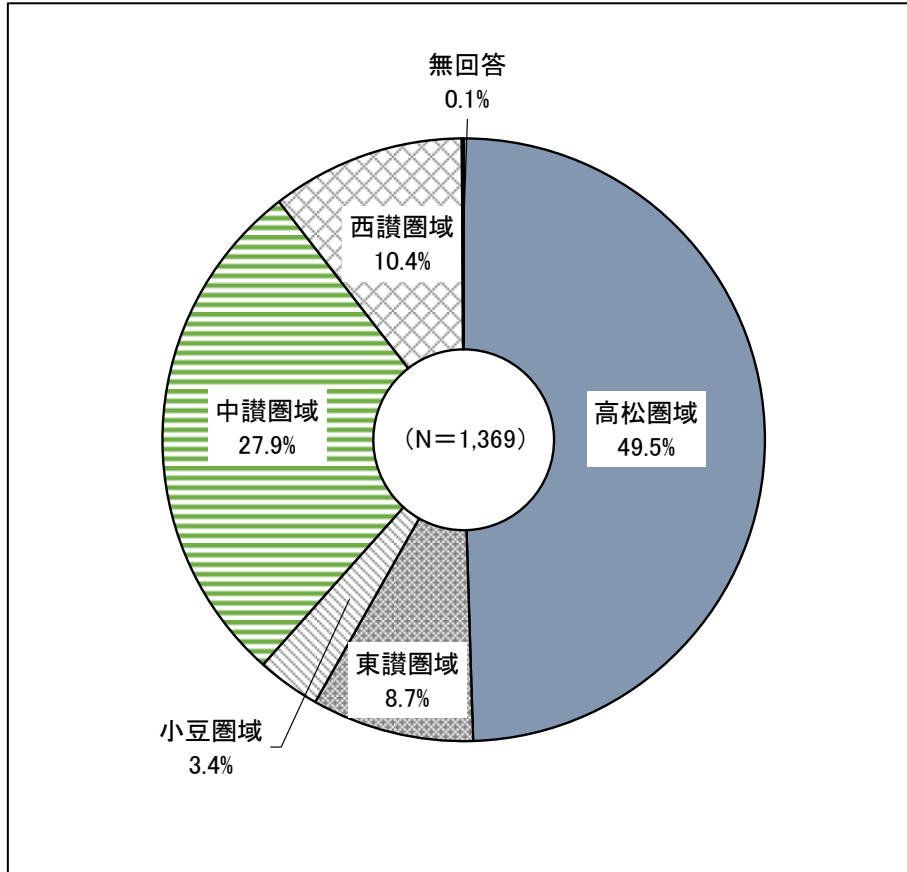


項目	回答数 (人)	構成比 (%)
農林漁業	55 (51)	4.0 (3.8)
商工業、サービス業、自由業など	144 (149)	10.5 (10.9)
会社、商店、官公庁などに勤務	591 (609)	43.2 (44.5)
主婦・主夫	255 (232)	18.6 (16.9)
無職	289 (293)	21.1 (21.4)
(無回答)	35 (36)	2.6 (2.6)
計	1,369(1,369)	100.0(100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

4. 圏域

圏域について、「高松圏域」49.5%が最も高く、次いで「中讃圏域」27.9%、「西讃圏域」10.4%、「東讃圏域」8.7%、「小豆圏域」3.4%となっている。

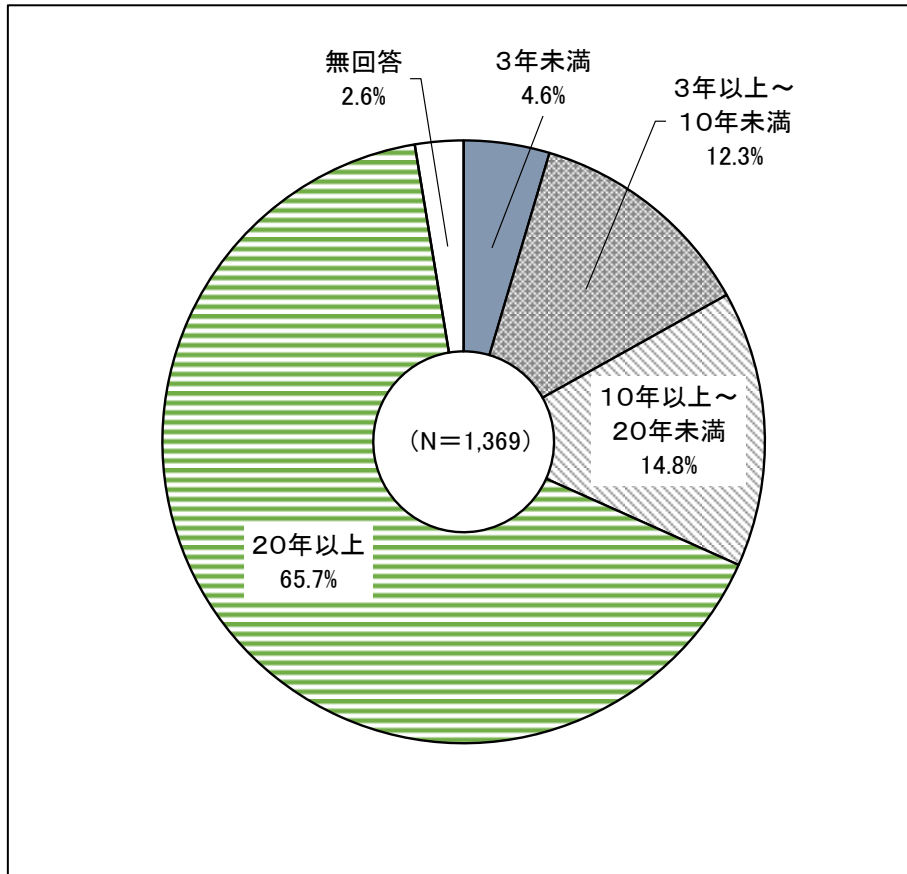


項目	回答数 (人)	構成比 (%)
高松圏域	677 (666)	49.5 (48.6)
東讃圏域	119 (113)	8.7 (8.3)
小豆圏域	46 (47)	3.4 (3.4)
中讃圏域	382 (399)	27.9 (29.1)
西讃圏域	143 (142)	10.4 (10.4)
(無回答)	2 (3)	0.1 (0.2)
計	1,369(1,369)	100.0(100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

5. 居住年数

居住年数について、「20年以上」65.7%が最も高く、次いで「10年以上～20年未満」14.8%、「3年以上～10年未満」12.3%、「3年未満」4.6%となっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
3年未満	63 (83)	4.6 (6.1)
3年以上～10年未満	169 (193)	12.3 (14.1)
10年以上～20年未満	203 (236)	14.8 (17.2)
20年以上	899 (821)	65.7 (60.0)
(無回答)	35 (35)	2.6 (2.6)
計	1,369 (1,369)	100.0 (100.0)

※ () 内の数字はウェイトバックした値

<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. 防災・減災対策について

(1) 津波による浸水の想定について

問1 ご自宅は、お住まいの市町が公開している津波ハザードマップなどで津波による浸水が想定されていますか。次の中から1つだけ選んでください。

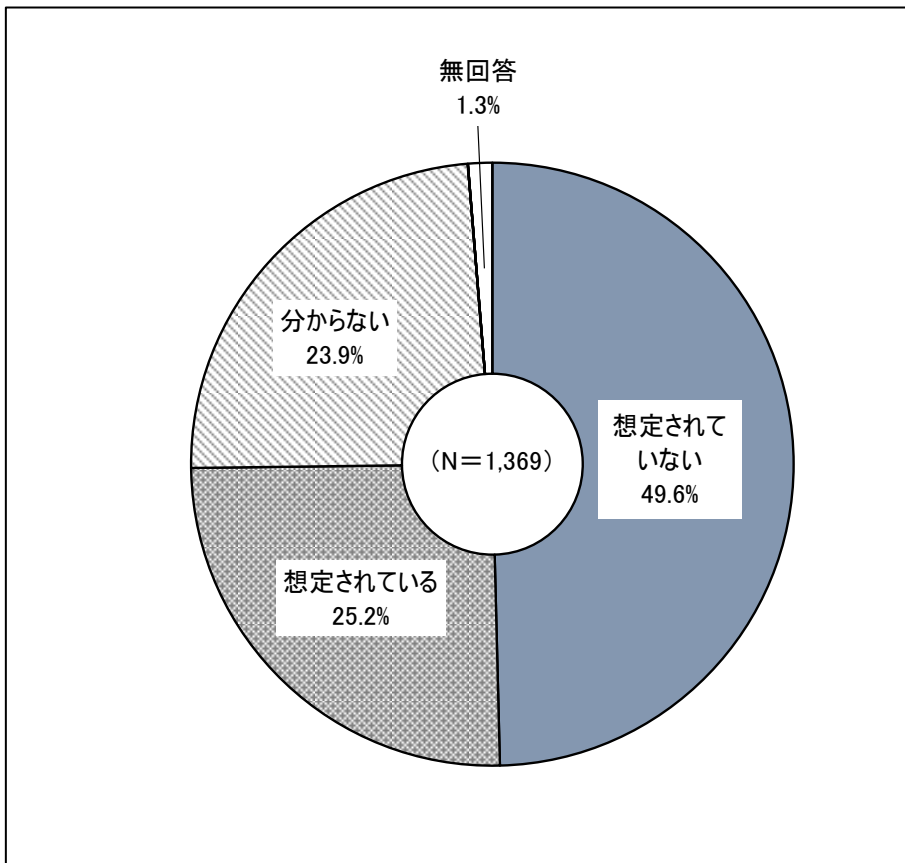
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 想定されていない	49.6%(48.6%)
2 想定されている	25.2%(24.8%)
3 分からない	23.9%(25.4%)
(無回答)	1.3%(1.2%)

津波による浸水の想定について、「想定されていない」49.6%、「想定されている」25.2%、「分からない」23.9%となっている。

図表 1-(1)-1 津波による浸水の想定について



(2) 避難のタイミングについて

【問1で「2」または「3」と答えた方にお聞きします】

付問1 あなたが自宅にいるとき、突然今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続き、大津波警報が発令されたとします。揺れが収まった後どのタイミングで避難しますか。昼間に地震が発生したという想定で、次の中から1つだけ選んでください。

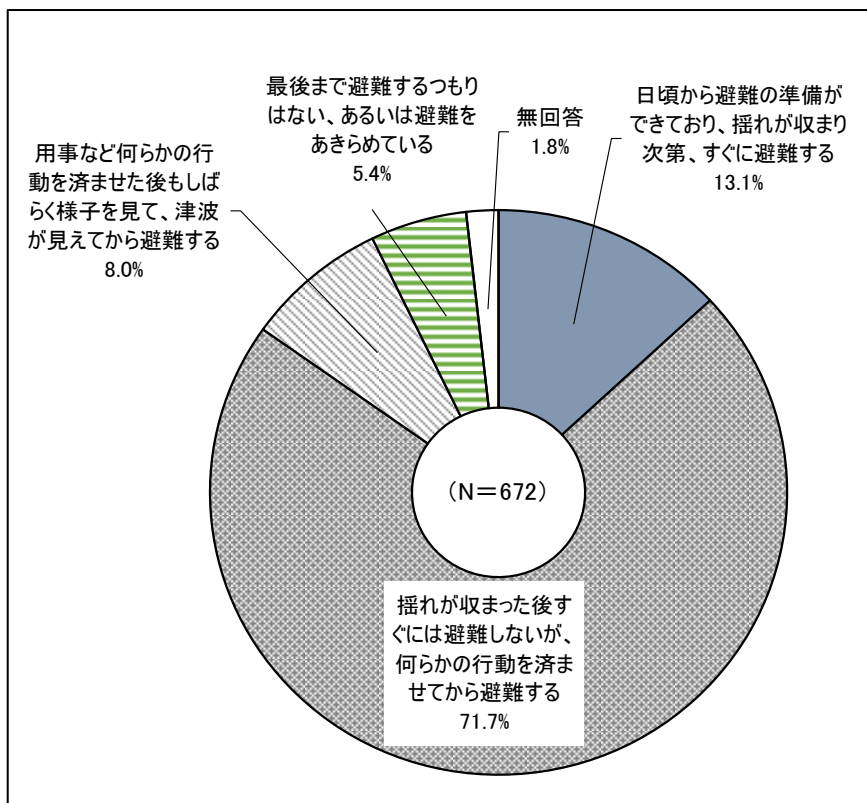
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=672】

1	日頃から避難の準備ができており、揺れが収まり次第、すぐに避難する（地震後およそ5分以内に避難を開始）	13.1%(12.9%)
2	揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する（例えば非常持ち出し品・身の回り品の準備や、ペット・動物の世話・避難準備といった用事など（地震後およそ5～15分後に避難を開始））	71.7%(72.8%)
3	用事など何らかの行動を済ませた後もしばらく様子を見て、津波が見えてから避難する	8.0%(7.7%)
4	最後まで避難するつもりはない、あるいは避難をあきらめている	5.4%(5.1%)
	(無回答)	1.8%(1.6%)

避難のタイミングについて、「揺れが収まった後すぐには避難しないが、何らかの行動を済ませてから避難する」71.7%が最も高く、次いで「日頃から避難の準備ができており、揺れが収まり次第、すぐに避難する」13.1%、「用事など何らかの行動を済ませた後もしばらく様子を見て、津波が見えてから避難する」8.0%、「最後まで避難するつもりはない、あるいは避難をあきらめている」5.4%となっている。

図表 1-(2)-1 避難のタイミングについて



(3) 防災・減災対策の重要度について

問2 あなたは、防災・減災対策が重要だと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

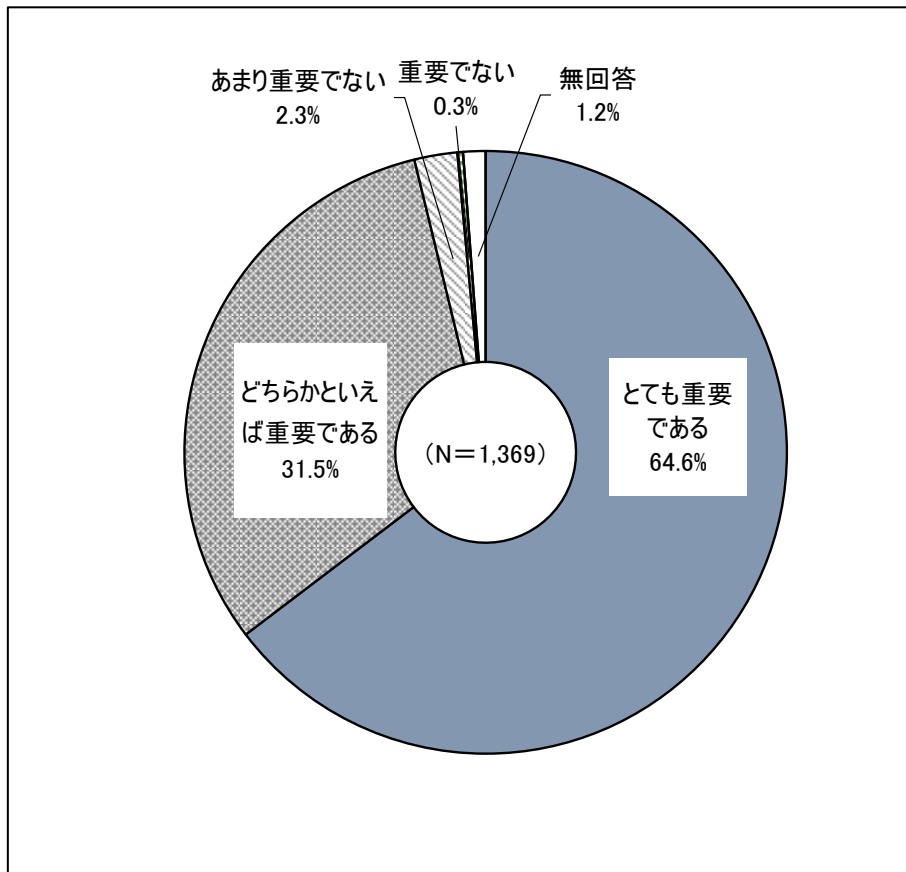
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1	とても重要である	64.6% (65.6%)	⇒ 3ページ 問3にお進みください
2	どちらかといえば重要である	31.5% (30.9%)	
3	あまり重要でない	2.3% (2.1%)	⇒ 3ページ 付問2にお進みください
4	重要でない	0.3% (0.3%)	
	(無回答)	1.2% (1.1%)	

防災・減災対策の重要度について、「とても重要である」64.6%が最も高く、次いで「どちらかといえば重要である」31.5%、「あまり重要でない」2.3%、「重要でない」0.3%などとなっている。

図表 1-(3)-1 防災・減災対策の重要度について



(4) 防災・減災対策が重要でないと思う理由について

【問2で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問2 防災・減災対策が重要でないと思う理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=36】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う	44.4%(46.5%)
2 香川県では大規模災害が起こることはないと思う	41.7%(38.0%)
3 防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある	13.9%(13.1%)
4 自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	8.3%(9.5%)
5 事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	5.6%(6.0%)
6 自分の職業との関わりがあまりない	2.8%(3.0%)
7 その他	8.3%(8.5%)
(無回答)	16.7%(15.8%)

防災・減災対策が重要でないと思う理由について、「災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う」44.4%が最も高く、次いで「香川県では大規模災害が起こることはないと思う」41.7%、「防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある」13.9%などとなっている。

図表 1-(4)-1 防災・減災対策が重要でないと思う理由について

		回答数
全体	100.0	36人
(1) 災害はいつどこで発生するか分からないので、対策は不可能だと思う	44.4	16人
(2) 香川県では大規模災害が起こることはないと思う	41.7	15人
(3) 防災・減災対策よりも優先度が高い課題が他にある	13.9	5人
(4) 自分や家族は、災害の危険箇所に住んだり、行ったりしない	8.3	3人
(5) 事前の備えをしていなくても、自分や家族は大丈夫という自信がある	5.6	2人
(6) 自分の職業との関わりがあまりない	2.8	1人
(7) その他	8.3	3人
(8) 無回答	16.7	6人

グラフ単位：(%)

(5) 防災・減災対策の満足度について

問3 あなたは、防災・減災対策について満足されていますか。次の中から1つだけ選んでください。

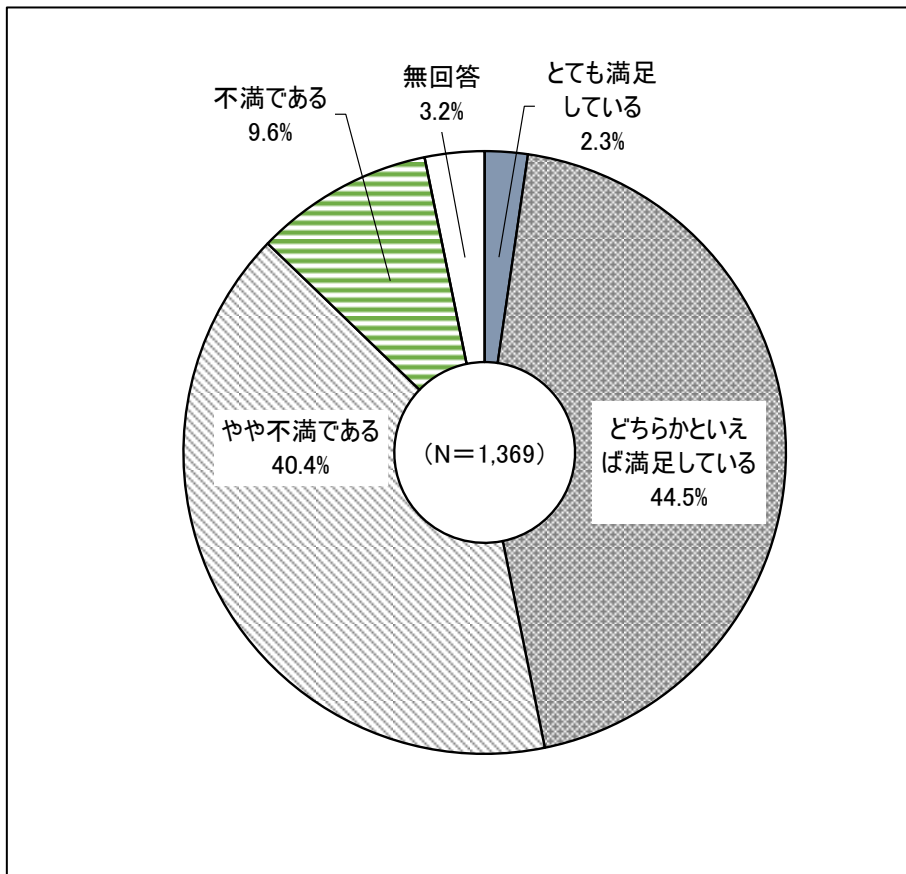
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 とても満足している	2.3% (2.8%)
2 どちらかといえば満足している	44.5% (45.0%)
3 やや不満である	40.4% (40.0%)
4 不満である	9.6% (9.3%)
(無回答)	3.2% (2.9%)

防災・減災対策の満足度について、「どちらかといえば満足している」44.5%、「やや不満である」40.4%、「不満である」9.6%、「とても満足している」2.3%となっている。

図表 1-(5)-1 防災・減災対策の満足度について



(6) 不満に思っている防災・減災対策について

【問3で「3」または「4」と答えた方にお聞きます】

付問3 あなたが不満に思っているのは、防災・減災対策のうち、どのような取り組みでしょうか。
次の中からあてはまるものをすべて選び、それに伴う付問4、5、6についても、ご回答ください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=685】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）	57.4%(60.0%)
2 地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）	48.3%(47.3%)
3 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	44.8%(43.2%)
4 その他（無回答）	6.0%(5.5%) 2.8%(2.8%)

⇒ 選択肢2・3のいずれも該当がない方は、5ページ 問4にお進みください

不満に思っている防災・減災対策について、「自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）」57.4%が最も高く、次いで「地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）」48.3%、「県や市町で取り組んでいる防災・減災対策」44.8%となっている。

図表 1-(6)-1 不満に思っている防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	685 人
(1) 自分や家族で取り組む対策（自分の生命・財産を自分で守るための取り組み）	57.4	393 人
(2) 地域や会社などで取り組む対策（近所や職域で共に助け合うための取り組み）	48.3	331 人
(3) 県や市町で取り組んでいる防災・減災対策	44.8	307 人
(4) その他	6.0	41 人
(5) 無回答	2.8	19 人

グラフ単位：(%)

(7) 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について

【付問3で「2」と答えた方にお聞きします】

付問4 あなたは、地域や会社などで、防災・減災に関してどのような取り組みをされていますか。
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=331】 ※回答数の多い順に並べ替え

1 特に何もしていない	46.8%(47.7%)
2 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	22.4%(23.1%)
3 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	16.6%(14.8%)
4 勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している	12.4%(13.6%)
5 消防団や自主防災組織の活動に参加している	10.6%(9.8%)
6 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	6.0%(5.9%)
7 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	3.3%(3.2%)
8 防災士の資格を取得している	1.2%(1.1%)
9 その他	6.0%(5.5%)
(無回答)	7.3%(7.3%)

地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について、「特に何もしていない」46.8%が最も高く、次いで「勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている」22.4%、「隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している」16.6%、「勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している」12.4%となっている。

図表 1-(7)-1 地域や会社などで取り組んでいる防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	331 人
(1) 特に何もしていない	46.8	155 人
(2) 勤めている会社や通っている学校などで、災害時のための訓練を行っている	22.4	74 人
(3) 隣近所で、高齢者や身体が不自由な方など災害時に配慮が必要な人を把握している	16.6	55 人
(4) 勤めている会社などで被災した場合に備え、職場などに食品や飲料水を備蓄している	12.4	41 人
(5) 消防団や自主防災組織の活動に参加している	10.6	35 人
(6) 新聞やニュースなどで防災に関する情報を収集し、隣近所や職場などで共有している	6.0	20 人
(7) 自分の居住する地域やマンションなどで、災害時に備えた取り決めや会議などを行っている	3.3	11 人
(8) 防災士の資格を取得している	1.2	4 人
(9) その他	6.0	20 人
無回答	7.3	24 人

グラフ単位：(%)

(8) 不満に思っている県や市町の防災・減災対策について

【付問3で「3」と答えた方にお聞きします】

付問5 あなたは、現在、県や市町で取り組んでいる防災・減災対策のうち、どのような点について不満に思っていますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=307】 ※回答数の多い順に並べ替え

1	県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	38.8%(38.5%)
2	命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	27.7%(28.2%)
3	避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	26.4%(26.4%)
4	災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	26.4%(26.3%)
5	保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	25.1%(26.7%)
6	住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	20.2%(20.8%)
7	避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	18.9%(19.2%)
8	堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	16.6%(15.7%)
9	県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	16.6%(16.6%)
10	避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	13.7%(14.3%)
11	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	11.4%(11.0%)
12	その他	9.1%(8.9%)
	(無回答)	3.6%(3.1%)

不満に思っている県や市町の防災・減災対策について、「県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない」38.8%が最も高く、次いで「命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない」27.7%、「避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない」、「災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない」が同率の26.4%となっている。

図表 1-(8)-1 不満に思っている県や市町の防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	307 人
(1) 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	38.8	119 人
(2) 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	27.7	85 人
(3) 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	26.4	81 人
(4) 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	26.4	81 人
(5) 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	25.1	77 人
(6) 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	20.2	62 人
(7) 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	18.9	58 人
(8) 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	16.6	51 人
(9) 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	16.6	51 人
(10) 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	13.7	42 人
(11) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	11.4	35 人
(12) その他	9.1	28 人
無回答	3.6	11 人

グラフ単位：(%)

(9) 不満に思っている県や市町の防災・減災対策への具体的な意見について

【付問5を答えた方にお聞きします】

付問6 付問5で回答された選択肢について、具体的な意見があれば選択肢番号と具体的な意見内容をそれぞれ記入してください。

※157件中5件の意見を抜粋

選択肢	件数
1 避難所の指定や、ハザードマップの作成など、事前の準備が十分でない	11
2 避難所の開設状況や避難勧告の発令など、災害時の情報提供が十分でない	16
3 堤防のかさ上げなどのハード整備が十分でない	17
4 避難所における食料、飲料水、医薬品などの備蓄が十分でない	9
5 住宅の耐震化や家具の転倒防止の呼びかけなどの普及啓発や支援が十分でない	16
6 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援が十分でない	7
7 命を守るためのスキルやノウハウが身に付くような実践的な防災教育が十分でない	12
8 保存食や防災グッズなどの住民に対する配布が十分でない	12
9 災害時の住民に対する情報の伝達手段が十分でない	19
10 県や市町がどんな防災・減災対策に取り組んでいるのかを知らない	18
11 県や市町がいくら防災・減災対策に取り組んでも、絶対に安全であるとは言いきれない	7
12 その他	13

- ・学校やコミュニティセンターなどで、災害になった際に実践できるように、救護の仕方や実際に災害に遭われた方などから話を聞く機会を設けてほしい。
- ・広告やLINEなど簡単なものでよいので、「〇〇の時はこのような行動を心掛ける」といった、災害が起こった時の事を少しでも考えられるような場を作り、どうしたらよいか教えてほしい。
- ・9/1の防災の日などに自治会で訓練をしたり、県または市町村に情報の伝達の仕方や防災・減災の取り組みについて話を聞きたい。
- ・災害が起きれば自助・共助・公助どれが欠けても復興はできないと思う。段階に応じて、それぞれができることを示していただければ、落ち着いて対応できると思う。
- ・ペットを同伴できる避難所を作ってほしい。一時的に預かってくれる所もあればありがたい。事前に住民に対する周知も必要だと思う。

(10) 南海トラフ地震に備えた対策について

問4 今後30年以内の発生確率が70～80%と高まっている南海トラフ地震に備えて、どのような対策を取っていますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	携帯ラジオや懐中電灯を準備している	63.4%(61.0%)
2	食料や飲料水を準備している	46.7%(45.7%)
3	近くの学校や公園など避難場所を決めている	43.7%(43.3%)
4	貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	24.4%(25.3%)
5	特に何もしていない	19.4%(19.4%)
6	家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	17.9%(17.8%)
7	風呂などに水をためおきするようになっている	16.6%(15.4%)
8	家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	16.4%(16.5%)
9	防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている	16.4%(16.2%)
10	自分の家の耐震性を高くしている	15.2%(15.5%)
11	消火器や消火用のバケツを準備している	14.8%(13.6%)
12	防災訓練に積極的に参加している	9.8%(9.3%)
13	自宅に「感震ブレーカー」(地震を検知し、自動的にブレーカーを切って、送電の再開による火災を防止する効果がある機器)を設置している	2.8%(2.9%)
14	その他 (無回答)	2.2%(2.3%) 0.8%(0.7%)

南海トラフ地震に備えた対策について、「携帯ラジオや懐中電灯を準備している」63.4%が最も高く、次いで「食料や飲料水を準備している」46.7%、「近くの学校や公園など避難場所を決めている」43.7%、「貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている」24.4%となっている。

図表 1-(10)-1 南海トラフ地震に備えた対策について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 携帯ラジオや懐中電灯を準備している	63.4	868 人
(2) 食料や飲料水を準備している	46.7	639 人
(3) 近くの学校や公園など避難場所を決めている	43.7	598 人
(4) 貴重品などをすぐ持ち出せるようにしている	24.4	334 人
(5) 特に何もしていない	19.4	266 人
(6) 家具や大型電気製品などを固定し、転倒を防止している	17.9	245 人
(7) 風呂などに水をためおきするようになっている	16.6	227 人
(8) 家族や親類などと非常時の連絡方法を決めている	16.4	224 人
(9) 防災アプリのダウンロードや防災情報メールの登録をしている	16.4	225 人
(10) 自分の家の耐震性を高くしている	15.2	208 人
(11) 消火器や消火用のバケツを準備している	14.8	203 人
(12) 防災訓練に積極的に参加している	9.8	134 人
(13) 自宅に「感震ブレーカー」(地震を検知し、自動的にブレーカーを切って、送電の再開による火災を防止する効果がある機器)を設置している	2.8	38 人
(14) その他	2.2	30 人
無回答	0.8	11 人

グラフ単位：(%)

(11) 県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

問5 今後、県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	58.9%(59.1%)
2	食料、飲料水、医薬品などの備蓄	55.0%(56.6%)
3	避難所での快適な生活環境づくり	51.9%(52.9%)
4	災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	35.6%(35.0%)
5	避難所やハザードマップなどの情報提供	14.5%(14.1%)
6	堤防のかさ上げなどのハード整備	11.5%(11.6%)
7	防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	10.0%(9.8%)
8	近県との広域応援体制の確立	7.8%(7.9%)
9	地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	7.8%(7.3%)
10	防災訓練の充実	7.2%(7.1%)
11	災害に関する計画の充実	6.9%(6.8%)
12	ボランティア活動に対する支援体制づくり	6.5%(6.1%)
13	その他	3.2%(3.1%)
14	特にない	1.7%(1.7%)
	(無回答)	0.9%(0.8%)

県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について、「支援物資が確実に避難所に届く体制づくり」58.9%が最も高く、次いで「食料、飲料水、医薬品などの備蓄」55.0%、「避難所での快適な生活環境づくり」51.9%、「災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供」35.6%となっている。

図表 1-(11)-1 県や市町に特に力をいれて取り組んでもらいたい防災・減災対策について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 支援物資が確実に避難所に届く体制づくり	58.9	806 人
(2) 食料、飲料水、医薬品などの備蓄	55.0	753 人
(3) 避難所での快適な生活環境づくり	51.9	710 人
(4) 災害時における被害情報の把握と迅速な情報提供	35.6	487 人
(5) 避難所やハザードマップなどの情報提供	14.5	198 人
(6) 堤防のかさ上げなどのハード整備	11.5	158 人
(7) 防災に関する広報啓発、防災教育など防災意識の普及・啓発	10.0	137 人
(8) 近県との広域応援体制の確立	7.8	107 人
(9) 地域の自主防災組織や消防団の活動に対する支援	7.8	107 人
(10) 防災訓練の充実	7.2	99 人
(11) 災害に関する計画の充実	6.9	94 人
(12) ボランティア活動に対する支援体制づくり	6.5	89 人
(13) その他	3.2	44 人
(14) 特にない	1.7	23 人
無回答	0.9	13 人

グラフ単位：(%)

2. 環境施策について

(1)身のまわりの環境(満足度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、＜満足度＞と＜重要度＞について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

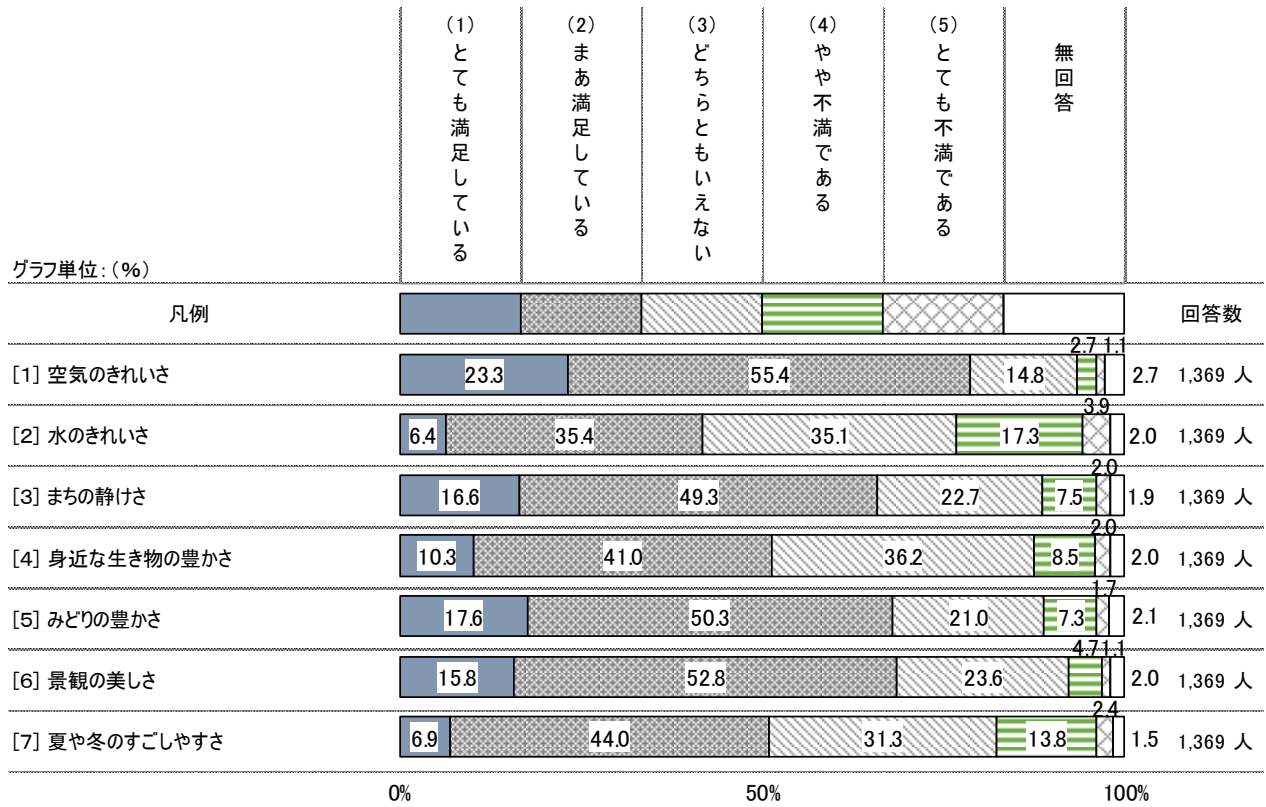
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[1] 空気のきれいさ	23.3 (22.8)	55.4 (55.0)	14.8 (15.7)	2.7 (2.8)	1.1 (1.1)	2.7 (2.7)
[2] 水のきれいさ (川、ため池、海など)	6.4 (6.4)	35.4 (34.2)	35.1 (35.2)	17.3 (18.3)	3.9 (4.0)	2.0 (1.9)
[3] まちの静けさ	16.6 (16.9)	49.3 (48.7)	22.7 (22.9)	7.5 (7.5)	2.0 (2.1)	1.9 (1.9)
[4] 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	10.3 (10.7)	41.0 (40.0)	36.2 (36.7)	8.5 (8.7)	2.0 (1.9)	2.0 (2.0)
[5] みどりの豊かさ(森林、公園など)	17.6 (17.8)	50.3 (49.7)	21.0 (21.1)	7.3 (7.5)	1.7 (1.8)	2.1 (2.1)
[6] 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	15.8 (15.9)	52.8 (52.5)	23.6 (24.1)	4.7 (4.5)	1.1 (1.0)	2.0 (2.0)
[7] 夏や冬の過ごしやすさ	6.9 (7.2)	44.0 (44.1)	31.3 (31.0)	13.8 (13.6)	2.4 (2.5)	1.5 (1.5)

身のまわりの環境の満足度について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「空気のきれいさ」78.7%が最も高く、次いで「景観の美しさ(まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)」68.6%、「みどりの豊かさ(森林、公園など)」67.9%などとなっている。

図表 2-(1) 身のまわりの環境(満足度)



(2)身のまわりの環境(重要度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、満足度と重要度について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

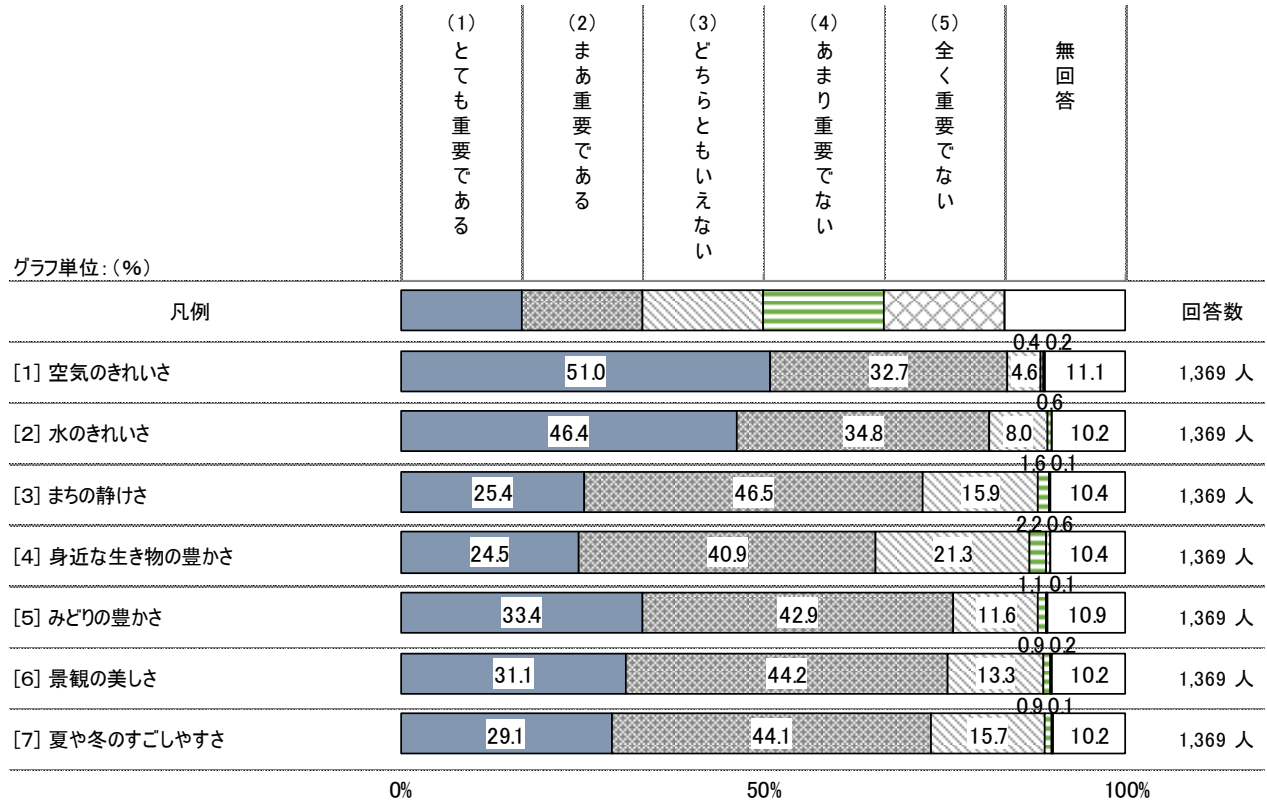
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[1] 空気のきれいさ	51.0 (50.2)	32.7 (33.7)	4.6 (4.7)	0.4 (0.5)	0.2 (0.3)	11.1 (10.6)
[2] 水のきれいさ (川、ため池、海など)	46.4 (46.3)	34.8 (34.8)	8.0 (8.4)	0.6 (0.7)	0.0 (0.0)	10.2 (9.8)
[3] まちの静けさ	25.4 (26.0)	46.5 (45.9)	15.9 (16.3)	1.6 (1.7)	0.1 (0.2)	10.4 (10.0)
[4] 身近な生き物の豊かさ (野鳥、昆虫、魚など)	24.5 (24.2)	40.9 (40.4)	21.3 (22.4)	2.2 (2.4)	0.6 (0.7)	10.4 (10.0)
[5] みどりの豊かさ (森林、公園など)	33.4 (33.6)	42.9 (43.5)	11.6 (11.5)	1.1 (1.0)	0.1 (0.1)	10.9 (10.4)
[6] 景観の美しさ (まちなみ、田園風景、瀬戸内海など)	31.1 (31.1)	44.2 (44.5)	13.3 (13.4)	0.9 (1.1)	0.2 (0.2)	10.2 (9.7)
[7] 夏や冬のすごしやすさ	29.1 (30.2)	44.1 (43.6)	15.7 (15.5)	0.9 (0.9)	0.1 (0.1)	10.2 (9.7)

身のまわりの環境の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「空気のきれいさ」83.7%が最も高く、次いで「水のきれいさ (川、ため池、海など)」81.2%、「みどりの豊かさ (森林、公園など)」76.3%などとなっている。

図表 2-(2) 身のまわりの環境(重要度)



(3) 行政の環境への取り組み(満足度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、＜満足度＞と＜重要度＞について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

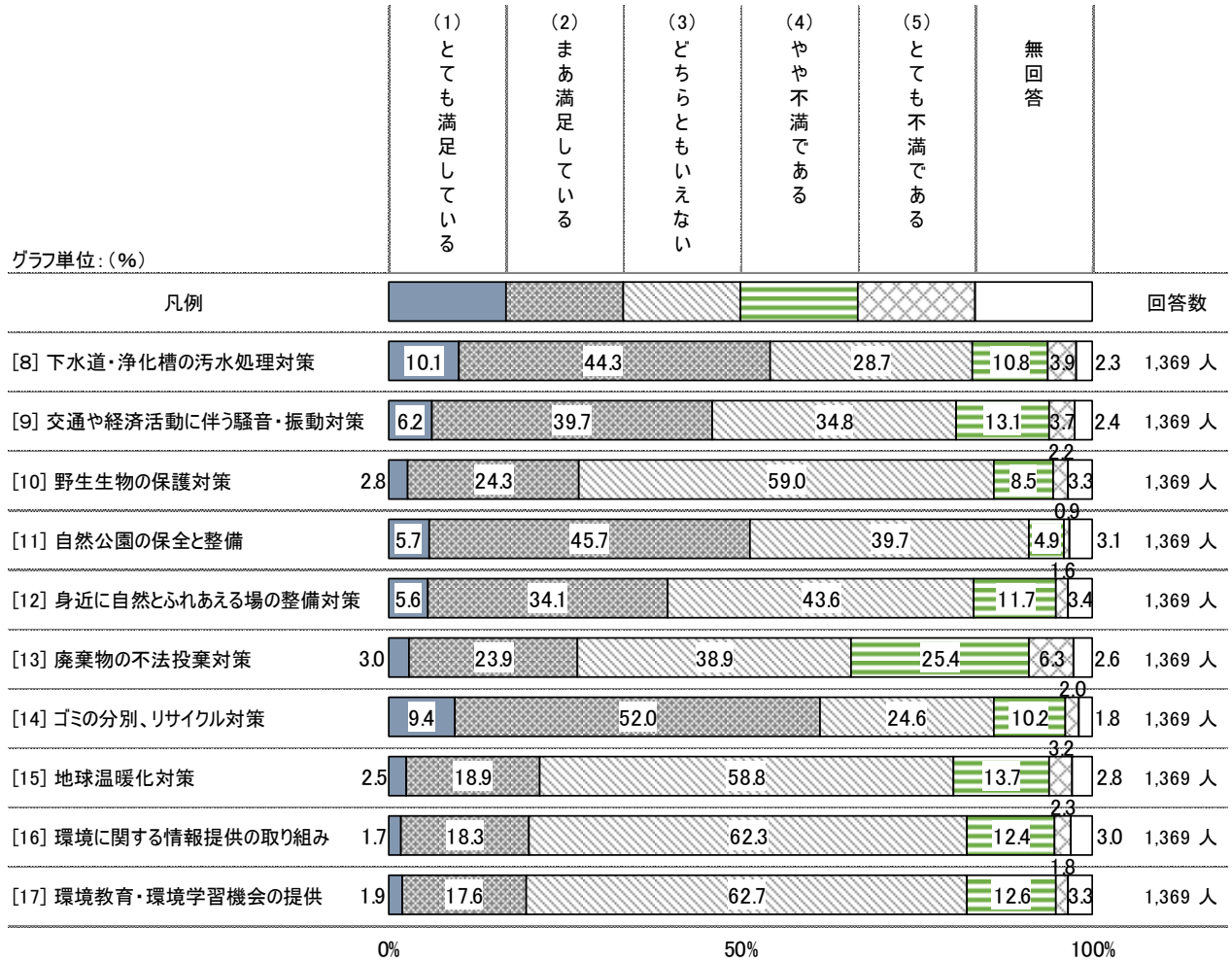
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[8] 下水道・浄化槽の汚水処理対策	10.1 (11.0)	44.3 (43.4)	28.7 (29.1)	10.8 (10.2)	3.9 (3.9)	2.3 (2.3)
[9] 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	6.2 (6.7)	39.7 (39.7)	34.8 (34.7)	13.1 (13.0)	3.7 (3.6)	2.4 (2.3)
[10] 野生生物の保護対策	2.8 (3.1)	24.3 (24.5)	59.0 (58.7)	8.5 (8.1)	2.2 (2.3)	3.3 (3.2)
[11] 自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備	5.7 (6.2)	45.7 (45.5)	39.7 (39.5)	4.9 (4.9)	0.9 (0.9)	3.1 (3.0)
[12] 身近に自然とふれあえる場の整備対策	5.6 (6.1)	34.1 (34.4)	43.6 (42.9)	11.7 (12.0)	1.6 (1.5)	3.4 (3.2)
[13] 廃棄物の不法投棄対策	3.0 (3.4)	23.9 (24.6)	38.9 (38.8)	25.4 (24.5)	6.3 (6.2)	2.6 (2.5)
[14] ゴみの分別、リサイクル対策	9.4 (9.7)	52.0 (51.5)	24.6 (24.7)	10.2 (10.2)	2.0 (2.1)	1.8 (1.7)
[15] 地球温暖化対策(再生可能エネルギーの導入など)	2.5 (2.6)	18.9 (19.9)	58.8 (58.4)	13.7 (13.3)	3.2 (3.1)	2.8 (2.7)
[16] 環境に関する情報提供の取り組み	1.7 (2.1)	18.3 (18.4)	62.3 (62.1)	12.4 (12.0)	2.3 (2.5)	3.0 (2.9)
[17] 環境教育・環境学習機会の提供	1.9 (2.3)	17.6 (18.9)	62.7 (61.3)	12.6 (12.4)	1.8 (1.9)	3.3 (3.2)

行政の環境への取り組みの満足度について、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合は、「ゴミの分別、リサイクル対策」61.4%が最も高く、次いで「下水道・浄化槽の汚水処理対策」54.4%、「自然公園(瀬戸内海国立公園など)の保全と整備」51.4%などとなっている。

図表 2-(3) 行政の環境への取り組み(満足度)



(4) 行政の環境への取り組み(重要度)

問6 あなたの身のまわりの環境 [1] ～ [7]、行政の環境への取り組み [8] ～ [17] に対する、満足度と重要度について、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

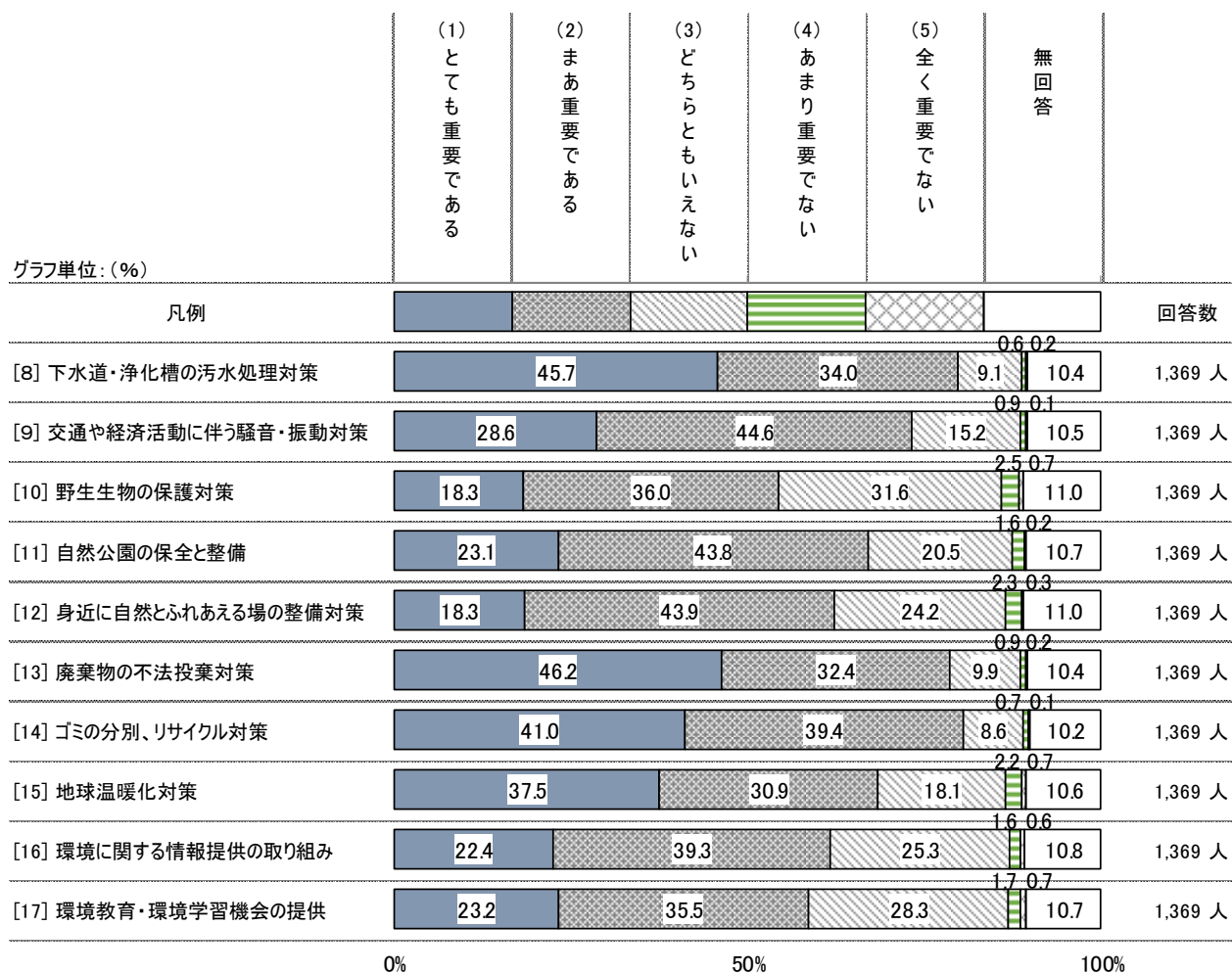
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[8] 下水道・浄化槽の汚水処理対策	45.7 (46.2)	34.0 (33.6)	9.1 (9.3)	0.6 (0.6)	0.2 (0.2)	10.4 (10.0)
[9] 交通や経済活動に伴う騒音・振動対策	28.6 (29.4)	44.6 (44.2)	15.2 (15.3)	0.9 (0.9)	0.1 (0.1)	10.5 (10.0)
[10] 野生生物の保護対策	18.3 (19.2)	36.0 (35.4)	31.6 (31.9)	2.5 (2.4)	0.7 (0.6)	11.0 (10.5)
[11] 自然公園（瀬戸内海国立公園など）の保全と整備	23.1 (23.4)	43.8 (43.3)	20.5 (21.3)	1.6 (1.5)	0.2 (0.2)	10.7 (10.2)
[12] 身近に自然とふれあえる場の整備対策	18.3 (18.5)	43.9 (44.0)	24.2 (24.4)	2.3 (2.4)	0.3 (0.3)	11.0 (10.4)
[13] 廃棄物の不法投棄対策	46.2 (46.5)	32.4 (32.6)	9.9 (9.9)	0.9 (0.8)	0.2 (0.2)	10.4 (10.0)
[14] ゴみの分別、リサイクル対策	41.0 (41.4)	39.4 (39.2)	8.6 (8.9)	0.7 (0.7)	0.1 (0.0)	10.2 (9.8)
[15] 地球温暖化対策（再生可能エネルギーの導入など）	37.5 (37.4)	30.9 (31.1)	18.1 (18.5)	2.2 (2.1)	0.7 (0.9)	10.6 (10.1)
[16] 環境に関する情報提供の取り組み	22.4 (22.3)	39.3 (39.9)	25.3 (25.1)	1.6 (1.7)	0.6 (0.7)	10.8 (10.3)
[17] 環境教育・環境学習機会の提供	23.2 (23.9)	35.5 (35.5)	28.3 (27.9)	1.7 (1.9)	0.7 (0.7)	10.7 (10.2)

行政の環境への取り組みの重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「ゴミの分別、リサイクル対策」80.4%が最も高く、次いで「下水道・浄化槽の汚水処理対策」79.7%、「廃棄物の不法投棄対策」78.6%などとなっている。

図表 2-(4) 行政の環境への取り組み(重要度)



(5) 日常生活における環境に優しい行動について

問7 あなたは日常生活の中で、どの程度、環境に優しい行動をしていますか。次の [1] ~ [13] の行動への取り組み状況について、それぞれ 1~4のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値
(単位：%)

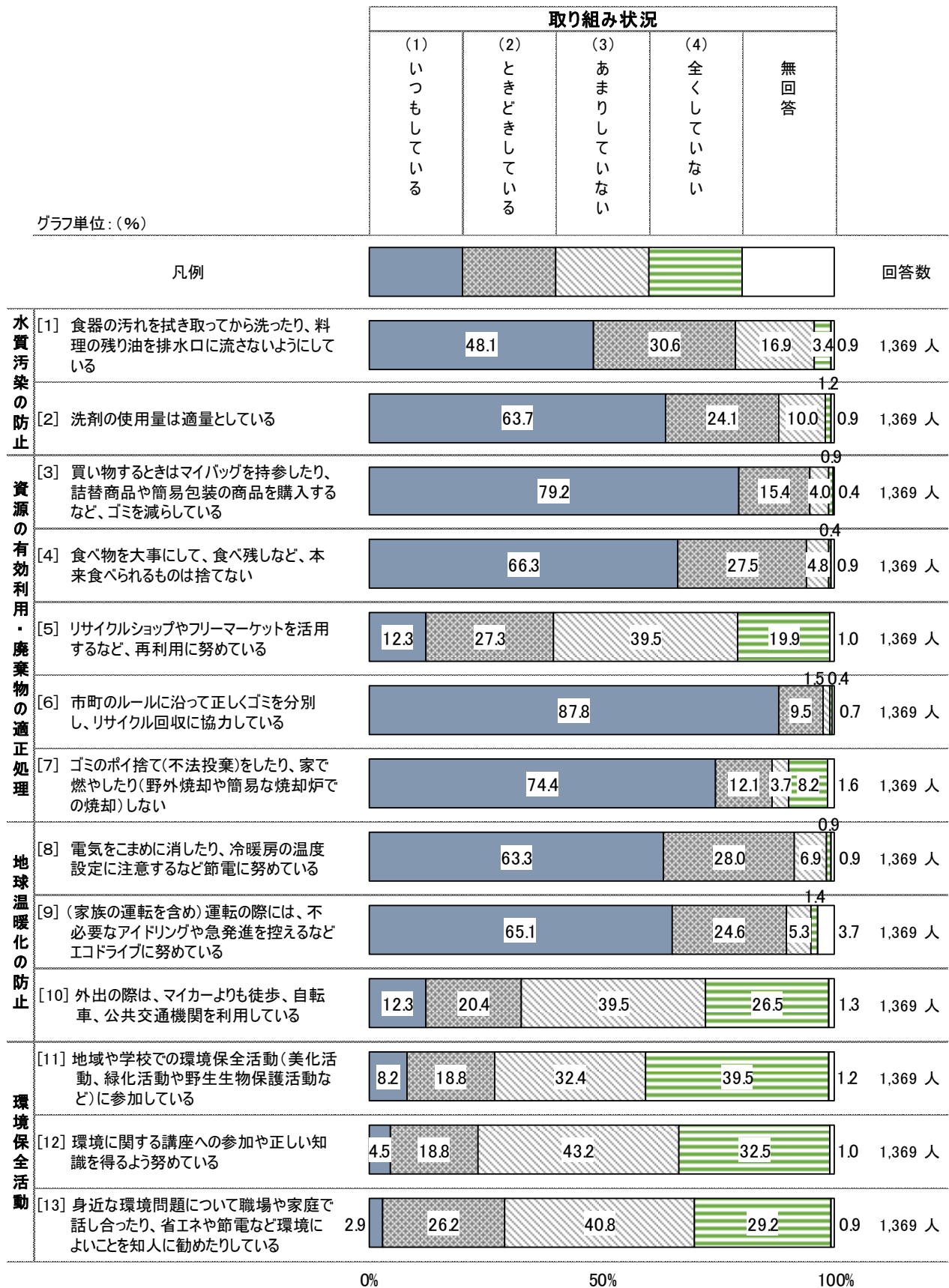
【回答者数=1,369】

項目	取り組み状況					
	(1) いつもしている	(2) ときどきしている	(3) あまりしていない	(4) 全くしていない	無回答	
水質汚染の防止	[1] 食器の汚れを拭き取ってから洗ったり、料理の残り油を排水口に流さないようにしている	48.1 (46.4)	30.6 (31.2)	16.9 (17.7)	3.4 (3.7)	0.9 (0.9)
	[2] 洗剤の使用量は適量としている	63.7 (62.2)	24.1 (25.2)	10.0 (10.3)	1.2 (1.4)	0.9 (0.9)
資源の有効利用・廃棄物の適正処理	[3] 買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている	79.2 (78.4)	15.4 (16.2)	4.0 (3.9)	0.9 (1.1)	0.4 (0.4)
	[4] 食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない	66.3 (66.3)	27.5 (27.3)	4.8 (5.0)	0.4 (0.5)	0.9 (0.9)
	[5] リサイクルショップやフリーマーケットを活用するなど、再利用に努めている	12.3 (13.0)	27.3 (27.8)	39.5 (38.6)	19.9 (19.6)	1.0 (1.0)
	[6] 市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している	87.8 (86.1)	9.5 (11.1)	1.5 (1.6)	0.4 (0.5)	0.7 (0.7)
	[7] ゴミのポイ捨て（不法投棄）をしたり、家で燃やしたり（野外焼却や簡易な焼却炉での焼却）しない	74.4 (75.8)	12.1 (11.6)	3.7 (3.4)	8.2 (7.7)	1.6 (1.5)
地球温暖化の防止	[8] 電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている	63.3 (62.5)	28.0 (28.2)	6.9 (7.4)	0.9 (1.1)	0.9 (0.8)
	[9] (家族の運転を含め) 運転の際には、不必要なアイドリングや急発進を控えるなどエコドライブに努めている	65.1 (64.3)	24.6 (24.8)	5.3 (6.0)	1.4 (1.5)	3.7 (3.3)
	[10] 外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している	12.3 (12.9)	20.4 (20.2)	39.5 (38.1)	26.5 (27.6)	1.3 (1.2)
環境保全活動	[11] 地域や学校での環境保全活動（美化活動、緑化活動や野生生物保護活動など）に参加している	8.2 (7.4)	18.8 (18.6)	32.4 (31.9)	39.5 (40.9)	1.2 (1.1)
	[12] 環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている	4.5 (4.5)	18.8 (18.3)	43.2 (43.0)	32.5 (33.2)	1.0 (1.0)
	[13] 身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている	2.9 (3.0)	26.2 (25.4)	40.8 (40.4)	29.2 (30.4)	0.9 (0.9)

日常生活における環境に優しい行動について、「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせた【している】の割合は、「市町のルールに沿って正しくゴミを分別し、リサイクル回収に協力している」97.3%が最も高く、ついで「買い物するときはマイバッグを持参したり、詰替商品や簡易包装の商品を購入するなど、ゴミを減らしている」94.6%、「食べ物を大事にして、食べ残しなど、本来食べられるものは捨てない」93.8%、「電気をこまめに消したり、冷暖房の温度設定に注意するなど節電に努めている」91.3%などとなっている。

また、「あまりしていない」と「全くしていない」を合わせた【していない】の割合は、「環境に関する講座への参加や正しい知識を得るよう努めている」75.7%が最も高く、次いで「地域や学校での環境保全活動（美化活動、緑化活動や野生生物保護など）に参加している」71.9%、「身近な環境問題について職場や家庭で話し合ったり、省エネや節電など環境によいことを知人に勧めたりしている」70.0%、「外出の際は、マイカーよりも徒歩、自転車、公共交通機関を利用している」66.0%となっている。

図表 2-(5)-1 日常生活における環境に優しい行動について



(6) 森林整備と都市緑化のための取り組みについて

問8 森林整備と都市緑化のための取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	64.6%(63.7%)
2	間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	57.6%(57.7%)
3	森林整備の担い手の育成・確保	45.1%(44.8%)
4	都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	33.5%(34.6%)
5	保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	19.6%(19.3%)
6	公共施設などにおける県産木材の利用促進	17.2%(18.0%)
7	県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.0%(11.2%)
8	ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	11.0%(10.7%)
9	建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	10.7%(11.5%)
10	その他 (無回答)	1.8%(1.6%) 2.8%(2.7%)

森林整備と都市緑化のための取り組みについて、「手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進」64.6%が最も高く、次いで「間伐など森林を守り育てる森林整備の推進」57.6%、「森林整備の担い手の育成・確保」45.1%となっている。

図表 2-(6)-1 森林整備と都市緑化のための取り組みについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 手入れが行き届いていない竹林や広葉樹林などの里山の整備と資源活用の推進	64.6	884 人
(2) 間伐など森林を守り育てる森林整備の推進	57.6	789 人
(3) 森林整備の担い手の育成・確保	45.1	618 人
(4) 都市公園や森林公園などの適切な整備・管理	33.5	458 人
(5) 保安林（水源かん養機能などが指定されている森林）などの適切な管理・保全	19.6	269 人
(6) 公共施設などにおける県産木材の利用促進	17.2	236 人
(7) 県産木材で作った製品などの積極的なPRと情報の提供	11.0	151 人
(8) ボランティア・企業などの参加による県民総参加の森づくりの推進	11.0	150 人
(9) 建物の屋上や壁面に植物を植えるなど緑化の推進	10.7	146 人
(10) その他	1.8	24 人
無回答	2.8	39 人

グラフ単位：(%)

(7)ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

問9 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	ごみの多くを占める食品廃棄物*の削減などに重点化した取り組み	56.8%(57.6%)
2	学校や地域における環境学習の充実	36.6%(37.6%)
3	不法投棄の監視・通報体制の充実	35.2%(35.3%)
4	市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し (可燃ごみから資源ごみへの変更など)	34.6%(33.8%)
5	広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	30.8%(29.7%)
6	スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	28.1%(28.9%)
7	デポジット制度*の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	23.8%(23.8%)
8	地域による環境美化(クリーン作戦など)	20.8%(20.7%)
9	その他 (無回答)	2.6%(2.3%) 1.6%(1.4%)

※ **食品廃棄物**:いわゆる生ごみ。食品廃棄物のうち35%程度が、食べ残しなどの本来食べられるにもかかわらず捨てられる食品(食品ロス)と推計されており、無駄なく消費することで削減が見込める。

※ **デポジット制度**:飲料などを販売する際に、一定額を預かり金として取り、消費者が容器を返却すると預かり金を払い戻す制度

ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて、「ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み」56.8%が最も高く、次いで「学校や地域における環境学習の充実」36.6%、「不法投棄の監視・通報体制の充実」35.2%、「市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)」34.6%となっている。

図表 2-(7)-1 ごみの減量化・リサイクルの推進のための取り組みについて

		回答数
全 体	100.0	1,369 人
(1) ごみの多くを占める食品廃棄物の削減などに重点化した取り組み	56.8	778 人
(2) 学校や地域における環境学習の充実	36.6	501 人
(3) 不法投棄の監視・通報体制の充実	35.2	482 人
(4) 市町でのごみの分別方法や処理方法の見直し(可燃ごみから資源ごみへの変更など)	34.6	473 人
(5) 広報の充実など県民全体への意識啓発や情報提供の強化	30.8	422 人
(6) スーパーでの買い物袋持参の協力呼びかけや包装の簡素化	28.1	385 人
(7) デポジット制度の導入など生産者による積極的資源回収の仕組みづくり	23.8	326 人
(8) 地域による環境美化(クリーン作戦など)	20.8	285 人
(9) その他	2.6	35 人
無回答	1.6	22 人

グラフ単位：(%)

(8) 生物多様性の保全の取り組みについて

問10 生物多様性*の保全の取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ **生物多様性**：さまざまな生き物が将来にわたって共存できる状態

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	身近な自然（里地・里山・里海）の保全	70.8%(70.7%)
2	農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.0%(65.9%)
3	アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	46.9%(46.0%)
4	絶滅のおそれのある野生動植物の保護	43.2%(45.3%)
5	生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	19.3%(19.5%)
6	自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.0%(17.4%)
7	その他	1.5%(1.3%)
	(無回答)	2.5%(2.3%)

生物多様性の保全の取り組みについて、「身近な自然（里地・里山・里海）の保全」70.8%が最も高く、次いで「農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理」67.0%、「アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除」46.9%、「絶滅のおそれのある野生動植物の保護」43.2%となっている。

図表 2-(8)-1 生物多様性の保全の取り組みについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 身近な自然(里地・里山・里海)の保全	70.8	969 人
(2) 農業被害を発生させるイノシシなどの野生鳥獣の適切な管理	67.0	917 人
(3) アライグマやヌートリアなど生態系や人間生活に影響を与える外来生物の防除	46.9	642 人
(4) 絶滅のおそれのある野生動植物の保護	43.2	591 人
(5) 生物多様性に関する活動を行っている団体などへの支援	19.3	264 人
(6) 自然観察会など生物多様性について理解を深めるための普及啓発活動	17.0	233 人
(7) その他	1.5	20 人
無回答	2.5	34 人

グラフ単位：(%)

(9) 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

問11 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）	66.9%(67.4%)
2	沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出	50.1%(49.1%)
3	自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）	44.9%(45.7%)
4	持続可能な水産資源の維持・管理の推進	29.7%(29.6%)
5	瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	27.5%(28.2%)
6	水質などの監視測定や調査研究	21.8%(22.2%)
7	健全な物質（栄養塩※など）の循環機能の維持・回復	17.1%(17.3%)
8	環境学習の推進	9.3%(9.0%)
9	情報提供、広報の充実	4.9%(4.9%)
10	その他	1.2%(1.0%)
	（無回答）	2.1%(2.0%)

※ **栄養塩**：植物が育つための栄養分として必要な窒素やリンなどの物質のこと

瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて、「水質の保全・管理（産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など）」66.9%が最も高く、次いで「沿岸域の環境（藻場・干潟・自然海浜など）の保全・再生・創出」50.1%、「自然景観・文化的景観の保全（自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など）」44.9%、「持続可能な水産資源の維持・管理の推進」29.7%となっている。

図表 2-(9)-1 瀬戸内海の環境の保全に関する取り組みについて

		回答数
全 体	100.0	1,369 人
(1) 水質の保全・管理(産業排水の規制、下水道の整備、有害化学物質の対策など)	66.9	916 人
(2) 沿岸域の環境(藻場・干潟・自然海浜など)の保全・再生・創出	50.1	686 人
(3) 自然景観・文化的景観の保全(自然公園、緑地、史跡の保全、海ごみ対策など)	44.9	615 人
(4) 持続可能な水産資源の維持・管理の推進	29.7	406 人
(5) 瀬戸内海に面した府県などとの連携の強化	27.5	376 人
(6) 水質などの監視測定や調査研究	21.8	298 人
(7) 健全な物質(栄養塩など)の循環機能の維持・回復	17.1	234 人
(8) 環境学習の推進	9.3	128 人
(9) 情報提供、広報の充実	4.9	67 人
(10) その他	1.2	17 人
無回答	2.1	29 人

グラフ単位：(%)

(10)環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて

問12 環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて、効果が高いと思われるものを次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答の多い順に並べ替え

1	学校における環境教育・環境学習の充実	59.9%(60.8%)
2	行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化	51.3%(50.8%)
3	生涯学習における環境教育・環境学習の充実	33.1%(32.4%)
4	環境教育・環境学習の指導者や環境保全活動リーダーの育成	29.7%(28.7%)
5	環境保全活動参加のきっかけとなるような啓発イベントの実施	27.2%(28.1%)
6	環境保全活動に関する情報提供、広報の充実	22.5%(21.6%)
7	環境保全団体や活動リーダーへの支援	19.0%(19.2%)
8	環境保全活動団体や活動リーダー相互の連携の強化	12.7%(12.8%)
9	その他	1.4%(1.2%)
	(無回答)	3.4%(3.3%)

環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて、「学校における環境教育・環境学習の充実」59.9%が最も高く、次いで「行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化」51.3%、「生涯学習における環境教育・環境学習の充実」33.1%、「環境教育・環境学習の指導者や環境保全活動リーダーの育成」29.7%となっている。

図表 2-(10)-1 環境保全活動への参加と協働のための取り組みについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 学校における環境教育・環境学習の充実	59.9	820 人
(2) 行政や企業、環境保全活動団体、自治体等の連携強化	51.3	702 人
(3) 生涯学習における環境教育・環境学習の充実	33.1	453 人
(4) 環境教育・環境学習の指導者や環境保全活動リーダーの育成	29.7	406 人
(5) 環境保全活動参加のきっかけとなるような啓発イベントの実施	27.2	373 人
(6) 環境保全活動に関する情報提供、広報の充実	22.5	308 人
(7) 環境保全団体や活動リーダーへの支援	19.0	260 人
(8) 環境保全活動団体や活動リーダー相互の連携の強化	12.7	174 人
(9) その他	1.4	19 人
無回答	3.4	47 人

グラフ単位：(%)

(11)環境施策に関する要望について

問 13 環境施策に関する要望がありましたら、自由にご記入ください。

※114 件中 5 件の意見を抜粋

- ・不法投棄や企業から出るゴミの量を減らす等、パトロールを強化してもらいたい。機械油や汚水を処理できていない会社を指導してもらいたい。
- ・豊かな自然や希少な動植物は、香川県でも大きな被害を受けていると感じる。一方で、将来の環境を守る子供たちは、スマホ等の普及により、自然にふれあう機会を急速に減らしていると思います。これからの香川県を支える子供たちが自然環境の美しさ・重要性を知ることができるイベントを、県内各地でもっと行ってほしい。
- ・海水のきれいさだけでなく、栄養を与えるように整備してほしい。
- ・農業・林業などの後継者を育てる制度があればと思う。一度人が手を入れた以上、耕作放棄など、手入れを放棄すると、荒れて人にもその他生き物にも良くないと思う。
- ・学生への環境教育は適切な対応だと思う。他に、活動しやすい中間層の年齢が参加できるようなイベントが充実すれば、より身近に感じると思う。

3. 食習慣・生活習慣について

(1) 健康や食生活について

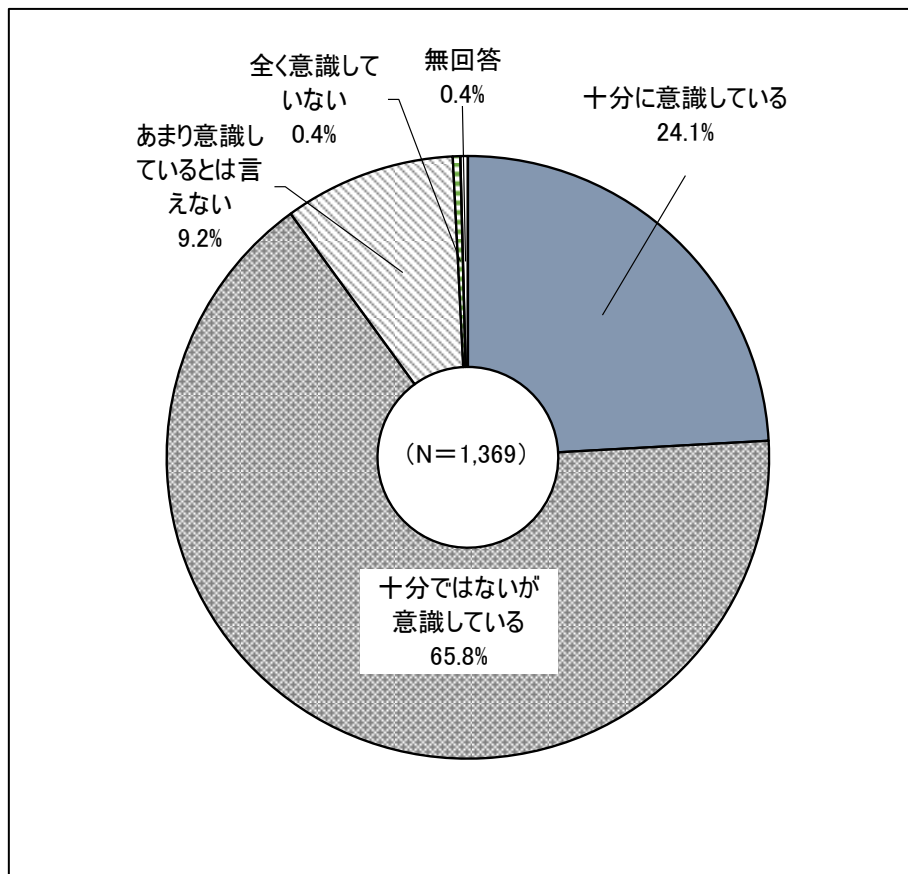
問14 あなたは健康や食生活について、普段から意識していますか。次の中から1つだけ選んでください。
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 十分に意識している	24.1%(23.5%)
2 十分ではないが意識している	65.8%(65.5%)
3 あまり意識しているとは言えない	9.2%(10.1%)
4 全く意識していない	0.4%(0.5%)
(無回答)	0.4%(0.4%)

健康や食生活について、「十分ではないが意識している」65.8%が最も高く、次いで「十分に意識している」24.1%、「あまり意識しているとは言えない」9.2%、「全く意識していない」0.4%となっている。

図表 3-(1)-1 健康や食生活について



(2) 食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて

問15 食事は、家族や友人、知人と一緒に取りますか。次の中から1つだけ選んでください。

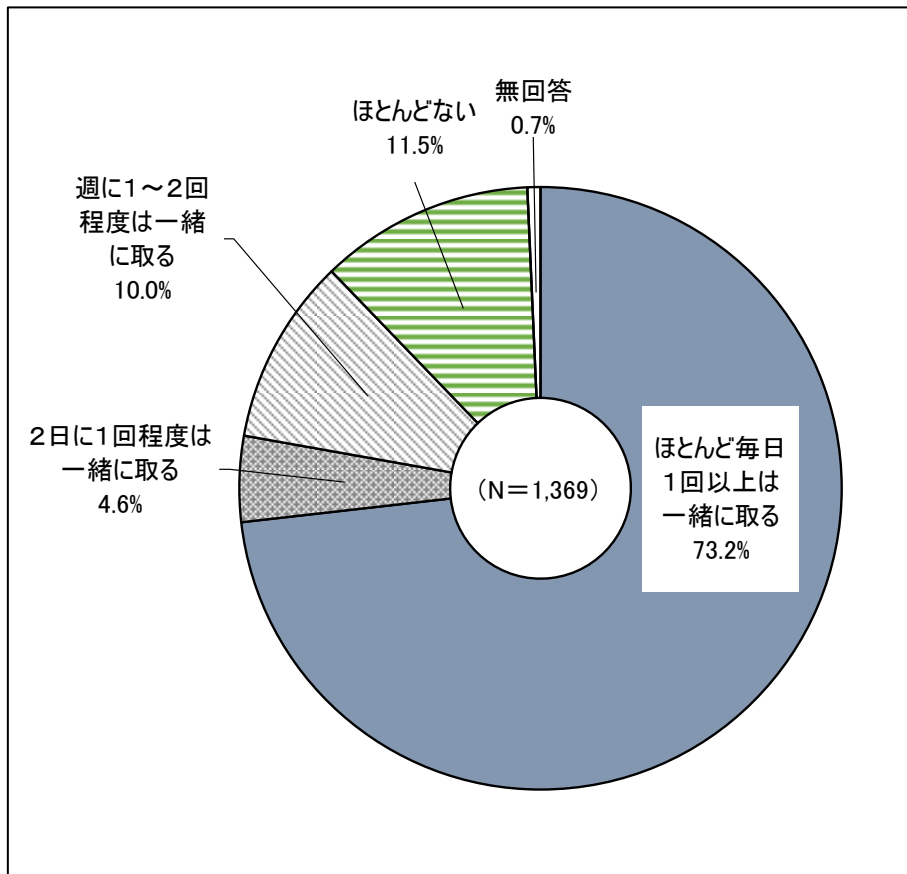
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1	ほとんど毎日1回以上は一緒に取る	73.2%(72.9%)
2	2日に1回程度は一緒に取る	4.6%(5.2%)
3	週に1～2回程度は一緒に取る	10.0%(10.1%)
4	ほとんどない	11.5%(11.2%)
	(無回答)	0.7%(0.7%)

食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて、「ほとんど毎日1回以上は一緒に取る」73.2%が最も高く、次いで「ほとんどない」11.5%、「週に1～2回程度は一緒に取る」10.0%、「2日に1回程度は一緒に取る」4.6%となっている。

図表 3-(2)-1 食事は家族や友人、知人と一緒に取るかについて



(3) 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて

問16 食事で主食・主菜・副菜*の3種類をそろえて食べるようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※【主食】：ごはん、パン、うどんなど
【主菜】：肉、魚、卵、大豆料理など
【副菜】：野菜、きのこ、いも、海藻料理など

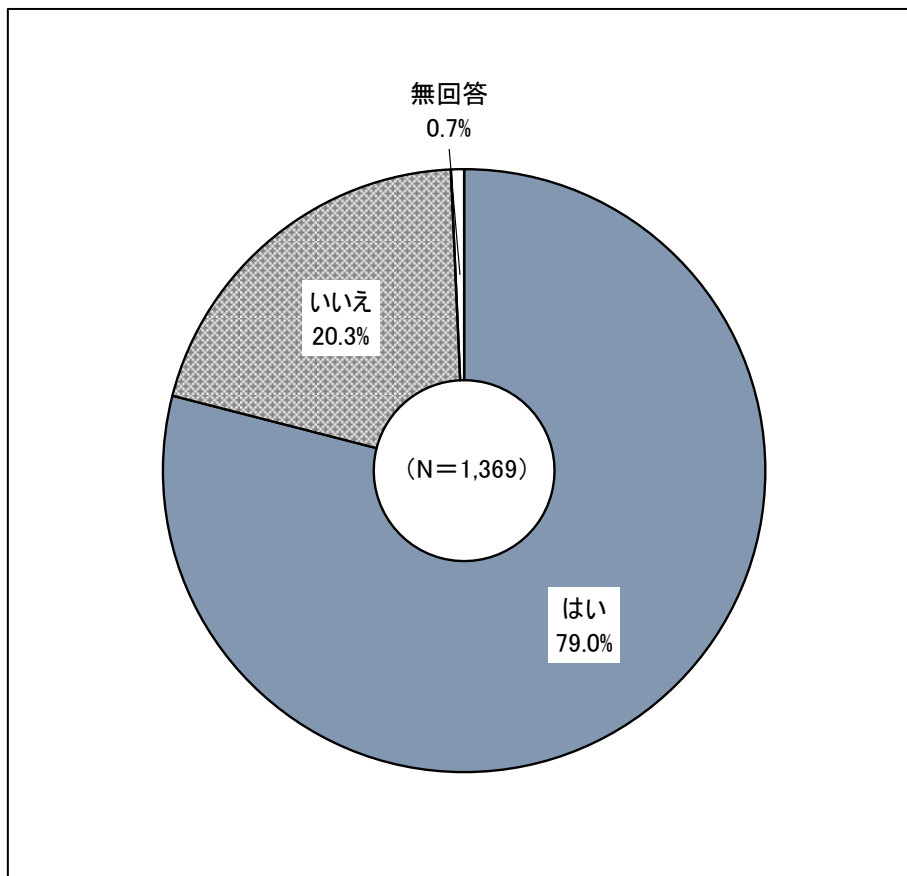
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 はい	79.0%(78.0%)
2 いいえ	20.3%(21.3%)
(無回答)	0.7%(0.7%)

食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて、「はい」79.0%、「いいえ」20.3%となっている。

図表 3-(3)-1 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえて食べるようにしているかについて



(4) 食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて

問17 食事で主食・主菜・副菜の3種類をそろえた食事を1日に2回以上食べることは、週に何日ありますか。次の中から1つだけ選んでください。

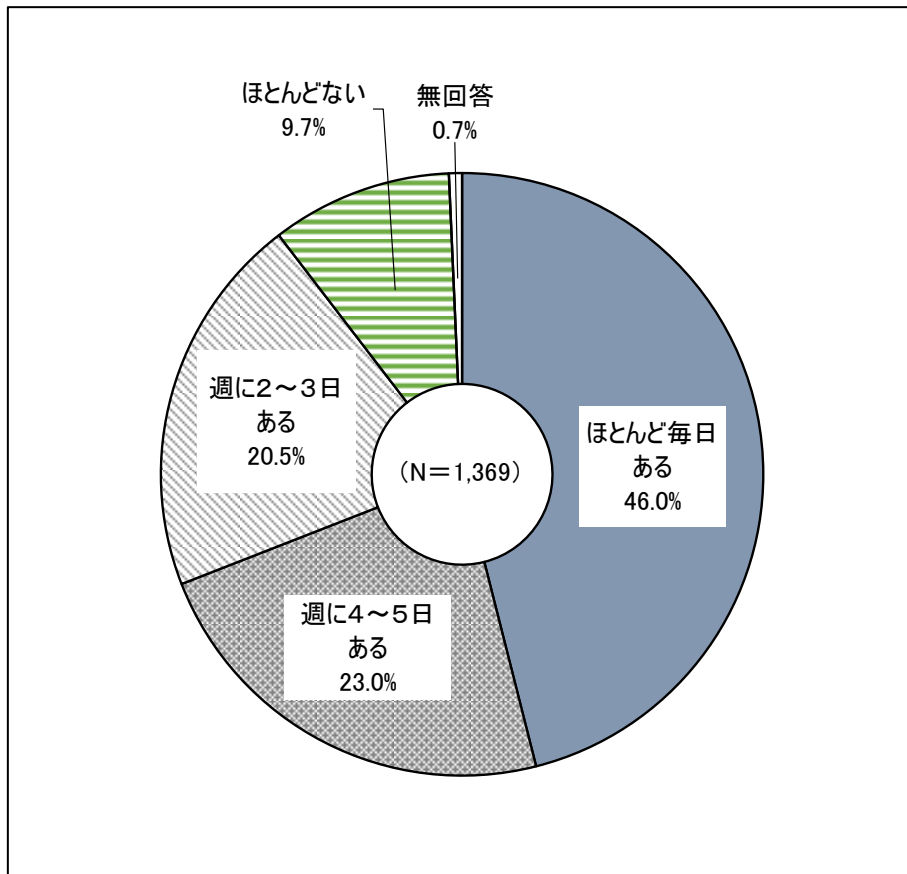
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 ほとんど毎日ある	46.0%(45.4%)
2 週に4～5日ある	23.0%(23.3%)
3 週に2～3日ある	20.5%(20.7%)
4 ほとんどない	9.7%(9.8%)
(無回答)	0.7%(0.8%)

食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて、「ほとんど毎日ある」46.0%が最も高く、次いで「週に4～5日ある」23.0%、「週に2～3日ある」20.5%、「ほとんどない」9.7%となっている。

図表 3-(4)-1 食事で主食・主菜・副菜の3種類の食事を1日に2回以上食べるのは週に何日あるかについて



(5)うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて

問18 うどんを食べるときは副食*を一緒に取るようにしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

※【副食】：小鉢や天ぷらなどのおかず（寿司やおにぎりなどのご飯類、パン類は除く。）

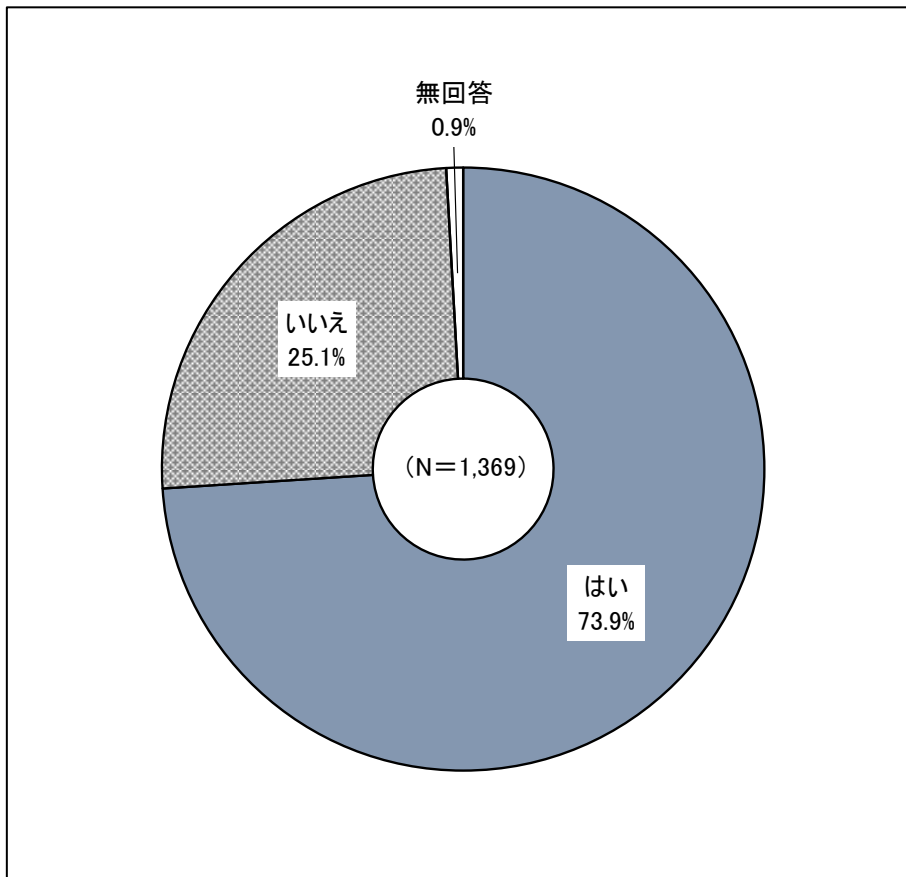
※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 はい	73.9%(73.4%)
2 いいえ	25.1%(25.7%)
(無回答)	0.9%(0.9%)

うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて、「はい」73.9%、「いいえ」25.1%となっている。

図表 3-(5)-1 うどんを食べるときは副食を一緒に取るようにしているかについて



(6)朝食を食べる回数について

問19 朝食を食べる回数について、次の中から1つだけ選んでください。

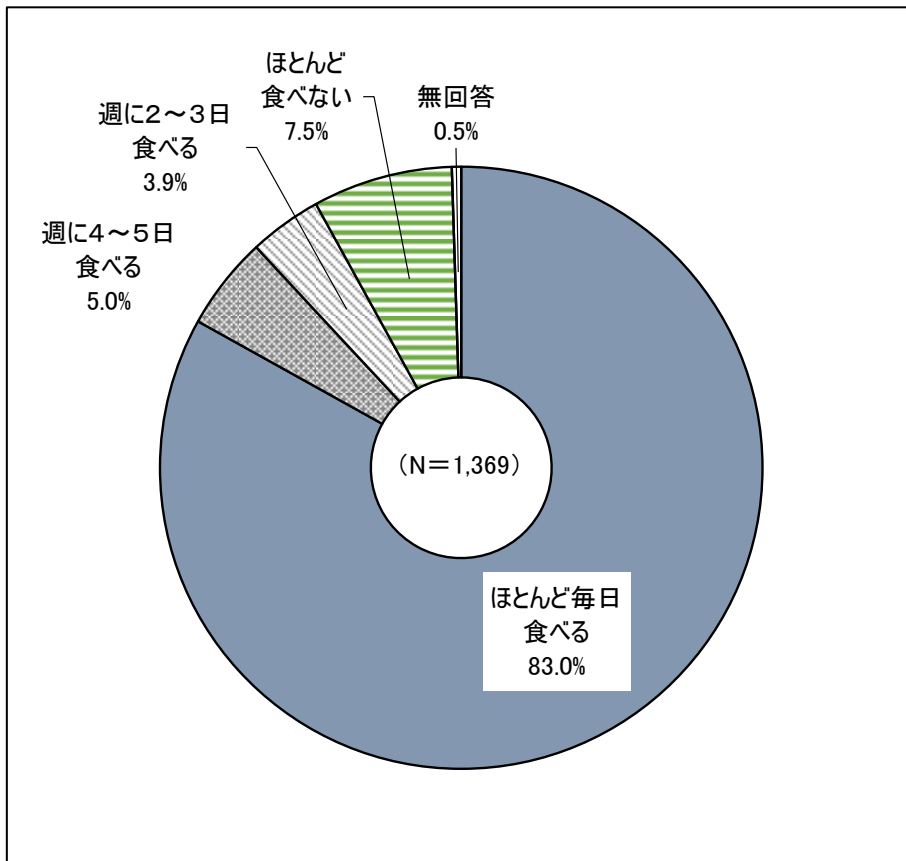
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 ほとんど毎日食べる	83.0%(81.6%)
2 週に4～5回食べる	5.0%(5.5%)
3 週に2～3回食べる	3.9%(4.3%)
4 ほとんど食べない	7.5%(8.0%)
(無回答)	0.5%(0.5%)

朝食を食べる回数について、「ほとんど毎日食べる」83.0%が最も高く、次いで「ほとんど食べない」7.5%、「週に4～5回食べる」5.0%、「週に2～3回食べる」3.9%となっている。

図表 3-(6)-1 朝食を食べる回数について



(7) 身長・体重について

問20 あなたの身長・体重をご記入ください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

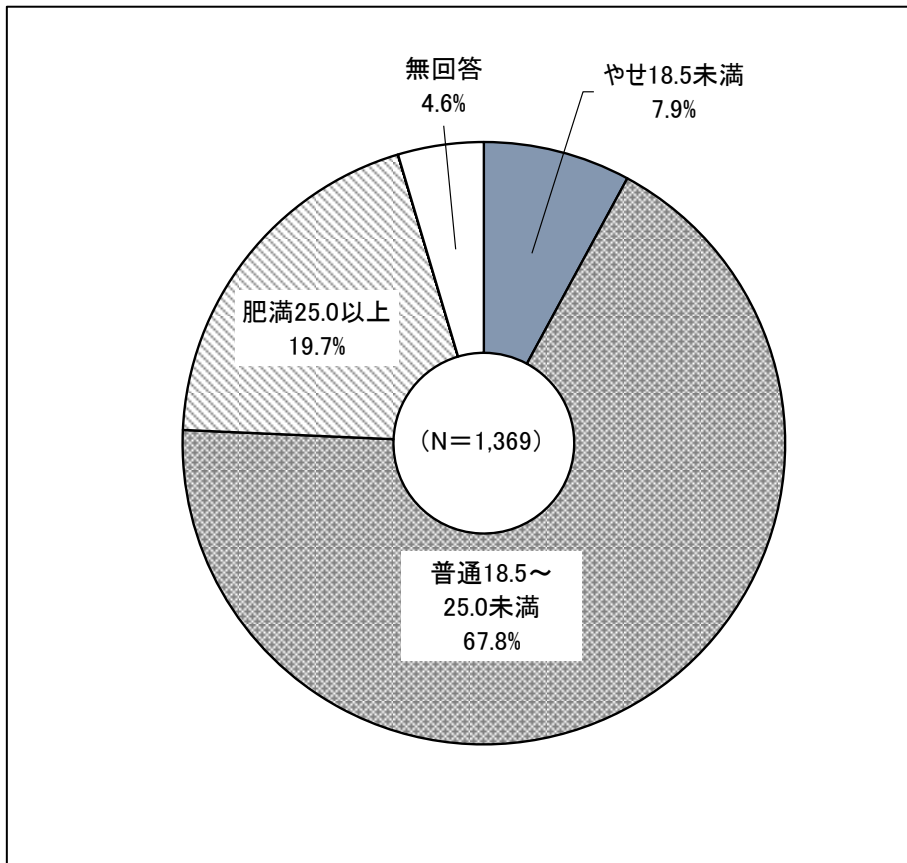
【回答者数=1,369】

- 1 身長 (平均 162cm)
- 2 体重 (平均 59kg)

身長と体重からのBMI 算出方法 体重(kg) ÷ (身長(m) × 身長(m))	
やせ 18.5 未満	7.9% (8.2%)
普通 18.5~25.0 未満	67.8% (67.7%)
肥満 25.0 以上	19.7% (18.9%)

身長・体重により BMI を算出したところ、「18.5 以上 25.0 未満 (普通)」67.8%が最も高く、次いで「25.0 以上 (肥満)」19.7%、「18.5 未満 (やせ)」7.9%となっている。

図表 3-(7)-1 BMI



(8) 県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて

問21 県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1	家庭における食育の推進	60.8%(61.0%)
2	学校・保育所などにおける食育の推進	54.1%(54.5%)
3	食の安全・安心の推進	52.7%(51.0%)
4	地産地消*の取り組みの推進	48.1%(48.0%)
5	ライフステージ（若年世代、働き盛り世代、高齢者など）に応じた食育の推進	47.1%(46.7%)
6	環境と調和のとれた食と農水産への理解の促進（食品ロスの削減の推進など）	36.4%(35.0%)
7	かがわの食文化の継承	26.4%(26.1%)
8	食育推進のための県民運動（地域のネットワークや各種広報媒体による普及啓発など）	10.4%(9.9%)
9	食に関するボランティアや関係団体などとの連携・協働による食育の推進	10.1%(10.0%)
10	その他	2.8%(2.7%)
11	分からない (無回答)	2.9%(2.6%) 1.2%(1.1%)

※ **地産地消**：「地域生産－地域消費」の略語で、地域でとれた農林水産物をできるだけ地域で消費しようという意味

県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて、「家庭における食育の推進」60.8%が最も高く、次いで「学校・保育所などにおける食育の推進」54.1%、「食の安全・安心の推進」52.7%、「地産地消の取り組みの推進」48.1%、「ライフステージ（若年世代、働き盛り世代、高齢者など）に応じた食育の推進」47.1%となっている。

図表 3-(8)-1 県民が健全な食生活を実践するために必要と思うことについて

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 家庭における食育の推進	60.8	832 人
(2) 学校・保育所などにおける食育の推進	54.1	740 人
(3) 食の安全・安心の推進	52.7	721 人
(4) 地産地消の取り組みの推進	48.1	658 人
(5) ライフステージ(若年世代、働き盛り世代、高齢者など)に応じた食育の推進	47.1	645 人
(6) 環境と調和のとれた食と農水産への理解の促進(食品ロスの削減の推進など)	36.4	498 人
(7) かがわの食文化の継承	26.4	361 人
(8) 食育推進のための県民運動(地域のネットワークや各種広報媒体による普及啓発など)	10.4	142 人
(9) 食に関するボランティアや関係団体などとの連携・協働による食育の推進	10.1	138 人
(10) その他	2.8	38 人
(11) 分からない	2.9	40 人
無回答	1.2	16 人

グラフ単位: (%)

(9) 今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて

問22 今後1年間、健全な食生活を実践するために、あなたはどのようなことをしたいと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並べ替え

1 栄養バランスのとれた食生活を実践したい	75.3%(75.3%)
2 食べ残しや食品の廃棄を削減したい	64.4%(64.0%)
3 規則正しい食生活を実践したい	63.3%(62.0%)
4 地場産物を購入したい	45.3%(44.9%)
5 食品の安全性について理解したい	40.5%(38.5%)
6 家族や友人と食卓を囲む機会を増やしたい	37.5%(39.0%)
7 家庭で調理する機会を増やしたい	28.6%(29.2%)
8 生産から消費までのプロセスを理解したい	10.7%(10.3%)
9 食文化を伝承したい	10.4%(10.3%)
10 その他	2.1%(1.9%)
11 何もしたいと思わない	1.3%(1.2%)
(無回答)	0.7%(0.6%)

今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて、「栄養バランスのとれた食生活を実践したい」75.3%が最も高く、次いで「食べ残しや食品の廃棄を削減したい」64.4%、「規則正しい食生活を実践したい」63.3%、「地場産物を購入したい」45.3%となっている。

図表 3-(9)-1 今後1年間、健全な食生活を実践するためにどのようなことをしたいかについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,369人
(1) 栄養バランスのとれた食生活を実践したい	75.3	1,031人
(2) 食べ残しや食品の廃棄を削減したい	64.4	882人
(3) 規則正しい食生活を実践したい	63.3	866人
(4) 地場産物を購入したい	45.3	620人
(5) 食品の安全性について理解したい	40.5	555人
(6) 家族や友人と食卓を囲む機会を増やしたい	37.5	513人
(7) 家庭で調理する機会を増やしたい	28.6	392人
(8) 生産から消費までのプロセスを理解したい	10.7	146人
(9) 食文化を伝承したい	10.4	143人
(10) その他	2.1	29人
(11) 何もしたいと思わない	1.3	18人
無回答	0.7	9人

グラフ単位: (%)

4. 人権問題について

(1) 人権が尊重されている社会であると思うかについて

問23 今の日本は人権が尊重されている社会であると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

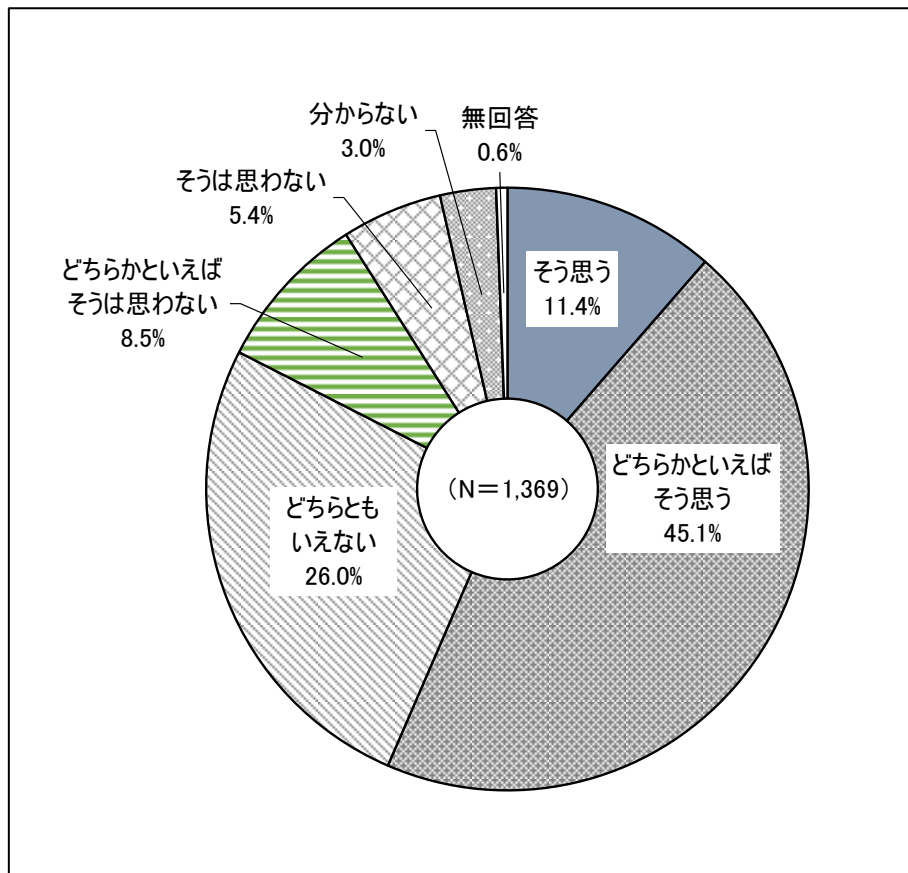
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 そう思う	11.4%(10.9%)
2 どちらかといえばそう思う	45.1%(45.0%)
3 どちらともいえない	26.0%(26.1%)
4 どちらかといえばそうは思わない	8.5%(8.7%)
5 そうは思わない	5.4%(5.9%)
6 分からない	3.0%(2.9%)
(無回答)	0.6%(0.5%)

人権が尊重されている社会であると思うかについて、「どちらかといえばそう思う」45.1%が最も高く、次いで、「どちらともいえない」26.0%、「そう思う」11.4%、「どちらかといえばそうは思わない」8.5%となっている。

図表 4-(1)-1 人権が尊重されている社会であると思うかについて



(2) 人権侵害について

問24 この5～6年の間に、日本で人権が侵害されるようなことが、少なくなってきたと思いますか、多くなってきたと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

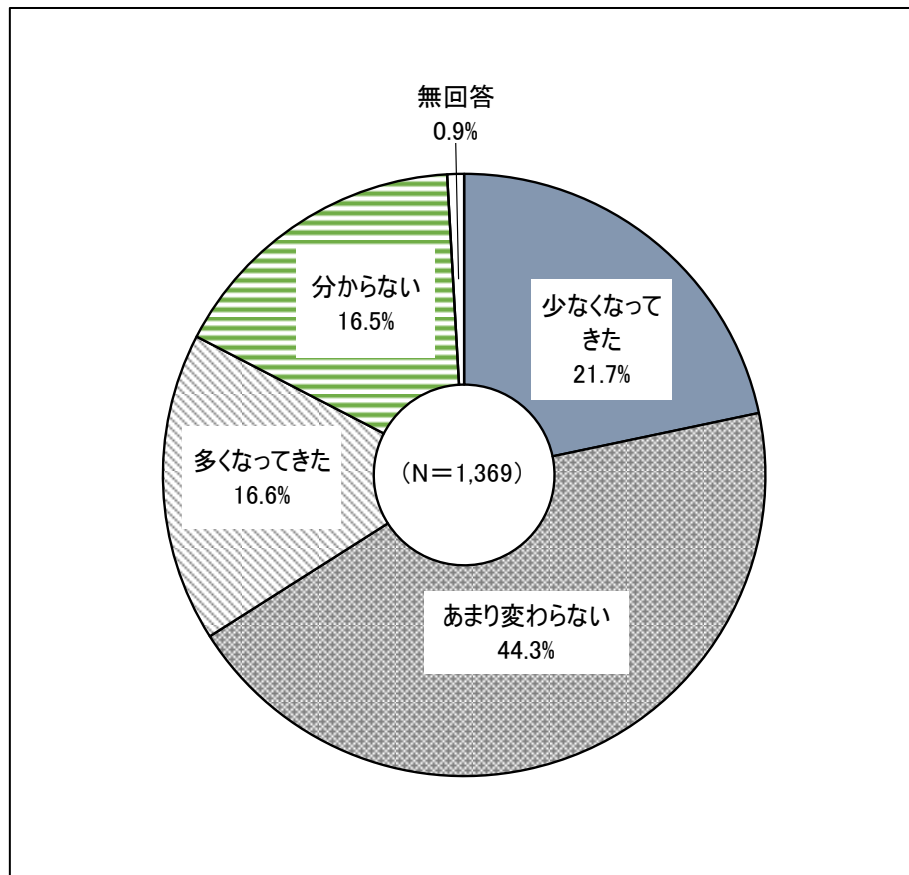
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 少なくなってきた	21.7%(21.6%)
2 あまり変わらない	44.3%(44.8%)
3 多くなってきた	16.6%(16.5%)
4 分からない	16.5%(16.3%)
(無回答)	0.9%(0.7%)

人権侵害について、「あまり変わらない」44.3%が最も高く、次いで「少なくなってきた」21.7%、「多くなってきた」16.6%、「分からない」16.5%となっている。

図表 4-(2)-1 人権侵害について



(3) 人権を侵害されたと思ったことについて

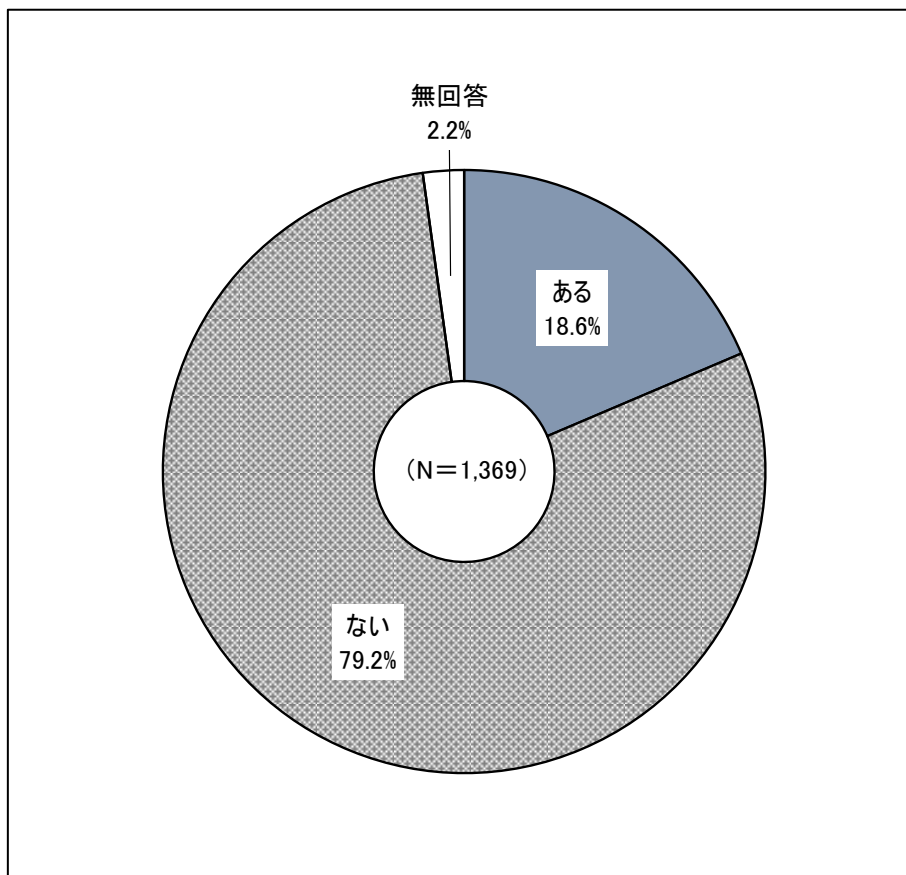
問25 あなた、または、あなたの家族が、今までに人権を侵害されたと思ったことがありますか。どちらか1つだけ選んでください。

【回答者数=1,369】

- | | | | |
|---|-----------------------|------------------------------|--------------------------------------|
| 1 | ある | 18.6% (18.5%) | ⇒ それはいつですか。直近の時期を1つだけ選んでください。 |
| | (1) 1年以内 | | } ⇒ 14ページ 付問7～8
にお進みください |
| | (2) 1年を超えて5年以内 | | |
| | (3) 5年を超えて10年以内 | | |
| | (4) 10年を超えて20年以内 | | |
| | (5) 20年を超えて前
(無回答) | | |
| 2 | ない
(無回答) | 79.2% (79.4%)
2.2% (2.1%) | ⇒ 14ページ 問26にお進みください |

人権を侵害されたと思ったことについて、「ある」18.6%、「ない」79.2%となっている。

図表 4-(3)-1 人権を侵害されたと思ったことについて



(4) 人権を侵害されたと思った直近の時期について

問25-1 それはいつですか。直近の時期を1つだけ選んでください。

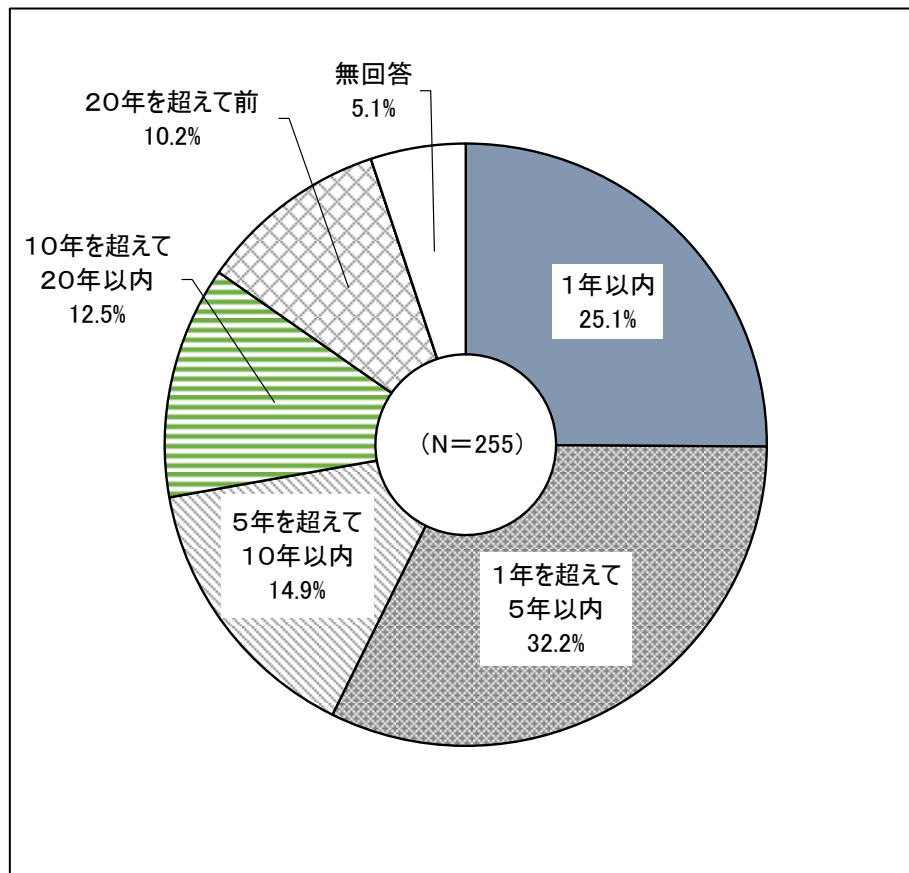
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】

(1) 1年以内	25.1% (26.4%)
(2) 1年を超えて5年以内	32.2% (33.6%)
(3) 5年を超えて10年以内	14.9% (13.9%)
(4) 10年を超えて20年以内	12.5% (12.1%)
(5) 20年を超えて前	10.2% (9.1%)
(無回答)	5.1% (4.9%)

人権を侵害されたと思った直近の時期について、「1年を超えて5年以内」32.2%が最も高く、次いで「1年以内」25.1%、「5年を超えて10年以内」14.9%、「10年を超えて20年以内」12.5%となっている。

図表 4-(4)-1 人権を侵害されたと思った直近の時期について



(5) 人権侵害の内容について

【付問7と付問8については、問25で「1」と答えた方にお聞きします】

付問7 あなた、または、あなたの家族は、どのようなことで人権が侵害されたと思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】※回答数の多い順に並び替え

1	あらぬうわさ、悪口、かげ口	40.0%(41.1%)
2	職場での不当な待遇	33.3%(32.4%)
3	なかまはずれ、嫌がらせ	32.9%(33.3%)
4	パワー・ハラスメント	31.4%(31.5%)
5	名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	28.2%(26.9%)
6	差別待遇（人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取り扱いをされた）	21.6%(22.9%)
7	プライバシーの侵害	14.1%(16.2%)
8	学校での不当な待遇	9.8%(10.0%)
9	セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）	8.2%(8.7%)
10	インターネットやSNS（スマホ）上での誹謗中傷	4.7%(6.0%)
11	ストーカー行為	4.7%(5.1%)
12	家庭内暴力	4.7%(5.1%)
13	虐待	1.6%(1.8%)
14	その他	7.8%(7.8%)
	（無回答）	3.9%(4.0%)

人権侵害の内容について、「あらぬうわさ、悪口、かげ口」40.0%が最も高く、次いで「職場での不当な待遇」33.3%、「なかまはずれ、嫌がらせ」32.9%、「パワー・ハラスメント」31.4%などとなっている。

図表 4-(5)-1 人権侵害の内容について

		回答数
全体	100.0	255 人
(1) あらぬうわさ、悪口、かげ口	40.0	102 人
(2) 職場での不当な待遇	33.3	85 人
(3) なかまはずれ、嫌がらせ	32.9	84 人
(4) パワー・ハラスメント	31.4	80 人
(5) 名誉や信用を傷つけられた、侮辱された	28.2	72 人
(6) 差別待遇(人種・信条・性別・社会的身分などにより、不平等または不利益な取り扱いをされた)	21.6	55 人
(7) プライバシーの侵害	14.1	36 人
(8) 学校での不当な待遇	9.8	25 人
(9) セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)	8.2	21 人
(10) インターネットやSNS(スマホ)上での誹謗中傷	4.7	12 人
(11) ストーカー行為	4.7	12 人
(12) 家庭内暴力	4.7	12 人
(13) 虐待	1.6	4 人
(14) その他	7.8	20 人
無回答	3.9	10 人

グラフ単位：(%)

(6) 人権侵害があったときの対応について

付問8 人権侵害があったとき、どのような対応をされましたか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=255】 ※回答数の多い順に並び替え

1 何もせず、我慢した・無視した	56.5%(56.7%)
2 家族・親戚に相談した	34.9%(36.7%)
3 友だち・同僚・職場の上司に相談した	30.2%(30.5%)
4 相手に抗議するなどした	23.9%(24.1%)
5 県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	7.5%(7.4%)
6 警察に相談した	7.1%(7.7%)
7 民間団体などに相談した	2.4%(2.5%)
8 弁護士に相談した	2.0%(1.4%)
9 法務局または人権擁護委員に相談した	0.8%(0.8%)
10 地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	0.8%(0.8%)
11 その他	6.3%(6.3%)
(無回答)	3.1%(3.2%)

人権侵害があったときの対応について、「何もせず、我慢した・無視した」56.5%が最も高く、次いで「家族・親戚に相談した」34.9%、「友だち・同僚・職場の上司に相談した」30.2%、「相手に抗議するなどした」23.9%などとなっている。

図表 4-(6)-1 人権侵害があったときの対応について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	255 人
(1) 何もせず、我慢した・無視した	56.5	144 人
(2) 家族・親戚に相談した	34.9	89 人
(3) 友だち・同僚・職場の上司に相談した	30.2	77 人
(4) 相手に抗議するなどした	23.9	61 人
(5) 県庁・市役所・町役場・学校・隣保館に相談した	7.5	19 人
(6) 警察に相談した	7.1	18 人
(7) 民間団体などに相談した	2.4	6 人
(8) 弁護士に相談した	2.0	5 人
(9) 法務局または人権擁護委員に相談した	0.8	2 人
(10) 地域の自治会長や民生委員・児童委員に相談した	0.8	2 人
(11) その他	6.3	16 人
無回答	3.1	8 人

グラフ単位: (%)

(7) 人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について

問26 もし人権侵害と思われる差別的な言葉や動作を見聞きしたとき、あなたは、どのようにすると
 思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

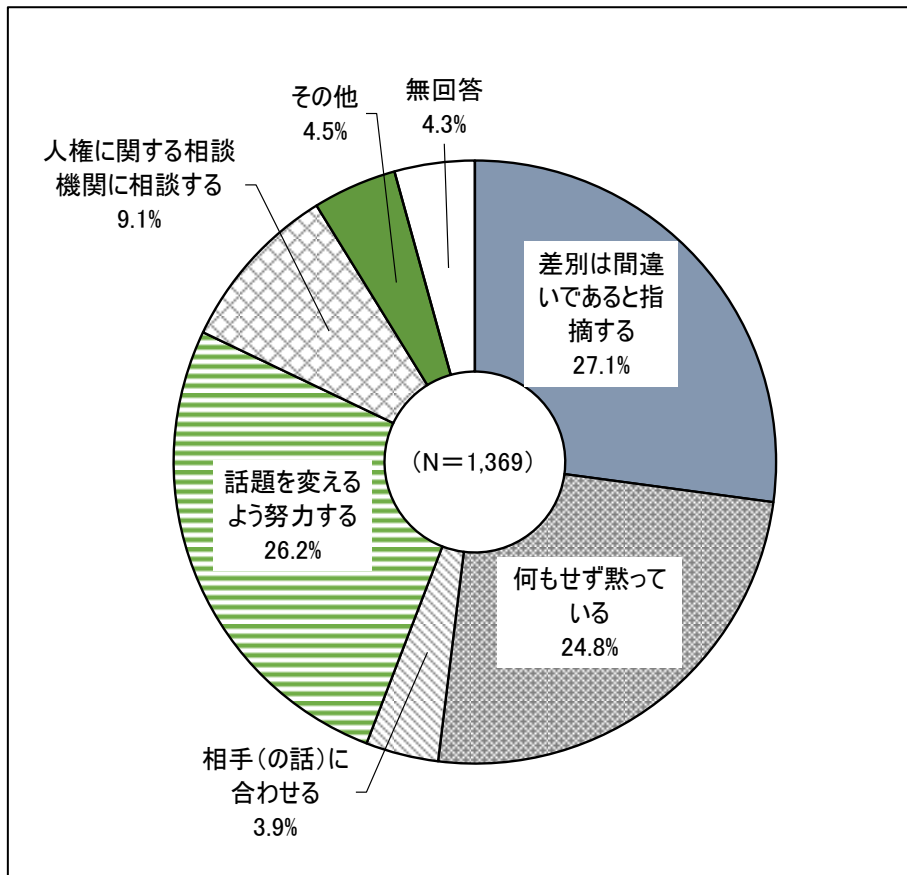
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 差別は間違いであると指摘する	27.1%(27.1%)
2 何もせず黙っている	24.8%(24.3%)
3 相手(の話)に合わせる	3.9%(4.2%)
4 話題を変えるよう努力する	26.2%(27.4%)
5 人権に関する相談機関(行政機関・隣保館・民間団体・人権擁護機関など)に相談する	9.1%(8.7%)
6 その他	4.5%(4.4%)
(無回答)	4.3%(3.9%)

人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について、「差別は間違いであると指摘する」27.1%が最も高く、次いで「話題を変えるよう努力する」26.2%、「何もせず黙っている」24.8%、「人権に関する相談機関(行政機関・隣保館・民間団体・人権擁護機関など)に相談する」9.1%、となっている。

図表 4-(7)-1 人権侵害と思う言動を見聞きしたときの行動について



(8) 関心のある人権課題について

問27 日本における人権課題について、あなたの関心があるものはどれですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1	障害者	50.5%(50.2%)
2	インターネットによる人権侵害	47.6%(47.7%)
3	女性	36.2%(37.5%)
4	高齢者	33.5%(31.0%)
5	子ども	32.4%(33.1%)
6	同和問題	22.5%(22.3%)
7	北朝鮮当局による拉致問題など	20.0%(18.7%)
8	性的少数者（同性愛や両性愛の人、性別違和の人（LGBT）など）	18.9%(19.6%)
9	外国人	15.0%(15.5%)
10	東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害	15.0%(14.5%)
11	新型コロナウイルス感染症	13.4%(13.1%)
12	犯罪被害者など	12.6%(12.9%)
13	ハンセン病回復者、HIV感染者など	10.8%(11.1%)
14	刑を終えて出所した人	9.8%(10.0%)
15	人身取引	9.2%(9.5%)
16	ホームレス	8.3%(8.3%)
17	アイヌの人々	5.2%(5.4%)
18	その他	1.3%(1.3%)
19	特にない (無回答)	7.5%(7.4%) 1.8%(1.6%)

関心のある人権課題について、「障害者」50.5%が最も高く、次いで「インターネットによる人権侵害」47.6%、「女性」36.2%、「高齢者」33.5%などとなっている。

図表 4-(8)-1 関心のある人権課題について

		回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) 障害者	50.5	691 人
(2) インターネットによる人権侵害	47.6	652 人
(3) 女性	36.2	495 人
(4) 高齢者	33.5	458 人
(5) 子ども	32.4	443 人
(6) 同和問題	22.5	308 人
(7) 北朝鮮当局による拉致問題など	20.0	274 人
(8) 性的少数者(同性愛や両性愛の人、性別違和の人(LGBT)など)	18.9	259 人
(9) 外国人	15.0	205 人
(10) 東日本大震災に伴う放射線被ばくについての風評被害	15.0	205 人
(11) 新型コロナウイルス感染症	13.4	184 人
(12) 犯罪被害者など	12.6	172 人
(13) ハンセン病回復者、HIV感染者など	10.8	148 人
(14) 刑を終えて出所した人	9.8	134 人
(15) 人身取引	9.2	126 人
(16) ホームレス	8.3	114 人
(17) アイヌの人々	5.2	71 人
(18) その他	1.3	18 人
(19) 特にない	7.5	103 人
無回答	1.8	24 人

グラフ単位：(%)

(9)人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について

問28 人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち、あなたが知っている項目はありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1	世界人権宣言	35.2%(36.3%)
2	人権週間(12月4日～10日)	32.9%(33.5%)
3	憲法週間(5月1日～7日)	22.4%(21.0%)
4	同和問題啓発強調月間(8月)	20.5%(20.1%)
5	部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)	19.4%(19.3%)
6	香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	17.1%(17.1%)
7	性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律	13.1%(13.1%)
8	本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)	9.8%(9.8%)
9	香川県人権教育・啓発に関する基本計画	9.5%(9.7%)
10	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	8.3%(8.4%)
11	特にない (無回答)	31.2%(30.7%) 5.6%(5.1%)

人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について、「世界人権宣言」35.2%が最も高く、次いで「人権週間(12月4日～10日)」32.9%、「憲法週間(5月1日～7日)」22.4%、「同和問題啓発強調月間(8月)」20.5%などとなっている。

図表 4-(9)-1 人権に関わる宣言、法律、条例、計画、啓発行事のうち知っている項目について

	割合	回答数
全体	100.0	1,369人
(1) 世界人権宣言	35.2	482人
(2) 人権週間(12月4日～10日)	32.9	451人
(3) 憲法週間(5月1日～7日)	22.4	307人
(4) 同和問題啓発強調月間(8月)	20.5	281人
(5) 部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)	19.4	265人
(6) 香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例	17.1	234人
(7) 性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律	13.1	179人
(8) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)	9.8	134人
(9) 香川県人権教育・啓発に関する基本計画	9.5	130人
(10) 人権教育及び人権啓発の推進に関する法律	8.3	114人
(11) 特にない	31.2	427人
無回答	5.6	76人

グラフ単位：(%)

(10)「同和問題」、「部落差別」について

問29 多くの人権課題がある中で、日本の社会に「同和問題」、「部落差別」などと言われる問題があることを知っていますか。次の中から1つだけ選んでください。

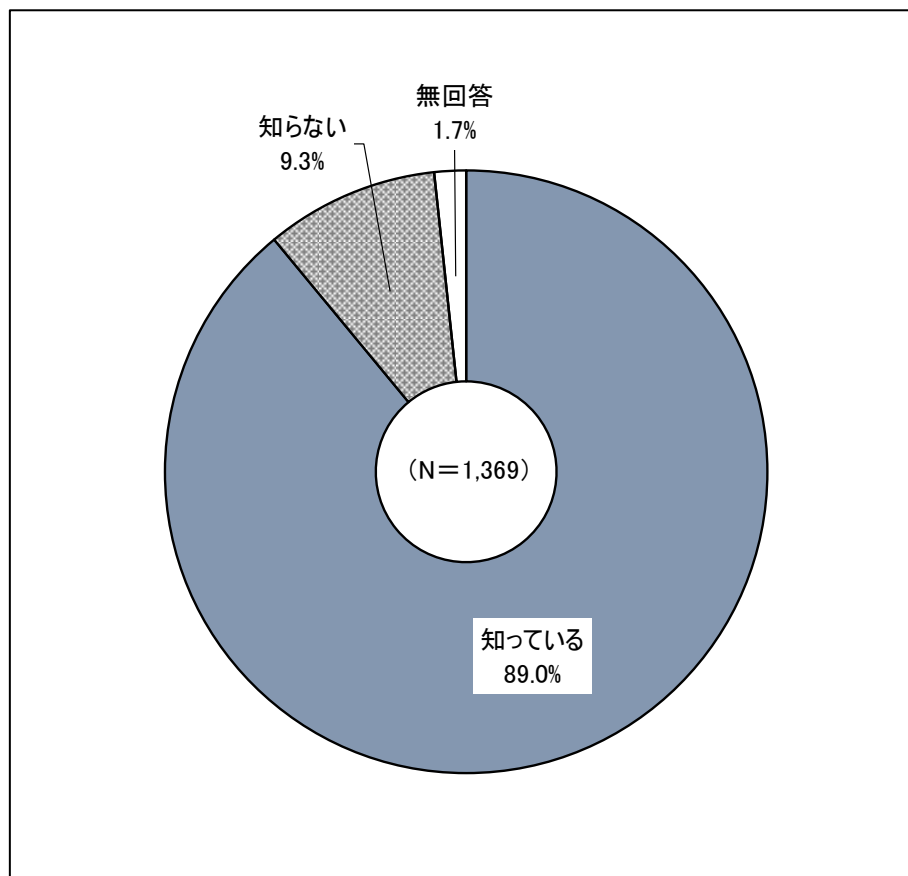
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

- | | | |
|---------|---------------|------------------------|
| 1 知っている | 89.0% (88.5%) | ⇒ 16ページ 付問9～12にお進みください |
| 2 知らない | 9.3% (9.9%) | ⇒ 17ページ 問30にお進みください |
| (無回答) | 1.7% (1.6%) | |

「同和問題」、「部落差別」について、「知っている」89.0%、「知らない」9.3%となっている。

図表 4-(10)-1 「同和問題」、「部落差別」について



(11) 同和問題を初めて知ったきっかけについて

【付問9から付問12までについては、問29で「1」と答えた方にお聞きします】

付問9 同和問題について、あなたが初めて知ったきっかけは何ですか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】

1 家族から聞いた	34.6%(31.5%)
2 近所の人から聞いた	6.0%(5.6%)
3 職場の人から聞いた	5.1%(4.9%)
4 講演会・研修会など	6.2%(5.6%)
5 学校の授業	34.6%(39.6%)
6 テレビ、新聞など	6.4%(6.1%)
7 インターネットやSNS (スマホ)	0.3%(0.4%)
8 その他	2.8%(2.6%)
9 分からない	3.1%(2.8%)
(無回答)	0.9%(0.8%)

同和問題を初めて知ったきっかけについて、「家族から聞いた」、「学校の授業」が同率の34.6%で最も高く、次いで「テレビ、新聞など」6.4%、「講演会・研修会など」6.2%、「近所の人から聞いた」6.0%などとなっている。

図表 4-(11)-1 同和問題を初めて知ったきっかけについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,218 人
(1) 家族から聞いた	34.6	421 人
(2) 近所の人から聞いた	6.0	73 人
(3) 職場の人から聞いた	5.1	62 人
(4) 講演会・研修会など	6.2	76 人
(5) 学校の授業	34.6	421 人
(6) テレビ、新聞など	6.4	78 人
(7) インターネットやSNS(スマホ)	0.3	4 人
(8) その他	2.8	34 人
(9) 分からない	3.1	38 人
無回答	0.9	11 人

グラフ単位：(%)

(12) 同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について

付問10 同和問題に関して、あなたはこれまで、どのような差別を見聞きしたことがありますか。次の中から3つまでを選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】※回答数の多い順に並べ替え

1 結婚問題での周囲の反対	51.4%(48.9%)
2 差別的な言動	42.4%(43.8%)
3 身元調査を実施すること	30.8%(29.0%)
4 就職・職場での差別・不利な扱い	15.2%(15.8%)
5 地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	15.2%(15.4%)
6 土地差別調査（土地や建物の取引に関連して、同和地区の有無などの差別的な調査をすること）の実施	13.3%(13.1%)
7 インターネットやSNS（スマホ）を悪用した差別的な情報の掲載	11.7%(14.1%)
8 差別的な落書き	5.3%(5.4%)
9 その他	2.1%(2.0%)
10 特にない	14.4%(14.3%)
11 分からない	4.1%(3.9%)
(無回答)	1.3%(1.2%)

同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について、「結婚問題での周囲の反対」51.4%が最も高く、次いで「差別的な言動」42.4%、「身元調査を実施すること」30.8%、「就職・職場での差別・不利な扱い」、「地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い」が同率の15.2%となっている。

図表 4-(12)-1 同和問題に関して見聞きしたことがある差別の内容について

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,218 人
(1) 結婚問題での周囲の反対	51.4	626 人
(2) 差別的な言動	42.4	516 人
(3) 身元調査を実施すること	30.8	375 人
(4) 就職・職場での差別・不利な扱い	15.2	185 人
(5) 地域の活動や付き合いでの差別・不利な扱い	15.2	185 人
(6) 土地差別調査(土地や建物の取引に関連して、同和地区の有無などの差別的な調査をすること)の実施	13.3	162 人
(7) インターネットやSNS(スマホ)を悪用した差別的な情報の掲載	11.7	143 人
(8) 差別的な落書き	5.3	64 人
(9) その他	2.1	25 人
(10) 特にない	14.4	175 人
(11) 分からない	4.1	50 人
無回答	1.3	16 人

グラフ単位：(%)

(13) 同和問題を解決するために必要と思われることについて

付問11 同和問題を解決するために必要と思われることは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】※回答数の多い順に並び替え

1 人権全般にわたっての意識を高める	49.7%(48.7%)
2 家庭で子どもに差別しないように教える	37.4%(37.6%)
3 えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	26.8%(26.4%)
4 啓発・広報活動を推進する	23.9%(22.7%)
5 どのようにしても差別はなくなる	20.1%(20.7%)
6 人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	17.9%(18.7%)
7 相談活動を充実する	14.0%(13.9%)
8 そっとしておけば差別は自然になる	13.0%(12.5%)
9 差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	12.6%(12.7%)
10 相互の理解を深める交流会を開催する	10.9%(11.8%)
11 その他	5.9%(6.2%)
12 分からない	9.7%(9.1%)
(無回答)	1.2%(1.1%)

同和問題を解決するために必要と思われることについて、「人権全般にわたっての意識を高める」49.7%が最も高く、次いで「家庭で子どもに差別しないように教える」37.4%、「えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する」26.8%、「啓発・広報活動を推進する」23.9%などとなっている。

図表 4-(13)-1 同和問題を解決するために必要と思われることについて

	割合 (%)	回答数
全体	100.0	1,218 人
(1) 人権全般にわたっての意識を高める	49.7	605 人
(2) 家庭で子どもに差別しないように教える	37.4	456 人
(3) えせ同和行為(差別を利用した不当要求行為)を排除する	26.8	327 人
(4) 啓発・広報活動を推進する	23.9	291 人
(5) どのようにしても差別はなくなる	20.1	245 人
(6) 人権が侵害された被害者の救済制度を充実する	17.9	218 人
(7) 相談活動を充実する	14.0	171 人
(8) そっとしておけば差別は自然になる	13.0	158 人
(9) 差別に関わることを見聞きしたときは、その場で注意する	12.6	154 人
(10) 相互の理解を深める交流会を開催する	10.9	133 人
(11) その他	5.9	72 人
(12) 分からない	9.7	118 人
無回答	1.2	15 人

グラフ単位: (%)

(14) 子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について

付問12 あなたのお子さんの結婚しようとする相手が、同和地区の人であると分かった場合、あなたはどうすると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

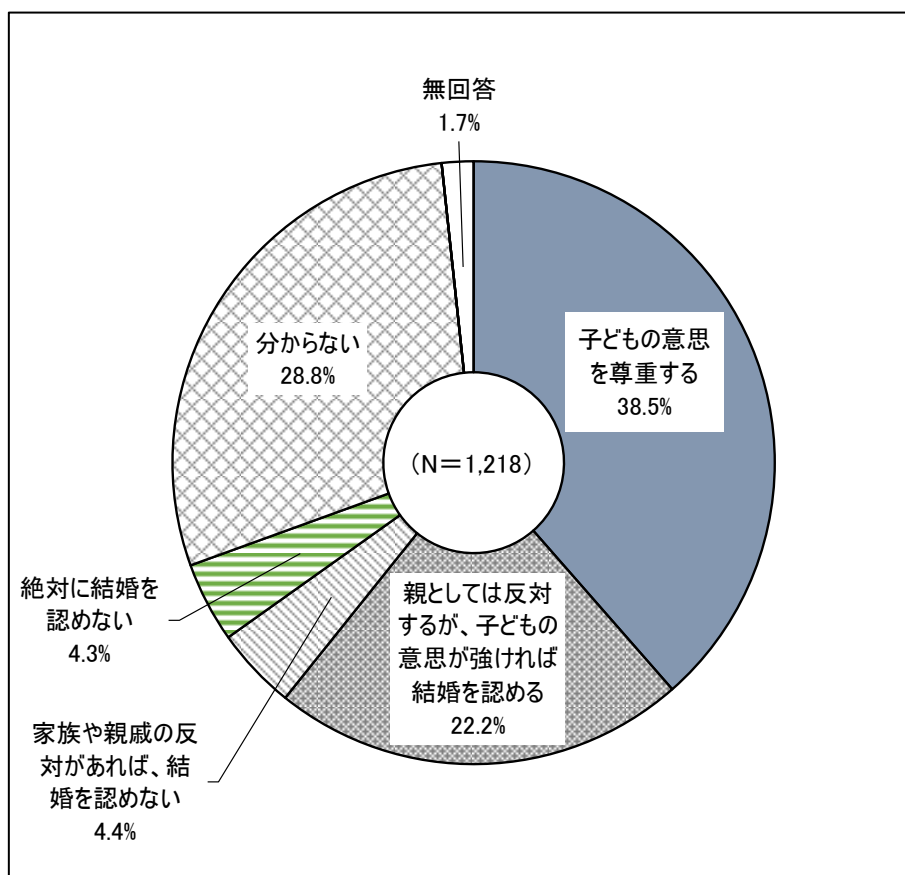
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,218】

1 子どもの意思を尊重する	38.5% (40.3%)
2 親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める	22.2% (21.3%)
3 家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない	4.4% (4.4%)
4 絶対に結婚を認めない	4.3% (4.0%)
5 分からない	28.8% (28.3%)
(無回答)	1.7% (1.7%)

子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について、「子どもの意思を尊重する」38.5%が最も高く、次いで「分からない」28.8%、「親としては反対するが、子どもの意思が強ければ結婚を認める」22.2%、「家族や親戚の反対があれば、結婚を認めない」4.4%となっている。

図表 4-(14)-1 子どもの結婚相手が同和地区出身だった場合の対応について



(15)効果的であると思われる人権啓発広報活動について

問30 あなたは、人権啓発を推進するためには、県民に対してどのような啓発広報活動が効果的であると思いますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビ・ラジオを活用した啓発	42.7%(43.0%)
2	県・市町の広報誌	35.3%(34.6%)
3	インターネットやSNS（スマホ）	27.7%(31.4%)
4	新聞・雑誌・週刊誌	19.9%(19.7%)
5	高齢者・障害者などの擬似体験	18.7%(18.6%)
6	講演会や研修会、座談会	17.8%(16.7%)
7	映画・ビデオを活用した啓発	15.6%(16.2%)
8	人権問題をテーマとした行事（じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など）	14.2%(14.1%)
9	パンフレット・ポスター	13.3%(13.5%)
10	相互の理解を深めるための交流会	12.3%(12.2%)
11	その他	4.7%(4.7%)
	(無回答)	10.7%(10.1%)

効果的であると思われる人権啓発広報活動について、「テレビ・ラジオを活用した啓発」42.7%が最も高く、次いで「県・市町の広報誌」35.3%、「インターネットやSNS（スマホ）」27.7%、「新聞・雑誌・週刊誌」19.9%などとなっている。

図表 4-(15)-1 効果的であると思われる人権啓発広報活動について

	割合	回答数
全体	100.0	1,369 人
(1) テレビ・ラジオを活用した啓発	42.7	585 人
(2) 県・市町の広報誌	35.3	483 人
(3) インターネットやSNS(スマホ)	27.7	379 人
(4) 新聞・雑誌・週刊誌	19.9	273 人
(5) 高齢者・障害者などの擬似体験	18.7	256 人
(6) 講演会や研修会、座談会	17.8	244 人
(7) 映画・ビデオを活用した啓発	15.6	214 人
(8) 人権問題をテーマとした行事(じんけんフェスティバル、ポスターパネル展など)	14.2	194 人
(9) パンフレット・ポスター	13.3	182 人
(10) 相互の理解を深めるための交流会	12.3	169 人
(11) その他	4.7	65 人
無回答	10.7	147 人

グラフ単位：(%)

(16)人権啓発活動への印象や感想について

問31 あなたは、過去1年間で、人権に関わる啓発を見聞きしたり参加したりして、どのような印象や感想を持ちましたか。次の中から1つだけ選んでください。

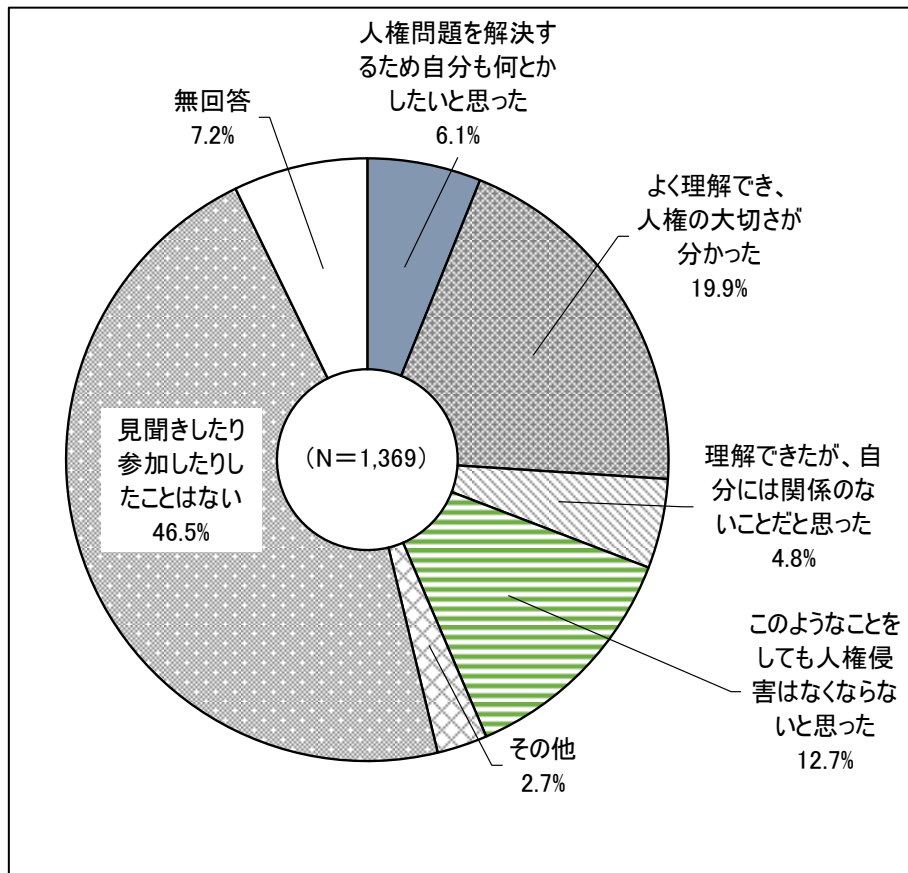
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った	6.1%(6.7%)
2 よく理解でき、人権の大切さが分かった	19.9%(20.5%)
3 理解できたが、自分には関係のないことだと思った	4.8%(4.8%)
4 このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った	12.7%(12.9%)
5 その他	2.7%(2.6%)
6 見聞きしたり参加したりしたことはない (無回答)	46.5%(45.8%) 7.2%(6.6%)

人権啓発活動への印象や感想について、「見聞きしたり参加したりしたことはない」46.5%が最も高く、次いで、「よく理解でき、人権の大切さが分かった」19.9%、「このようなことをしても人権侵害はなくならないと思った」12.7%、「人権問題を解決するため自分も何とかしたいと思った」6.1%となっている。

図表 4-(16)-1 人権啓発活動への印象や感想について



5. 県政の重要度と満足度について

県では、令和3年度からの新たな香川づくりの指針として、『人生100年時代のフロンティア県・香川』実現計画」※を策定しています。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ（要望）に対応した県政を進めるために、この計画で示している26の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いします。以下の質問にお答えください。

※「人生100年時代のフロンティア県・香川」実現計画

本県のめざす基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針となる総合計画で、計画期間は令和3年度から令和7年度の5年間です。

【香川県ホームページ】 https://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/sogo/sogokeikaku_minaoshi/keikakuminaoshi.html

(1)安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(重要度)

問32 計画の基本方針「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の実現に向けて展開している[1]～[13]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

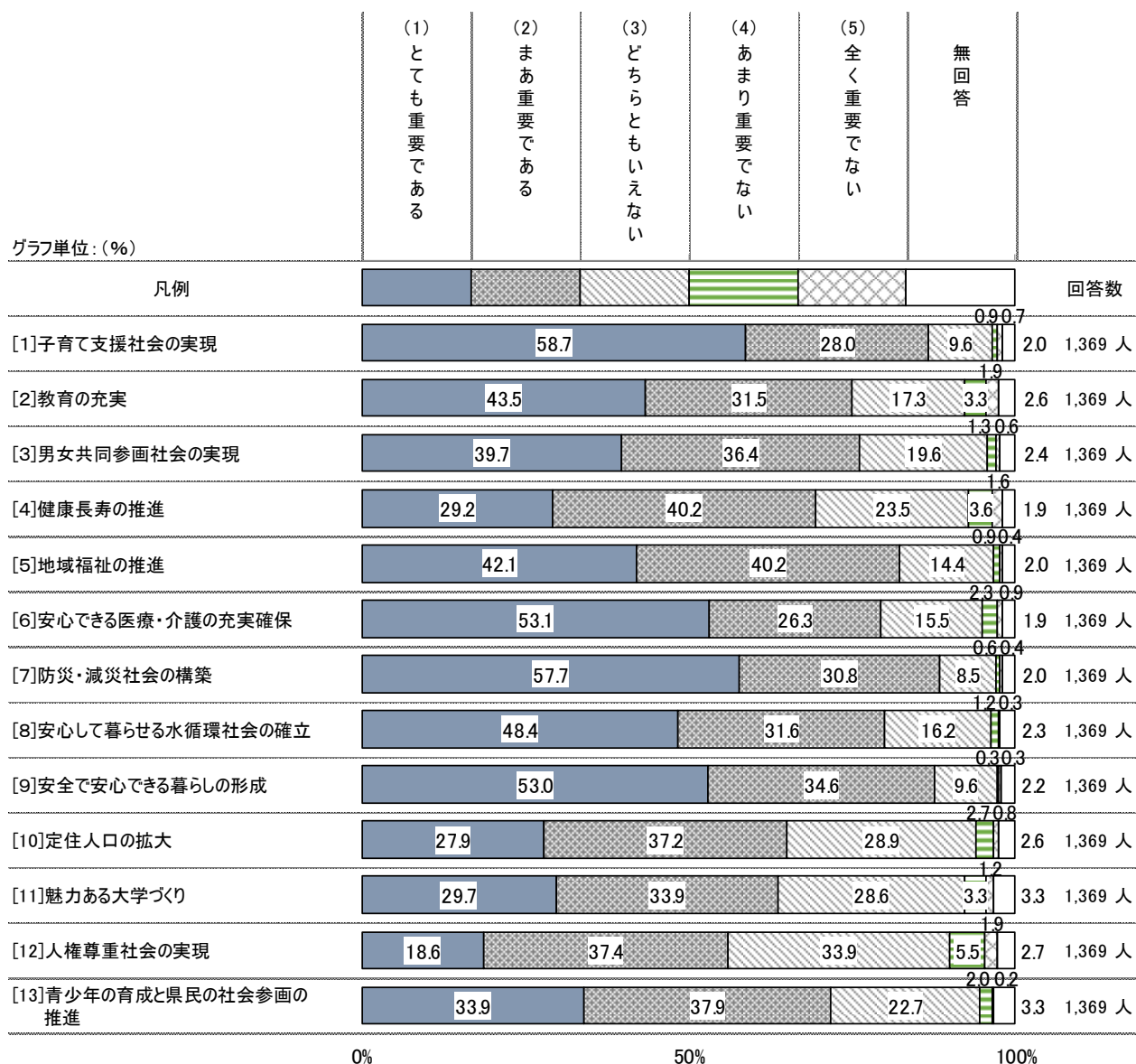
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[1] 子育て支援社会の実現	58.7 (61.3)	28.0 (26.3)	9.6 (9.0)	0.9 (0.9)	0.7 (0.6)	2.0 (2.0)
[2] 教育の充実	43.5 (42.7)	31.5 (30.8)	17.3 (17.8)	3.3 (4.0)	1.9 (2.2)	2.6 (2.4)
[3] 男女共同参画社会の実現	39.7 (42.1)	36.4 (35.3)	19.6 (18.4)	1.3 (1.3)	0.6 (0.6)	2.4 (2.3)
[4] 健康長寿の推進	29.2 (28.2)	40.2 (39.6)	23.5 (24.6)	3.6 (4.1)	1.6 (1.8)	1.9 (1.8)
[5] 地域福祉の推進	42.1 (42.9)	40.2 (39.1)	14.4 (14.7)	0.9 (0.9)	0.4 (0.4)	2.0 (2.0)
[6] 安心できる医療・介護の充実確保	53.1 (51.5)	26.3 (26.3)	15.5 (16.7)	2.3 (2.5)	0.9 (1.1)	1.9 (1.8)
[7] 防災・減災社会の構築	57.7 (57.2)	30.8 (30.9)	8.5 (8.9)	0.6 (0.6)	0.4 (0.5)	2.0 (2.0)
[8] 安心して暮らせる水循環社会の確立	48.4 (46.7)	31.6 (31.7)	16.2 (17.8)	1.2 (1.3)	0.3 (0.3)	2.3 (2.2)
[9] 安全で安心できる暮らしの形成	53.0 (53.4)	34.6 (33.7)	9.6 (10.1)	0.3 (0.3)	0.3 (0.4)	2.2 (2.1)
[10] 定住人口の拡大	27.9 (28.0)	37.2 (35.8)	28.9 (30.0)	2.7 (3.0)	0.8 (0.8)	2.6 (2.4)
[11] 魅力ある大学づくり	29.7 (31.9)	33.9 (33.6)	28.6 (26.7)	3.3 (3.3)	1.2 (1.2)	3.3 (3.2)
[12] 人権尊重社会の実現	18.6 (18.9)	37.4 (36.3)	33.9 (34.5)	5.5 (5.7)	1.9 (2.0)	2.7 (2.6)
[13] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	33.9 (36.0)	37.9 (36.3)	22.7 (22.2)	2.0 (2.1)	0.2 (0.3)	3.3 (3.2)

「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「防災・減災社会の構築」88.5%が最も高く、次いで「安全で安心できる暮らしの形成」87.6%、「子育て支援社会の実現」86.7%などとなっている。

図表 5-(1) 安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(重要度)



(2)安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(満足度)

問32 計画の基本方針「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の実現に向けて展開している[1]～[13]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

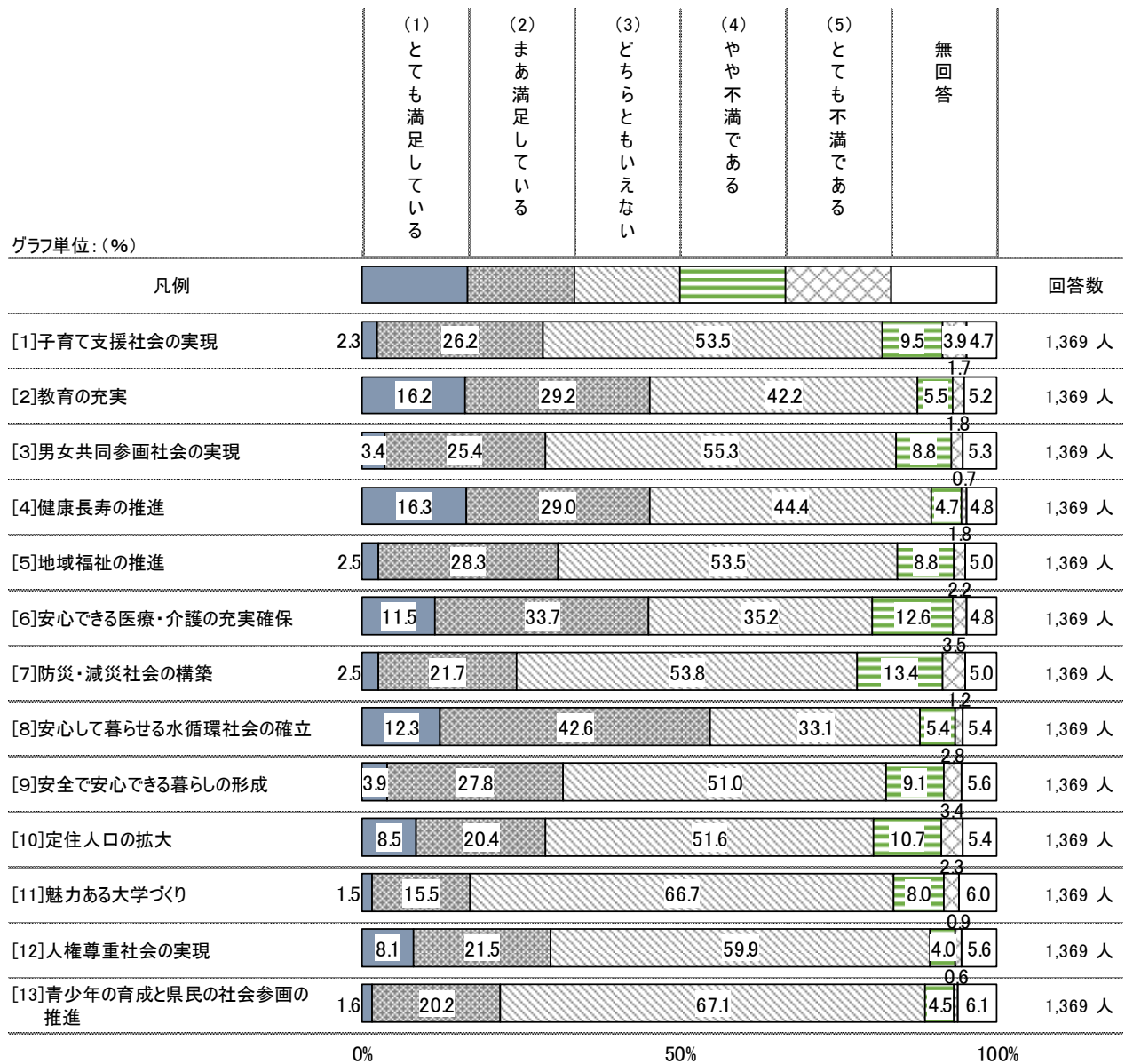
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[1] 子育て支援社会の実現	2.3 (2.8)	26.2 (25.5)	53.5 (53.2)	9.5 (10.1)	3.9 (4.0)	4.7 (4.4)
[2] 教育の充実	16.2 (18.3)	29.2 (29.1)	42.2 (40.3)	5.5 (5.8)	1.7 (1.5)	5.2 (4.9)
[3] 男女共同参画社会の実現	3.4 (4.3)	25.4 (25.8)	55.3 (54.0)	8.8 (8.9)	1.8 (2.0)	5.3 (5.0)
[4] 健康長寿の推進	16.3 (18.9)	29.0 (28.4)	44.4 (43.1)	4.7 (4.3)	0.7 (0.7)	4.8 (4.6)
[5] 地域福祉の推進	2.5 (2.9)	28.3 (28.5)	53.5 (53.1)	8.8 (8.9)	1.8 (1.8)	5.0 (4.8)
[6] 安心できる医療・介護の充実確保	11.5 (13.4)	33.7 (33.6)	35.2 (33.8)	12.6 (12.3)	2.2 (2.3)	4.8 (4.5)
[7] 防災・減災社会の構築	2.5 (3.3)	21.7 (22.0)	53.8 (52.4)	13.4 (13.9)	3.5 (3.6)	5.0 (4.8)
[8] 安心して暮らせる水循環社会の確立	12.3 (13.7)	42.6 (42.1)	33.1 (32.1)	5.4 (5.6)	1.2 (1.2)	5.4 (5.2)
[9] 安全で安心できる暮らしの形成	3.9 (4.4)	27.8 (26.9)	51.0 (51.1)	9.1 (9.4)	2.8 (3.0)	5.6 (5.3)
[10] 定住人口の拡大	8.5 (10.5)	20.4 (21.2)	51.6 (49.0)	10.7 (10.7)	3.4 (3.5)	5.4 (5.1)
[11] 魅力ある大学づくり	1.5 (2.0)	15.5 (15.7)	66.7 (65.5)	8.0 (8.5)	2.3 (2.7)	6.0 (5.6)
[12] 人権尊重社会の実現	8.1 (9.7)	21.5 (22.4)	59.9 (57.7)	4.0 (3.8)	0.9 (1.1)	5.6 (5.3)
[13] 青少年の育成と県民の社会参画の推進	1.6 (2.4)	20.2 (20.9)	67.1 (66.2)	4.5 (4.2)	0.6 (0.6)	6.1 (5.8)

「安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「安心して暮らせる水循環社会の確立」の満足度が高くなっている。

図表 5-(2) 安全・安心で住みたくなる香川をつくる『県民100万人計画』(満足度)



(3) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(重要度)

問33 計画の基本方針「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の実現に向けて展開している[14]～[23]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

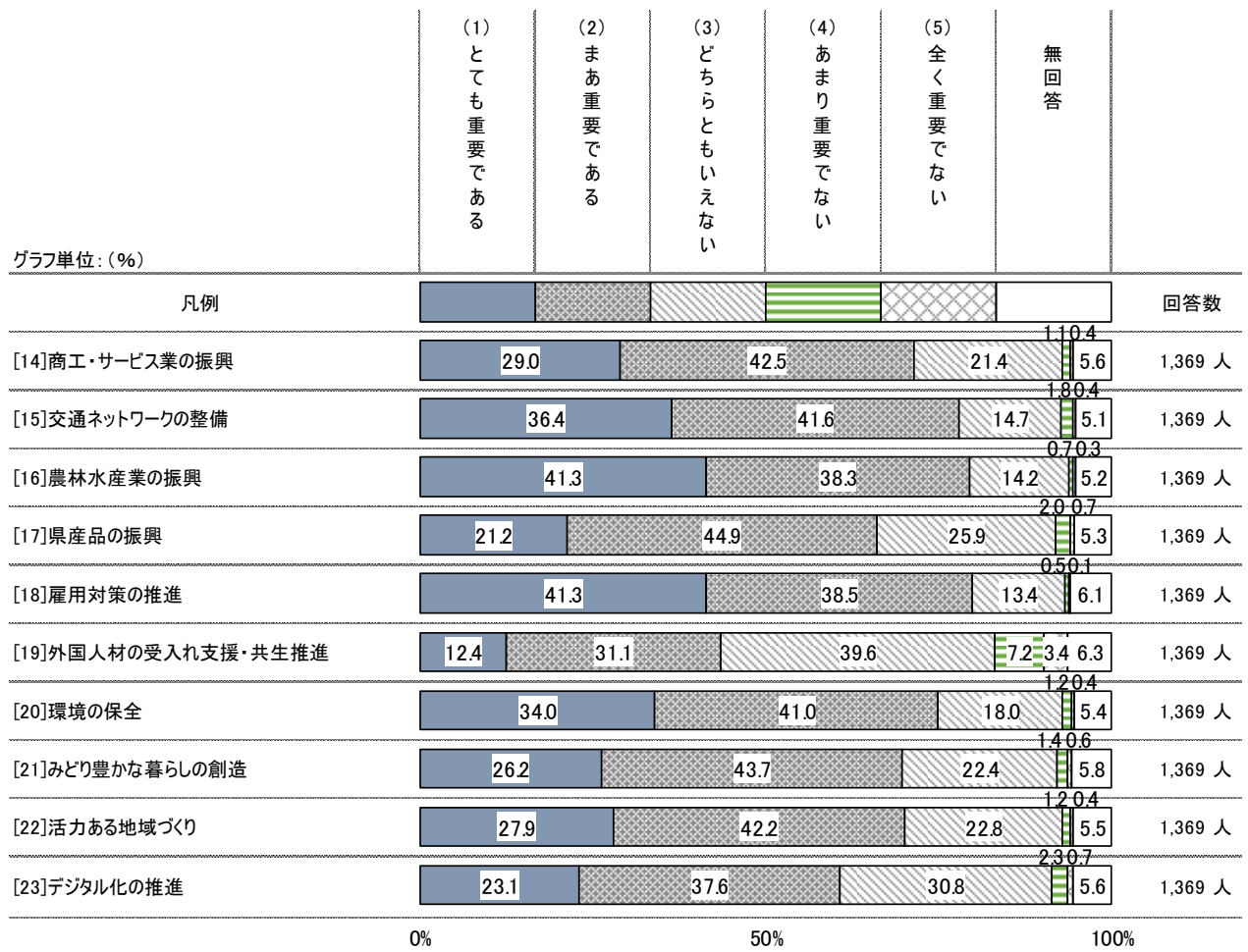
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分 野	重要度					
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	無回答
[14] 商工・サービス業の振興	29.0 (30.1)	42.5 (42.5)	21.4 (20.7)	1.1 (1.1)	0.4 (0.4)	5.6 (5.3)
[15] 交通ネットワークの整備	36.4 (36.7)	41.6 (41.4)	14.7 (14.8)	1.8 (1.9)	0.4 (0.4)	5.1 (4.8)
[16] 農林水産業の振興	41.3 (41.5)	38.3 (38.6)	14.2 (14.0)	0.7 (0.7)	0.3 (0.2)	5.2 (4.9)
[17] 県産品の振興	21.2 (22.1)	44.9 (44.6)	25.9 (25.4)	2.0 (2.3)	0.7 (0.6)	5.3 (5.0)
[18] 雇用対策の推進	41.3 (42.7)	38.5 (38.4)	13.4 (12.7)	0.5 (0.4)	0.1 (0.1)	6.1 (5.7)
[19] 外国人材の受入れ支援・共生推進	12.4 (13.9)	31.1 (30.7)	39.6 (38.4)	7.2 (7.3)	3.4 (3.7)	6.3 (5.9)
[20] 環境の保全	34.0 (34.4)	41.0 (41.3)	18.0 (17.6)	1.2 (1.1)	0.4 (0.5)	5.4 (5.1)
[21] みどり豊かな暮らしの創造	26.2 (26.8)	43.7 (44.0)	22.4 (21.9)	1.4 (1.3)	0.6 (0.5)	5.8 (5.5)
[22] 活力ある地域づくり	27.9 (28.2)	42.2 (42.5)	22.8 (22.5)	1.2 (1.2)	0.4 (0.4)	5.5 (5.2)
[23] デジタル化の推進	23.1 (24.4)	37.6 (37.6)	30.8 (29.9)	2.3 (2.2)	0.7 (0.6)	5.6 (5.3)

「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「雇用対策の推進」79.8%が最も高く、次いで「農林水産業の振興」79.6%、「交通ネットワークの整備」78.0%などとなっている。

図表 5-(3) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(重要度)



(4) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(満足度)

問33 計画の基本方針「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の実現に向けて展開している[14]～[23]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

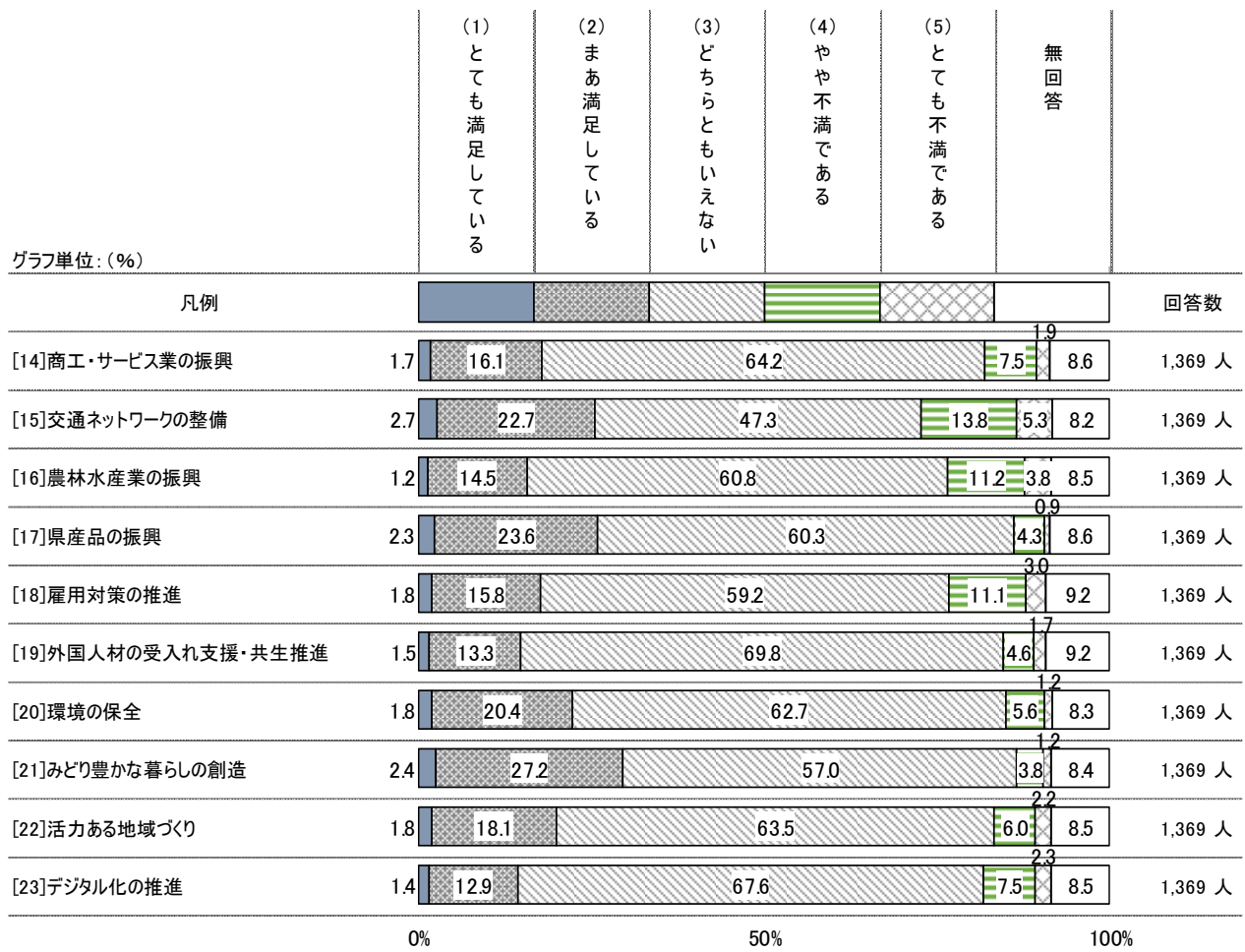
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[14] 商工・サービス業の振興	1.7 (2.4)	16.1 (17.1)	64.2 (62.7)	7.5 (7.7)	1.9 (2.0)	8.6 (8.2)
[15] 交通ネットワークの整備	2.7 (3.4)	22.7 (24.0)	47.3 (46.5)	13.8 (13.3)	5.3 (5.2)	8.2 (7.7)
[16] 農林水産業の振興	1.2 (1.3)	14.5 (15.1)	60.8 (61.2)	11.2 (10.7)	3.8 (3.7)	8.5 (8.0)
[17] 県産品の振興	2.3 (2.7)	23.6 (24.7)	60.3 (59.4)	4.3 (4.2)	0.9 (0.9)	8.6 (8.1)
[18] 雇用対策の推進	1.8 (1.9)	15.8 (16.9)	59.2 (57.5)	11.1 (11.7)	3.0 (3.2)	9.2 (8.7)
[19] 外国人材の受入れ支援・共生推進	1.5 (2.1)	13.3 (14.6)	69.8 (68.2)	4.6 (4.7)	1.7 (1.8)	9.2 (8.6)
[20] 環境の保全	1.8 (2.4)	20.4 (21.7)	62.7 (61.6)	5.6 (5.2)	1.2 (1.2)	8.3 (7.9)
[21] みどり豊かな暮らしの創造	2.4 (2.9)	27.2 (28.7)	57.0 (55.6)	3.8 (3.9)	1.2 (1.1)	8.4 (7.9)
[22] 活力ある地域づくり	1.8 (1.9)	18.1 (20.0)	63.5 (62.2)	6.0 (5.8)	2.2 (2.1)	8.5 (7.9)
[23] デジタル化の推進	1.4 (1.5)	12.9 (14.5)	67.6 (66.3)	7.5 (7.3)	2.3 (2.4)	8.5 (7.9)

「活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「みどり豊かな暮らしの創造」の満足度が高くなっている。

図表 5-(4) 活気に満ち挑戦できる香川をつくる『デジタル田園都市100計画』(満足度)



(5) 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』(重要度)

問34 計画の基本方針「多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』」の実現に向けて展開している[24]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

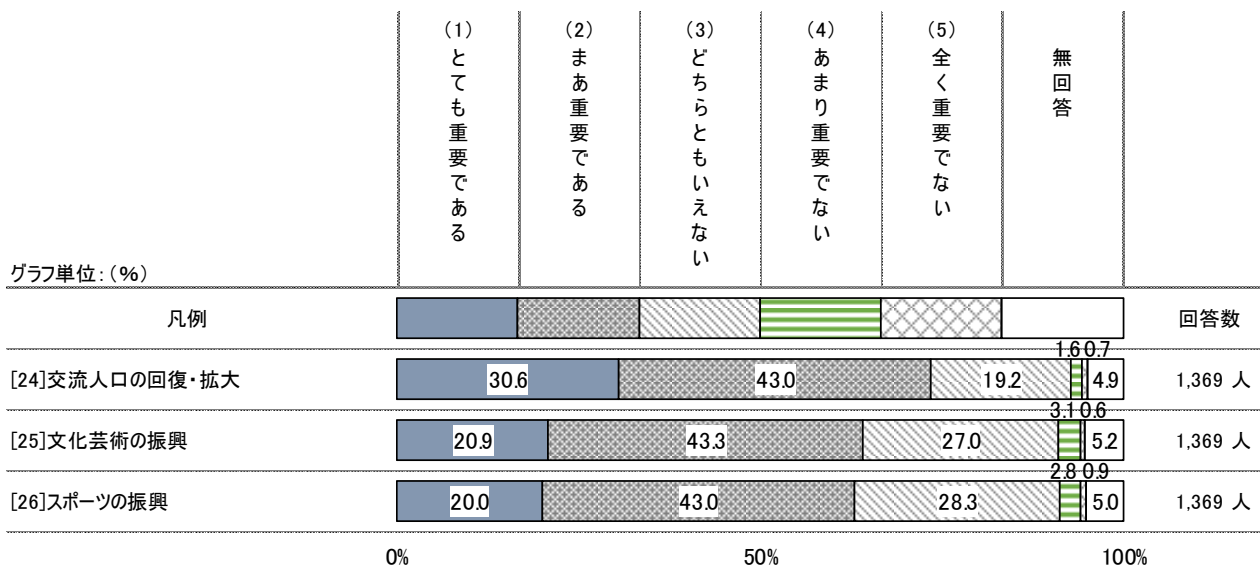
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分野	重要度					無回答
	(1) とても重要である	(2) まあ重要である	(3) どちらともいえない	(4) あまり重要でない	(5) 全く重要でない	
[24] 交流人口の回復・拡大	30.6 (32.0)	43.0 (42.4)	19.2 (18.8)	1.6 (1.6)	0.7 (0.7)	4.9 (4.6)
[25] 文化芸術の振興	20.9 (22.3)	43.3 (42.1)	27.0 (27.2)	3.1 (2.9)	0.6 (0.6)	5.2 (4.8)
[26] スポーツの振興	20.0 (21.3)	43.0 (42.2)	28.3 (27.8)	2.8 (2.9)	0.9 (1.0)	5.0 (4.7)

「多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』」の重要度について、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「交流人口の回復・拡大」73.6%が最も高く、次いで「文化芸術の振興」64.2%、「スポーツの振興」63.0%などとなっている。

図表 5-(5) 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』(重要度)



(6) 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』(満足度)

問34 計画の基本方針「多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』」の実現に向けて展開している[24]～[26]の分野について、あなたの＜重要度＞と＜満足度＞を、それぞれ1～5のうち、あてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

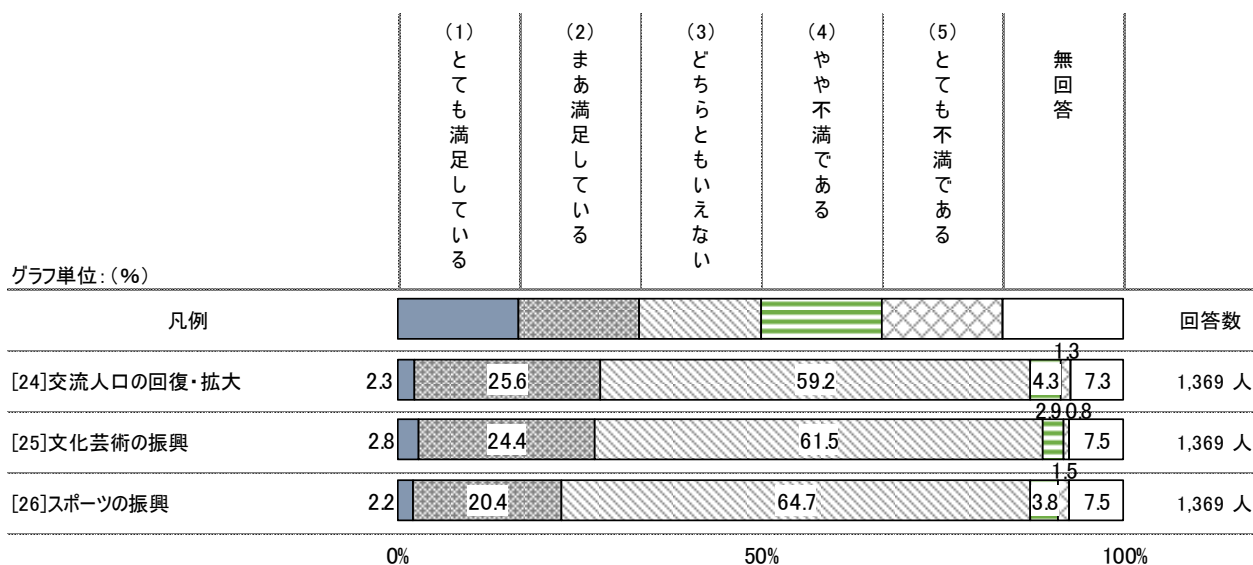
【回答者数=1,369】

(単位：%)

分 野	満足度					
	(1) とても満足している	(2) まあ満足している	(3) どちらともいえない	(4) やや不満である	(5) とても不満である	無回答
[24] 交流人口の回復・拡大	2.3 (2.6)	25.6 (26.4)	59.2 (58.1)	4.3 (4.7)	1.3 (1.2)	7.3 (6.9)
[25] 文化芸術の振興	2.8 (3.5)	24.4 (24.8)	61.5 (61.1)	2.9 (2.7)	0.8 (0.8)	7.5 (7.1)
[26] スポーツの振興	2.2 (3.0)	20.4 (20.6)	64.7 (63.3)	3.8 (4.5)	1.5 (1.6)	7.5 (7.0)

「多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』」の満足度について、すべての分野で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、特に「交流人口の回復・拡大」の満足度が高くなっている。

図表 5-(6) 多くの人が行き交い訪れたい香川をつくる『にぎわい100計画』(満足度)



(7) 不満とと思っている具体的な内容

付問 13～15 問 32～34 で＜満足度＞が「やや不満である」または「とても不満である」と答えた方は、よろしければ、不満とと思っている具体的な内容と、どのような改善が必要であるとお考えかをお答えください。

※記載いただいた内容は、『人生 100 年時代のフロンティア県・香川』実現計画で定めた施策体系（26 分野）に沿った形に整理し、要約・抜粋した意見を記載しています。

【1. 子育て支援社会の実現】（66 件中意見を抜粋）

昔のような地域のコミュニティがほぼ消滅していることが全ての根源。子どもの虐待も老人の孤独死も空き家問題も犯罪の低年齢化も振り込め詐欺も、全て昔のようなコミュニティが無くなったためである。いくら予算を投じてこの部分を何とかしないと駄目で、共同社会を復活させるべき。
平等で子育てしやすい社会にしてほしい。
子育てに必要な労力や経済的負担、時間に対してもっと支援があればいいと思う。教育費・給食費の無料化、オムツやミルクの支援、保育料の無料化など、経済的負担の軽減や病児保育、半日・1 日など短期、短時間の預かり保育、産休育休を充実させてほしい。また、支援や給付の手続きをもっと簡単にしてほしい。仕事を休まず、出かけず家にも支援を受けられるようになればいいと思う。
子どもを産み育てていても使える支援が少ない。県内で同じレベルで支援してほしい。
子どもたちが遊ぶ公園が無い。
少子化対策は必要だと思うが過保護すぎる。現金給付には反対である。例えば、母親が働きやすい環境の整備や不妊治療の枠を広げることなどに取り組むべきである。お金を出しても出生数が増えるとは思えない。
明石市をモデルケースとして参考にすればいいと思う。日本国内で成功している都市を手本に香川に足りていないところを補えばさまざまな問題も解決できるのではないかな。
働きながらの子育てができない。子どもが熱を出したり風邪を引いたりすると、結局仕事に支障が出る。また、仕事をしていると子どもの習い事の送迎ができない。幼稚園や保育園で、習い事をオプションで付けたり、送迎システムをもっと充実させてほしい。
保育園に入園できず、待ちの状態になっていることを聞く。育休に入ってしまうと片方の収入が無くなったり、減給してしまうので生活できるか不安。
何かを支援されていると感じられない。何を支援しているのか子育て世代に分かるようにしてもらえれば理解できるかもしれない。
支援施策をわかりやすく教えてほしい。
国の支援もそうだが、すべて自助。身体的負担も金銭的負担も増える一方。
職場での女性差別・経済的な問題から、結婚・出産を諦める若い方を増やさないという強い意志を持って、制度を作っていただきたい。
自治体によって取り組みに差があるのは良くない。
金銭の支給ではなく、子どもに行き届く内容に取り組んでほしいと思う。

【2. 教育の充実】（32 件中意見を抜粋）

共働き家庭への負担軽減。PTA 活動の負担軽減、預かりの充実化。
教員の質が不十分。
表立った教育ばかりに力を入れ、人間の心の教育がなっていない。
子どもたちが体験を通して主体的に学ぶ環境を整備してほしい。そのために教員の質・労働環境の改善、人員増を進めてほしい。
教員への負担押し付けではなく、退職後の人員を活用するなど、分担を細分化するべき。

教員不足と教員の負担が大きいと感じる。
給食費の全額無償化を目指しているようだが、減額してくれる程度でとても助かるので、その予算で他のことを計画してほしい。
人から教わるのではなく、自分で考えて行動できるような教え方へ。
学校はよく頑張ってくれているが地域での塾などの選択肢が少ない。少子化のため、やむを得ないところではあるが、人口の多い市町などに比べて環境が整っていない。
日本は教育にける金額が先進国の中で突出して少ない。国が積極財政に転換してもっとお金を出すべき。

【3. 男女共同参画社会の実現】 (29 件中意見を抜粋)

男女平等は他の県に比べ遅れていると思う。
男女間の所得の格差、活躍の場の差。
女性の管理職比率は低い。
女性の割合だけを増やすのでは無く、質の向上を考えるべき。
男女平等という割に女性ばかりなにかと優遇されているように感じている。レディース Day とか最近特に多い。
子どもがいると活躍の推進は無理。保育の充実が足りない。
女性だけでなく男女同じという自然としての見方が大事だと思う。
女性議員の増加が必要。
女性はこうだ、男性はこうだという考えが未だにある。
誰しもが活躍したいと思っていない。活躍したい人で能力の高い人が活躍できる多様性が必要である。
女性に働けという割に全然働きやすい環境になっていない。
学童保育が 18 時までしかみてくれないことで迎えが難しいことが多く働けない。
若い人は男女共同参画社会について前向きだが、年配の人たちには全く理解や知識がない人が多いので、そういった人に対して理解が得られると実現しやすいと思う。

【4. 健康長寿の推進】 (25 件中意見を抜粋)

一人暮らしの老人が増えている。地域のコミュニティ参加を増やせないか。
歯科検診の補助制度もあれば受診しやすい。
特に高齢者に対し健康づくりのための取り組みがない。
結局、車社会で都会ほどの便利さもないので、気軽に健康のためにジムに行ったりすることがない。車移動のために歩くことも少ない。
体力づくりができることを充実させてほしい。
健康を維持するため高齢者の雇用対策が必要。

【5. 地域福祉の推進】 (22 件中意見を抜粋)

車中心の道路のため歩行者の安全に不安がある。
障害者の就労支援が不十分である。就労先をもっと増やしたほうがいい。
駅がいまだに階段のみである。
高齢になって安心して住めるか不安。
地域の支え合い活動が必要。

【6. 安心できる医療・介護の充実確保】 (79 件中意見を抜粋)

休日、時間外などの急病で受け入れが困難。
運転免許を返納しているので病院に行くための交通手段がない。
医者に対して不満や意見がしづらく医者の評価をするところがない。薬の出しすぎである。
人手不足で待ち時間が長くバタバタ感がある。
地域包括支援センターの役割が不十分だと思う。
地元で質の高い医療が受けられない。
島の医療をもっと考えてほしい。大きな建物ができても島民にはいいと思えない。
家の近くに病院がないし、バスがないので通えない。
介護を必要としている人は増えているが、介護する人は不足気味。
今住んでいる地域に病院（個人も含む）が少ない。病院難民である。
過疎地域での医師、看護職員の確保。
住んでいる地域の近くに十分な医療を受けられる医療機関や医師が少ない。
医療費をもう少し安くしてほしい。
夜中に子どものことで受診したくても診てもらえるところなかった。受け入れてほしい。
介護サービスが以前に比べ高額で、必要になった時に利用できるか不安である。
離島の産婦人科医師が足りない。
障害者、高齢者が実質的に使えるサービスがない。難しいのは分かるが、求めるものが個々で違うのだから画一的な支援では使えない。
医療従事者および介護士の不足。
安全で質の高い医療の確保、医療従事者の人員確保・育成などが必要。
医療スタッフに無理なく働いてもらえば利用者へのサービスも向上するのではないか。
病院・育児・介護スタッフへの支援不足により人員確保が困難となり、待機児童や病院の閉院、介護待機などが見受けられる。互いに安心できる環境であってほしい。

【7. 防災・減災社会の構築】 (44 件中意見を抜粋)

地震等の初期対応から長期間対応のおおよその道筋を立てられる体制の構築や周知をしているのか。
南海トラフ地震に関する対策について、現状報告、達成率の発表、今後の対策項目の具体的な説明を行ってほしい。
復興政策への取り組み。
企業、地域との連携強化。避難訓練や防災意識の啓発などが不十分！
大きな地震等災害時の対策について情報を充実させてほしい。
一級河川でさえ、中・上流部の護岸が荒れ放題である。
耐震補強の遅れ。啓発の推進。
各家庭に住んでいる地域の防災・減災情報を提供してほしい。
防災について、ハザードマップの作成以外、県や自治体は何をしているのか知らないし、聞いたことがない。
職場・教育機関、在宅の方を含んでの避難訓練が必要。
地震発生時に家屋倒壊などで避難路が確保できるのか不安。
何かを強く発信しているとは思えない。
地震・風水害の時の避難場所がわからない。避難場所の水・食料品の確保をしているのか。
耐震診断の補助制度が周知されていない。

河川の護岸工事（かさ上げ）をしてほしい。集落より道路が高いため、川が氾濫した場合は道路で堰き止められて池のような状態になり危険。毎年台風が来るたびに避難等をしている。
防災意識の向上に関心が薄いと思われる。
川の堤防の整備が不十分。
津波防止のための堤防強化。
消防団等、街ぐるみでのコミュニティーによる助け合いを強化していただきたい。

【8. 安心して暮らせる水循環社会の確立】 (20 件中意見を抜粋)

高松砂漠（渇水）の後、水不足が改善されたのかどうか分からない。改善内容を示してほしい。
毎年水不足といわれており根本的な対策・将来設計を示し実行すべき。
水源ダムに水が十分溜まってほしい。
水道料金が高い。
水道管の古いところがある。

【9. 安全で安心できる暮らしの形成】 (40 件中意見を抜粋)

犯罪が増加し、見知らぬ訪問者を疑ってしまう。
夜間の暴走行為が絶えない。騒音がひどい。
車、自転車、徒歩全てにおいて、ルールを守らない人が多すぎるので、外に出ると危険だらけ。子どもより大人の教育が必要。きちんとルールを守る、知識をつけることが必要。
交通違反をしている人が多い。道路は良い所が多いが危険に感じる運転が多い。
交通マナーが悪すぎる。

【10. 定住人口の拡大】 (78 件中意見を抜粋)

若者が働く職場がないので若者が流出している。
若者が増加するような社会にしてほしい。もっと移住者増加が望ましい。
大卒者が地元に戻って職に就こうと思っても場がなく困っている。
定住人口を拡大するような施策を他県より行っているようには感じない。
人口減少もあり、しかたないと思う。
人口減に対してもっと重点的に対策をするべき。
人口減少が不満であるが、子どもに家に帰ることについて無理を言いたくない。
東京一点集中の見直し。
若者たちが定住してもまともな就職先がないのを改善する動きがない。
移住したい魅力がない。地域活動、子ども会活動が乏しい。
移住の促進や若者の定住促進の活動が少ないのではないか。
どのような活動をしているか不透明。若者が増えたという実感もない。
主に過疎地域の若者の定住を重視すべき。
東京からの移住促進。
若者が減っている。香川の魅力を上げれば移住者も増えると思う。
各地区での働き場所の確保、魅力アップ。
大きな商業施設がない。移住の支援金が少ない。働き口が少ない。
消滅可能性都市への対策。

【11. 魅力ある大学づくり】 (46 件中意見を抜粋)

大学の数が少なく、学べる内容も少ないので学生の学びの選択肢が制限されてしまう。大学を増やす、学部・学科を増やすなどの対策を希望する。
県内大学の個々の魅力が伝わってこない。他県の大学へ進学しがちのような気がする。
特色ある教育の実現（学科など）。
大学が地域に貢献しているとは思えない。それなら必要ない。
地元の大学の数が少ない、地元の大学の良さのPRが足りない。
香川にある良い素材や食品などをもっと県外に広める活動を大学でも積極的に取り組んでほしい。それが大学の魅力にもつながると思う。
私大、国公立大学も県の中央市へ誘致すべきである。
国内で自慢できる分野がほしい。
地域との交流を深めてほしい。
優秀な人は県外の有名大学等へ流出するのは致し方ないが、地元企業が積極的に大学と連携し人材育成することで地元企業への就業率を高めることが必要ではないか。

【12. 人権尊重社会の実現】 (17 件中意見を抜粋)

同和問題ばかり聞いても仕方ない。改善できる問題でしょうか。ネット社会に問題がある。もっと厳しくすべき。
今の若い人たちは、こんな問題さえ気にしておらず、高齢者の意識改革の方が大事だと思う。
何が人権侵害なのか明確でない。人に人権侵害をしたくないし自分にされたくない。

【13. 青少年の育成と県民の社会参画の推進】 (8 件中意見を抜粋)

若い世代の非行、特に深夜徘徊や薬物乱用について抜本的な対策が必要。
一部でしか浸透しておらず意味がない。

【14. 商工・サービス業の振興】 (25 件中意見を抜粋)

企業誘致が不十分である。近年、首都圏の企業の誘致に成功しているが、若者の大都市圏への流出に歯止めをかけるためにも、より一層、企業誘致に努める必要がある。
デジタル化とその人材の育成。
雇用の安定に向け、大企業の誘致が必要である。
大企業には真似できない地域の強みを生かすことができる中小事業者は、資本力が無いため、できることが限られている。中小事業者へのサポートが少ないと思うので、サポートを増やしたり、官民一体となった取り組みを増やしてほしい。
大規模な商業施設がない。働き口が少ない。
人手不足への対応。

【15. 交通ネットワークの整備】 (113 件中意見を抜粋)

公共交通機関の利便性の低下。
地域に交通手段はない。
車に乗る人はよいが、免許を返納した人等は外出するのに移手段がない人が多い。循環バス等を充実させてほしい。
現時点では自家用車しか交通手段がないので将来的に不安である。
過疎地域の高齢者の移手段が限られており、無料タクシーチケットを配布するなど改善が必要。

県立高校行きの路線バスが減便や経路変更で通学が不便になっているので、見直しをお願いしたい。
地区によっては、他の地区に比べて道路整備が非常に遅れている。
新しい道路を造るより、今ある道路が子どもや高齢者に安全なのか再チェックしてほしい。
人口減少による交通ネットワークの縮小。
車に乗らなくても移動が可能な体制ができていない。
高松空港からの国内路線の拡大。北海道、名古屋、東北など。公共バス路線の充実、運行地域や本数の増加。民間バスだけでは無理である。高齢化社会で必要。
高齢者の免許返納後の交通手段の確保。
高齢者の通院や買い物に利用できるような乗合バスなどを増やしてほしい。
人が減るのにこれ以上道路が必要か。高速道路を地域住民が安く使えれば渋滞解消できるのではないか。
高齢者にはバスは使いにくい。広告の車体ではなく、簡略な地図と行き先が分かるように全国に先駆けて工夫してほしい。

【16. 農林水産業の振興】 (64 件中意見を抜粋)

一次産業就業者が生活できるようにしてほしい。
若い力を集結できる施策をするべきで、後継者問題を真剣に考えてほしい。
農林水産業に携わる若い人を支援してほしい。
農業の担い手不足、天候によって左右される農作物の量。
漁業の担い手がいなくなっている。海の環境が悪くなり、魚や海苔がとれなくなっている。森林の保全を求める。
今、農業に取り組んでいるが、10年後、20年後の農業を行う人材は何人いるのか心配。いくら働いても赤字というのではなく、農地を守っていくために30年～50年後も農業経営を続けられるよう支援してほしい。
農業・漁業の魅力の発信不足。
耕作放棄田畑や里山の放置による地域環境の悪化。
少子高齢化でますます担い手不足。資金援助が必要。
後継者、担い手不足、JAと協力して新しい人材の開拓、発掘。
儲からないから第一次産業が廃れる。価値観の勉強をし直すべき。
気候変動に左右されない安定した生産、供給体制づくり。魅力ある農業のPR推進。
農林水産業への担い手確保、育成が不足している。
重労働なので従事したくない。
山や田畑が荒れている。
第一次産業の人手不足の解消に努める。
農作物価格の低迷。基盤の劣化。
農地の宅地転用が進んでいる。後継者が減少している。魅力がない。
農林水産業への関心を生み出す活動、雇用の安定化。
円安の昨今、県内産が充実していればさほど問題ないはず。
県内の食料自給率100%を目標にすること。
生活圏で取り組み効果が見えない。

【17. 県産品の振興】（8件中意見を抜粋）

まとめて県産品を扱っている場所が少ないので増やしてもよい。
東京でアンテナショップがどこにあるのか香川県民にも知らせてほしい。東京に住んでいてもどこにあったのか未だに分からない。もったいない。
バリエーションがとにかく少ない。あるようで、ない。お土産はいつもうどんになる。
県内産のプロモーション活動。

【18. 雇用対策の推進】（43件中意見を抜粋）

子育て中の人々の勤務状況についてもっと柔軟に対応してほしい（時短、早退への理解）。
若者の正社員化及び教育などが必要。
土・日仕事をしている職業では、今の若い人を中心に働き手がいない。募集してもエントリーされな い。このままでは土・日休みの企業だけしか生き残れない。
人材の不足。
子どもがいると働き口が少ない。
非正規雇用をなくす。
離職率の多さ。雇用側にも研修等が必要な時代。
若い人材が少なく働き方が大変になったと感じる。
地元で働こうにも、選択肢が少なすぎる。

【19. 外国人材の受入れ支援・共生推進】（37件中意見を抜粋）

コミュニケーションがとりにくいと思う。
不法滞在者をなくす。
外国人材についてもっと研究・勉強することが人口減少の歯止めになると思います。
色々教えて継承、定住してほしいのに数年でいなくなるのが残念。
県が活動している支援策などが見えない。

【20. 環境の保全】（20件中意見を抜粋）

水・山等の整備。
山間部や水面の太陽光発電は環境破壊行為である。太陽光発電は建築物などの人工物に施工されるべきである。太陽光パネルの処分方法や、100年後の姿を検討するべき。
生活をしていて推進されていると感じる変化が分からないから。
電動化に気を取られているが、いずれバッテリーの廃棄が社会問題になると思う。

【21. みどり豊かな暮らしの創造】（14件中意見を抜粋）

重要な項目と考えるが具体的な成果が見えてこない。活動内容・成果をもっとPRすべきと考える。
働いている人も参加できるように企業と連携して取り組んでほしい。
放置された木々が増加している。整備には費用がかかる。
子供が遊べる緑豊かな公園がないので、作れないか。

【22. 活力ある地域づくり】 (19 件中意見を抜粋)

幼、小、中学校の合併や、地方の過疎化の進展など、改善は難しいと思われる。
バス停までの距離が家から遠すぎてバスの利用が高齢者にはものすごく大変。定額タクシーみたいなものがないと高齢者は移動手段がない。そのため、子どもや高齢者が集まることができない。そういう場があれば地域みんなで子育てに協力してもらえりし、高齢者も元気でいられるし、働きながら若い人も住める町になると思う。
地域集落に活力がない。集会でも特に話すことがなく、どうすればいいかもわからない。
各分野の施策においても、そこに住む人（定住者）が必要である。人口減少に伴い、その確保が根本的なものであり、人が少ないのにそこに投資してもリターンがあるのか、見極めないといけないと思う。

【23. デジタル化の推進】 (43 件中意見を抜粋)

DX 推進化の方向性、達成度が明確に示されていない。
デジタル化によって取り残される人がいる。
マイナンバーなど不要である。
デジタル化弱者への支援。
デジタル化は進める必要はあるが、高齢者も扱いやすいシステムをもっと考えたほうが良いと思う。

【24. 交流人口の回復・拡大】 (31 件中意見を抜粋)

全項目に共通して、「香川県だから」「あれがあるから」というような強みのようなものを感じない。住民が魅力を紹介できないくらいぱっとしない県。「〇〇があるから香川県においでよ」と言えるくらいのシンボルがほしい。
今のままで十分。県外のように、観光客のために地域住民が被害を被ることもある。
どのような観光資源があるかわからない。
観光、文化、スポーツはきれい事。日々の仕事を一流にすること。

【25. 文化芸術の振興】 (26 件中意見を抜粋)

「瀬戸芸」を大事にするより、地元で老人達の芸術活動の後押しをしてほしい。生き甲斐を取り上げないでほしい。年1～2回の展示場所の閉鎖など耳にしたことがある。
文化施設の老朽化がひどく、他県の人に恥ずかしい。
文化芸術を教える人が少ないのではないか。そのような体験をどこでしているのか知らない。文化のことは小・中学校を回ってぜひ教えてあげてほしい。
日本自体がもうすでに貴重な文化を失っている。手仕事で作っていた昔からのものなどはどんどん失われて、見向きもされないのが現状だと思う。
もっともっと香川の歴史・文化を深く掘り起こすべきである。

【26. スポーツの振興】 (28 件中意見を抜粋)

競技力の前に体力の向上が必要だと思う。体育の授業の質をあげて、多くの子ができるを体験できるようにすれば人口も増えると思う。そして競技力の向上にもつながると思う。
県出身のプロ選手が少ないので、育成の強化が必要。
地域で気軽に参加できるスポーツイベントなどの開催をしてほしい。
幅広い年齢層、それぞれのステージで活躍できる競技、またはその競技環境の充実が必要である。

(8)「子育て費用の社会的支援」について

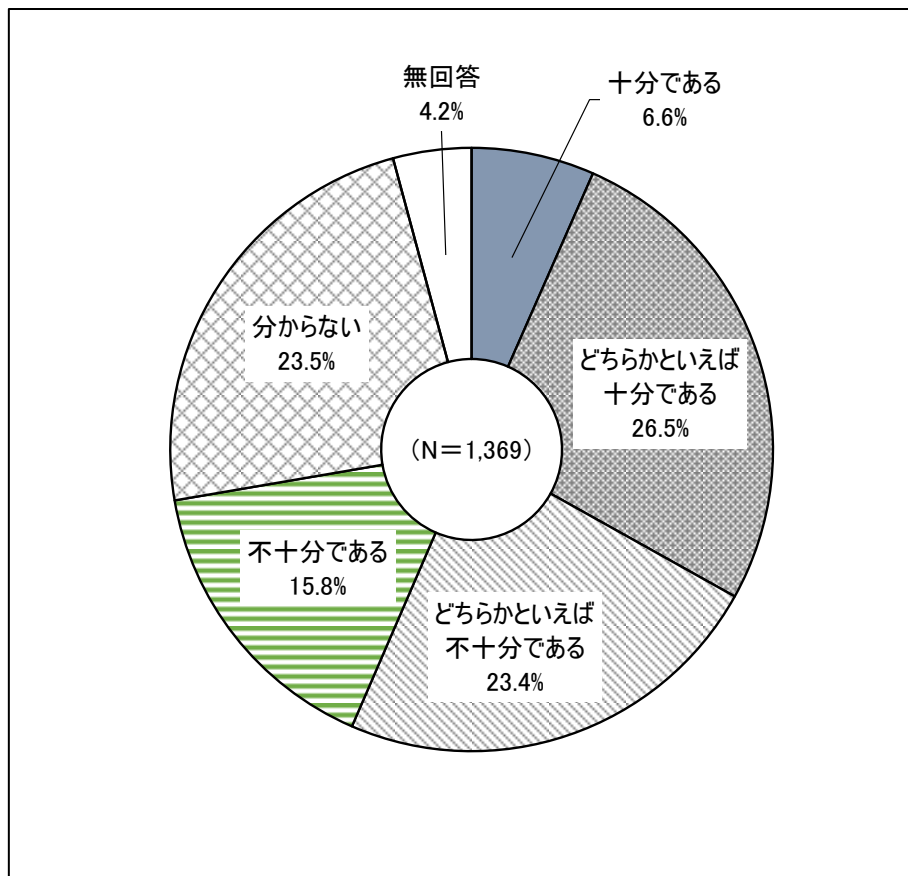
問35 あなたは、子育てにかかる費用について、社会的支援がなされていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 十分である	6.6%(6.4%)
2 どちらかといえば十分である	26.5%(25.7%)
3 どちらかといえば不十分である	23.4%(23.6%)
4 不十分である	15.8%(17.3%)
5 分からない	23.5%(23.0%)
(無回答)	4.2%(4.0%)

「子育て費用の社会的支援」について、「どちらかといえば十分である」26.5%が最も高く、次いで「分からない」23.5%、「どちらかといえば不十分である」23.4%、「不十分である」15.8%となっている。

図表 7-(1)-1 「子育て費用の社会的支援」について



(9)「男女共同参画」について

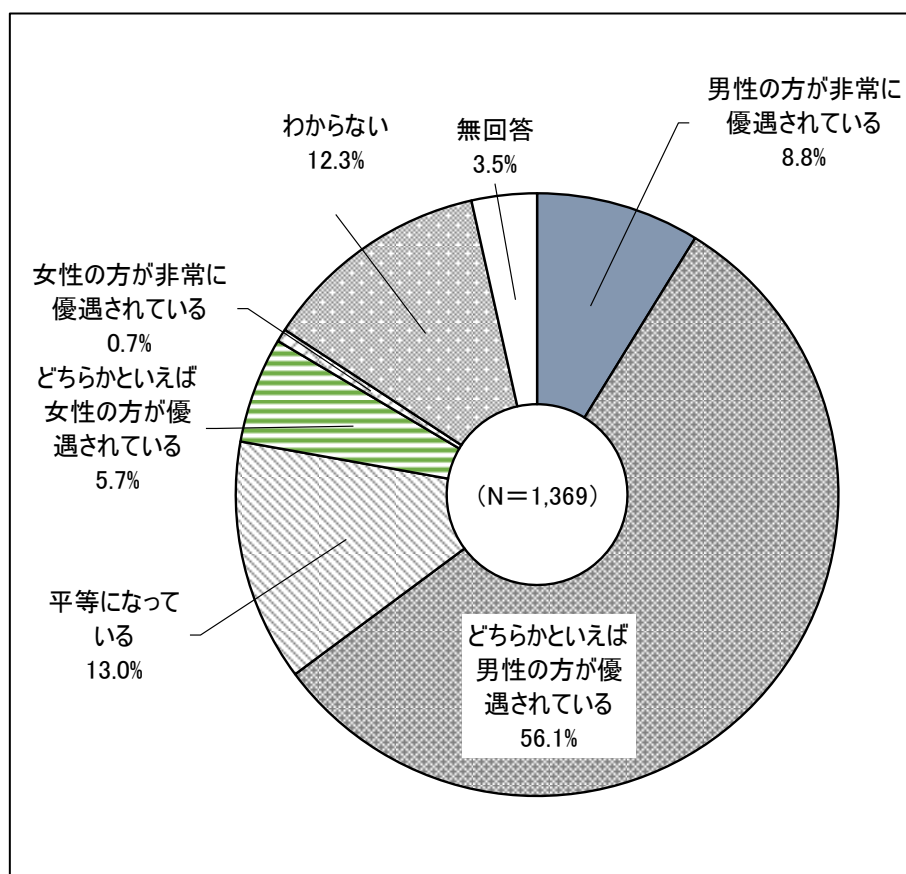
問36 あなたは、社会全体における男女の地位について、平等になっていると思いますか。次の中から1つだけ選んでください。 ※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 男性の方が非常に優遇されている	8.8% (9.4%)
2 どちらかといえば男性の方が優遇されている	56.1% (54.4%)
3 平等になっている	13.0% (13.5%)
4 どちらかといえば女性の方が優遇されている	5.7% (5.9%)
5 女性の方が非常に優遇されている	0.7% (0.8%)
6 分からない	12.3% (12.5%)
(無回答)	3.5% (3.4%)

「男女共同参画」について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」56.1%が最も高く、次いで「平等になっている」13.0%、「わからない」12.3%、「男性の方が非常に優遇されている」8.8%などとなっている。

図表 7-(2)-1 「男女共同参画」について



(10)「配偶者等からの暴力」について

【事実婚や別居中の夫婦、生活の本拠を共にしている交際相手などを含む配偶者等からの暴力(身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、生活費を渡さないなど経済的暴力)を受けた経験のある方にお聞きします】

問37 あなたは、あなたの配偶者等から暴力を受けたとき、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】※回答数の多い順に並び替え

1 身近な人に相談した	6.9%(7.0%)
2 どこ(だれ)にも相談しなかった	6.6%(6.4%)
3 公的な相談機関等に相談した	2.1%(2.3%)
4 民間の専門家や専門機関に相談した	1.0%(1.2%)
5 医療関係者に相談した	0.7%(0.7%)
6 学校関係者に相談した	0.7%(0.8%)
7 その他	1.2%(1.0%)
(無回答)	83.1%(83.0%)

「配偶者等からの暴力」について、「身近な人に相談した(家族、友人、知人、職場の同僚など)」6.9%が最も高く、次いで「どこ(だれ)にも相談しなかった」6.6%、「公的な相談機関等に相談した」2.1%、「民間の専門家や専門機関に相談した」1.0%などとなっている。

図表 7-(3)-1 「配偶者等からの暴力」について

	割合	回答数
全体	100.0	1,369人
(1) 身近な人に相談した	6.9	95人
(2) どこ(だれ)にも相談しなかった	6.6	90人
(3) 公的な相談機関等に相談した	2.1	29人
(4) 民間の専門家や専門機関に相談した	1.0	14人
(5) 医療関係者に相談した	0.7	10人
(6) 学校関係者に相談した	0.7	9人
(7) その他	1.2	16人
無回答	83.1	1,137人

グラフ単位:(%)

(11)「節水」について

問38 あなたは、普段の生活で節水をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。

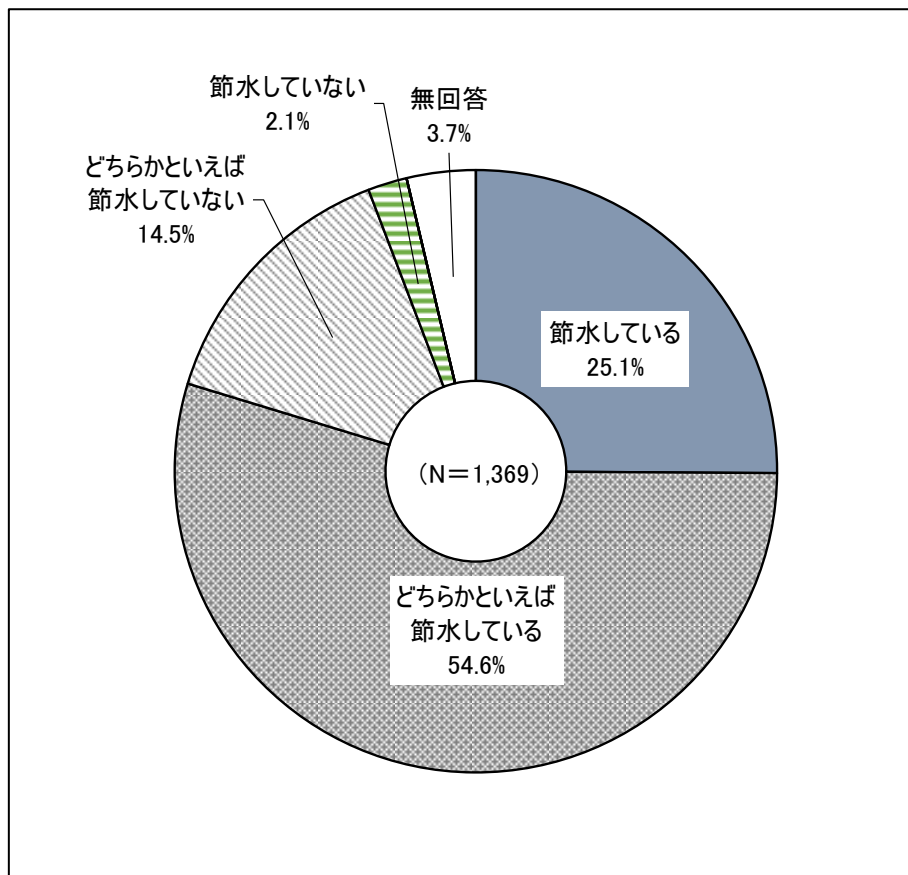
※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 節水している	25.1%(23.6%)
2 どちらかといえば節水している	54.6%(54.6%)
3 どちらかといえば節水していない	14.5%(15.4%)
4 節水していない	2.1%(2.6%)
(無回答)	3.7%(3.7%)

「節水」について、「どちらかといえば節水している」54.6%が最も高く、次いで「節水している」25.1%、「どちらかといえば節水していない」14.5%、「節水していない」2.1%などとなっている。

図表 7-(4)-1 「節水」について



(12)「運動・スポーツ」について

問39 過去1年間に、運動やスポーツ（ウォーキング（例：散歩・ぶらぶら歩き・一駅歩き）、階段昇降、軽い体操（例：ラジオ体操・職場体操・美容体操）、野外活動（例：登山・キャンプ・釣り）などを含む。）を行った日数はどのくらいありますか。次の中から1つだけ選んでください。
 ※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,369】

1 週に3日以上	32.3%(31.9%)
2 週に1日～2日	25.9%(26.4%)
3 月に1日～3日	14.5%(15.3%)
4 3カ月に1日～2日	5.0%(5.2%)
5 年に1日～3日	5.8%(5.8%)
6 全く行わなかった	12.5%(11.6%)
(無回答)	3.9%(3.8%)

「運動・スポーツ」について、「週に3日以上」32.3%が最も高く、次いで「週に1日～2日」25.9%、「月に1日～3日」14.5%、「全く行わなかった」12.5%などとなっている。

図表 7-(5)-1 「運動・スポーツ」について

